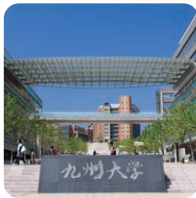


2019年度 学生生活実態調査 報告書

Student Life Survey Report 2019



目次

まえがき	1	(6) キャンパス内全面禁煙を受けて、 禁煙に対する意識の変化	27
調査の概要	2		
第1章 住居について		第5章 悩みについて	
(1) 居住地域	3	(1) 悩みの有無	28
(2) 住居形態	5	(2) 悩みの内容	29
(3) 住居(部屋)を選ぶ際に考慮した条件	6	(3) 悩みの相談先	30
(4) 家賃	6	(4) 相談窓口の認知度	31
(5) 九大の学生寄宿舍に入りたいと思うか	7	(5-1) ハラスメントを受けた経験	32
(6) 九大の学生寄宿舍に入りたい理由	7	(5-2) 自分が受けた ハラスメントの種類	32
(7) 九大の学生寄宿舍に入りたい理由	8	(6-1) 他人がハラスメントを受けて いるのを見た経験	33
(8) 希望する転居先	8	(6-2) 他人が受けていた ハラスメントの種類	33
第2章 通学・事故等について		第6章 生活について	
(1) 主な通学方法	10	(1) 睡眠時間	34
(2) 片道の通学時間	11	(2) 平日の起床時間のリズム	34
(3-1) 任意保険の有無(自転車)	11	(3) 授業以外のキャンパスの居場所	35
(3-2) 任意保険の有無(原付)	12	(4) 土日祝日に学校に行く理由	35
(3-3) 任意保険の有無(バイク)	12	(5) 現在、力を入れていること	36
(3-4) 任意保険の有無(自動車)	12	(6) 大学生活の満足度	37
(4) キャンパス間の移動頻度及び交通手段	13	(7) 大学生活の不満点	37
(5) キャンパス間の主な移動理由	16	(8) 1日のうち、勉学・研究以外の目的で インターネットを使用する時間	38
(6) 学内及びキャンパス間移動時に交通事故を 起こした経験(自損・被害を含む)	16	(9) SNSの利用状況	38
(7) 交通事故を起こした時の状況	17	(10) SNSの利用で危険な(嫌な)思いをした経験	39
(8) 学生の交通マナー	17	(11) 身の危険を感じた経験	40
(9) 学生の交通マナーでどのような点が良くないですか	18	(12) 身の危険を感じた内容	40
第3章 食事について		第7章 収入・支出について	
(1) 朝食の有無	19	(1-1) 1か月の平均収入額(平均金額)	41
(2) 朝食を食べていない理由	19	(1-2) 1か月の平均支出額(構成比)	42
(3) 食事の場所	20	(2) 家族等からの送金と修学との関係	43
(4) 学内の食堂の利用状況	21	第8章 アルバイトについて	
(5) 学内の食堂の改善すべき点	22	(1) アルバイトの状況	44
第4章 健康管理について		(2-1) アルバイトをしている理由	45
(1) 最近の体調	23	(2-2) アルバイトの職種	46
(2) 入学後に怪我をしたときの状況	24	(2-3) 1週間の勤務日数	47
(3) 怪我や体調不良の主な原因	25	(2-4) 1週間のアルバイト時間	47
(4) 身体面、心理面での悩みの解消方法	26	(2-5) アルバイト収入の使い道	48
(5) 喫煙の有無	27		

(2-6)アルバイトと学業の関係	……49
(2-7)アルバイトの勤務地	……50

第9章 課外活動(サークル、ボランティア)について

(1)サークル(課外活動)への参加状況	……51
(2-1)サークルに加入した主な理由	……52
(2-2)サークルの満足度	……53
(2-3)サークル活動の場所	……54
(2-4)1週間あたりのサークル活動時間	……55
(2-5)サークル活動と学業との関係	……56
(3)サークルに加入していない理由	……57
(4)ボランティア活動の経験	……58
(5-1)ボランティア活動の内容	……58
(5-2)ボランティア活動の頻度	……59
(5-3)ボランティア活動の感想	……59

第10章 入学・授業等関係について

(1)大学に入学した理由	……60
(2)志望校決定時に注目した情報	……61
(3)九大に入学した主な理由	……62
(4)大学院生の出身大学等	……63
(5)九大の大学院に進学した理由	……63
(6)現所属以外の大学院の受験の有無	……64
(7)大学院受験と並行した 就職活動の有無	……64
(8)授業内容の難易度	……65
(9)授業の満足度	……66
(10)授業に不満な理由	……66
(11-1)大学院生の研究環境の満足度	……67
(11-2)大学院生の研究環境に不満な理由	……67
(12)大学院生の学会参加等に必要 な費用の捻出元	……68
(13-1)学部・学科等の変更希望	……68
(13-2)学部・学科等を変えたい理由	……69
(14-1)大学院生の現在の所属の変更希望	……70
(14-2)大学院生の現在の所属を変えたい理由	……70
(15)教員と直接話す機会の有無	……71
(16)教員と直接話す機会が無い理由	……71
(17)教員ともっと直接話をしたいと思うか	……72
(18)教員に希望すること	……73
(19)電子システム(シラバス、学修支援 システム(M2B)など)の満足度	……74
(20)授業時間以外の学習に費やしている時間	……74
(21)授業時間以外の学習を行っている場所	……75
(22)1か月間の読書の状況	……76
(23)新聞を読む頻度	……76

(24)新聞を読まない理由	……77
(25)修学上の問題を抱えた経験	……78
(26)修学上の問題を相談する相手	……79
(27)大学のピア・サポート制度や学習相談を利用した経験	……80

第11章 図書館について

(1)図書館の利用頻度	……81
(2)図書館の利用目的	……82
(3)図書館でよく利用するスペース	……83
(4)図書館の満足度	……84
(5)電子ジャーナルの認知度	……84
(6)図書館に改善してほしいこと	……85

第12章 卒業後の進路について

(1)卒業後の進路希望	……86
(2)将来の就職に関して重要視するもの	……87
(3)希望する勤務地	……88
(4)就職に関して大学に希望すること	……89
(5-1)就きたい職業第1位	……90
(5-2)就きたい職業第2位	……91
(5-3)就きたい職業第3位	……91

第13章 海外渡航・国際交流について

(1)九大入学後に海外渡航をした回数	……92
(2)海外渡航の目的	……93
(3)交換留学制度の認知度	……94
(4)外国語での会話の状況	……94
(5)語学力を高めるために行っていること	……95
(6)留学や研究を目的とした海外渡航の意向	……96

第14章 自由記述

Q01 本調査について	……97
Q02 教育・研究体制について	……98
Q03 学生支援・相談体制について	……101
Q04 大学の経済支援等の諸制度について	……104
Q05 大学の施設・設備について	……107
Q06 大学生活全般について	……109
Q07 大学におけるダイバーシティ (人種・性別・障害等の多様性)への対応について	……112

ま え が き

この学生生活実態調査は、本学の学生一人ひとりが自己実現に向けて充実したキャンパスライフを送ることができるよう、在学生の生活・学習環境などの学生生活の実態を把握し、今後の学生支援の充実・改善に役立てるための基礎資料を得ることを目的として、4年ごとに実施しているものです。

近年、グローバル化や価値観等の多様化に伴い、大学を取り巻く社会状況や経済状態はめまぐるしく変化し続けています。それに伴い、学生自身のライフスタイルも大きく変化・多様化しており、そういった中で、本調査は、今の学生の置かれている状況や意見・要望を把握する重要な機会と位置付けることができます。

本報告書を熟読していただけるとお分かりになると思いますが、特徴的な側面として、例えば、以下のことが読み取れます。

- 1) 授業に臨むにあたっての、日常的な予習復習時間が少ない。
- 2) 「試験前以外には学習しない」学部生が多く、主体的・積極的な学習マインドセットが不十分。
- 3) 「授業に不満」を抱く学生(学部・大学院)の主な理由は、「授業に魅力がない」(約60%)。
- 4) ICT機器を利用した情報収集が主であり、主観を磨く源になる新聞の利用や読書量が非常に少ない。
- 5) 図書館開館時間の延長を希望する学生が多い反面、電子ジャーナル等の認知度が低い(特に学部生)。
- 6) 他大学からの大学院生入学者が増大傾向にある。
- 7) 経済的な困難から、学業・睡眠時間を犠牲にしてアルバイトを行う学生が一定数いる。
- 8) 通学に関する経済的負担の大きさに問題を感じている。
- 9) 悩み事を周囲に相談できずに一人で抱え込む学生が増えている。
- 10) 企業と直接交流ができる就職支援イベントの需要が増えている。
- 11) 自転車利用者の事故が多いが、道路交通法改正の認知度が低く任意保険加入者が少ない。

本学では、学生の修学相談、学習支援、留学・進学等の支援体制を充実させるだけでなく、経済支援、就職活動支援、学生相談体制等の充実・改善に取り組んできました。近年では大学独自の奨学金制度の創設や入学料・授業料免除手続きの簡素化、進路・就職アドバイザー及び英語対応可能なカウンセラーの増員などを行っています。しかし、今回の調査結果を踏まえると、学部生・大学院生の生活・学習環境のさらなる充実・改善のためには、新たな対策を講じていかねばならないと考えています。

本学は、2018年10月に伊都キャンパスへの移転を完了し、新たな環境において、最高水準の研究教育拠点を目指して邁進しています。本調査結果を、多くの教職員の皆さんがご活用いただき、学生一人ひとりが充実した学生生活を実感できるよう、ご指導ご支援くださることを心から願っております。

最後になりましたが、本調査にあたって、たくさんの調査項目に回答いただき貴重な情報を提供してくれた学生の皆さん、ならびに調査実施にご協力いただいた関係各位に厚くお礼を申し上げます。

2020年6月

九州大学理事・副学長
丸 野 俊 一

調 査 の 概 要

1. 調査の目的

本学学生の生活環境・学習環境など学生生活の実態を把握することにより、今後の学生支援の充実及び改善に役立てるため実施したものである。

2. 調査の組織

2019 年 6 月、九州大学学生支援委員会に「2019 学生生活実態調査実施部会」を設置し、さらに本部会に「学生生活実態調査実施ワーキンググループ」を設置して調査を担当した。

3. 調査の時期・対象

2019 年 10 月 1 日現在、学部と大学院に在籍する学生を対象とした。（休学者及び社会人学生は除く）

4. 調査の方法

担当係から調査票を対象学生に配布し回収を行った。

5. 回収状況

対象学生 17,323 名（学部生 11,381 名、大学院生 5,942 名）のうち、5,200 名（学部生 2,871 名、大学院生 2,329 名）から有効回答数を得て、回収率は 30.0%（学部生 25.2%、大学院生 39.2%）であった。

学部名	回答数	割合
共創学部	81	2.8%
文学部	149	5.2%
教育学部	25	0.9%
法学部	96	3.3%
経済学部	148	5.2%
理学部	395	13.8%
医学部	370	12.9%
医学部保健学科	166	5.8%
歯学部	66	2.3%
薬学部	168	5.9%
工学部	831	28.9%
芸術工学部	189	6.6%
農学部	170	5.9%
21 世紀プログラム	17	0.6%
合 計（人）	2,871	100%

学府名	回答数	割合
人文科学府	41	1.8%
地球社会統合科学府	7	0.3%
人間環境学府	93	4.0%
法学府	1	0.0%
法務学府	32	1.4%
経済学府	18	0.8%
理学府	171	7.3%
数理学府	11	0.5%
システム生命科学府	44	1.9%
医学系学府	242	10.4%
医学系学府保健学専攻	35	1.5%
歯学府	79	3.4%
薬学府	72	3.1%
工学府	490	21.0%
芸術工学府	130	5.6%
システム情報科学府	180	7.7%
統合理工学府	304	13.1%
生物資源環境科学府	301	12.9%
統合新領域学府	77	3.3%
不 明	1	0.0%
合 計（人）	2,329	100%

6. 集計の方法

本書では調査結果を小数点第 2 位で四捨五入しているため、合計の数字が 100.0%にならない場合がある。

7. そ の 他

文中の「前回調査」とは、2015 年度学生生活実態調査を指す。

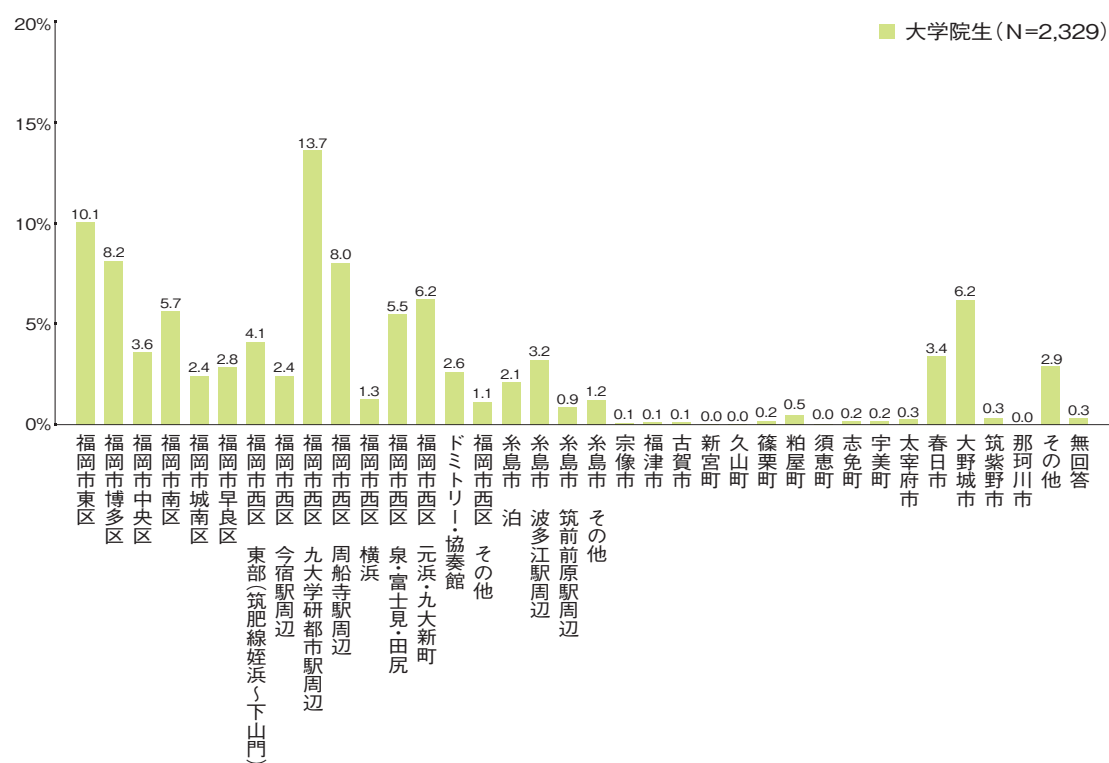
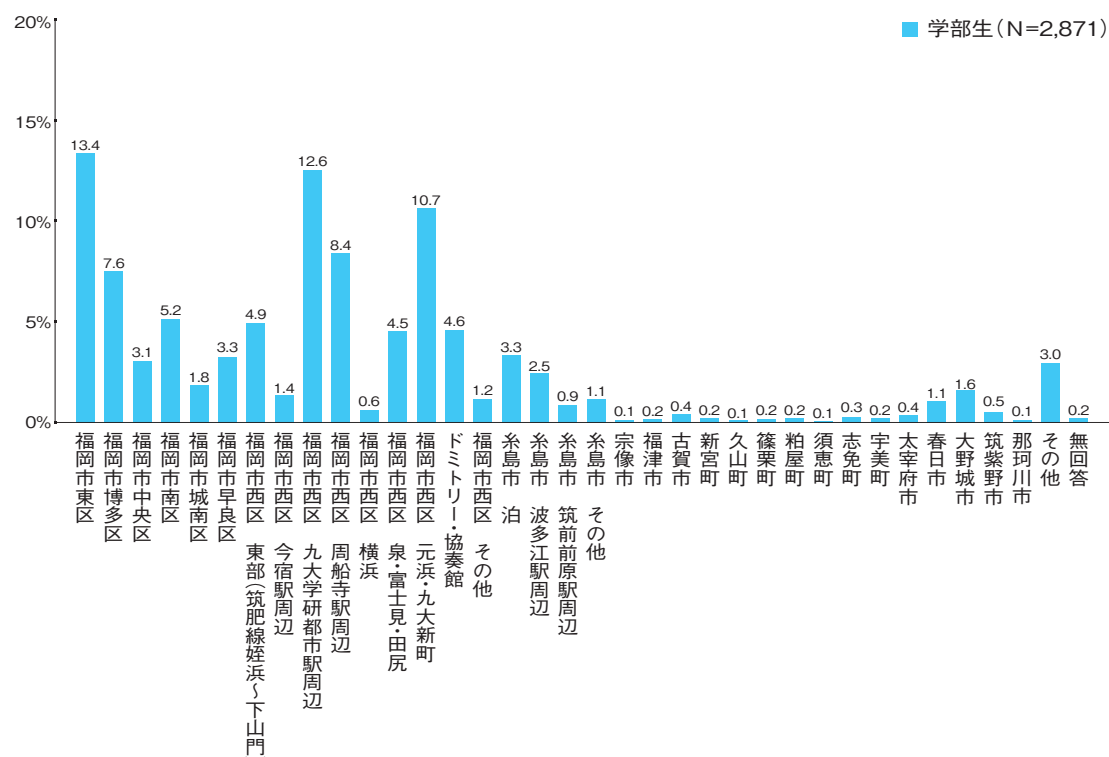
(1) 居住地域

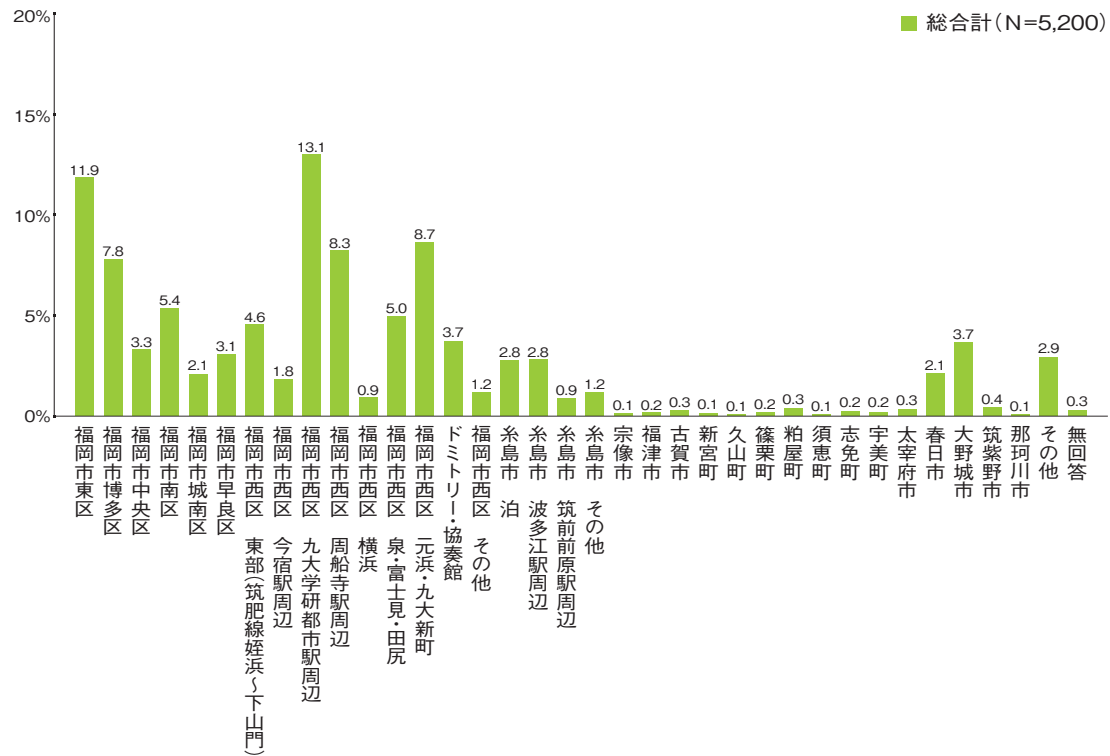
キャンパス移転前は、糸島半島(長垂山以西糸島市まで)には学生用の住居はありませんでしたが、移転とともに整備が進み、現在は伊都キャンパスに通う学生の71.4% (学部生69.1%、大学院生74.7%)が糸島半島に居住しています。

(人)	調査数	福岡市東区	福岡市博多区	福岡市中央区	福岡市南区	福岡市城南区	福岡市早良区	東部 (筑肥線 隈下門)	福岡市西区 今宿駅周辺	福岡市西区 九大学研都市駅周辺	福岡市西区 周船寺駅周辺	福岡市西区 横浜	福岡市西区 泉・富士見・田尻
学部生	2,871	385	217	88	148	53	94	142	39	361	242	18	130
大学院生	2,329	235	190	84	132	56	66	96	56	318	187	30	128
総合計	5,200	620	407	172	280	109	160	238	95	679	429	48	258

元浜・九大新町 福岡市西区	協奏館 ドミトリー・	福岡市西区 その他	糸島市 泊	糸島市 波多江駅周辺	糸島市 筑前前原駅周辺	糸島市 その他	宗像市	福津市	古賀市	新宮町	久山町	篠栗町	粕屋町	須恵町	志免町	宇美町
306	132	34	96	71	25	33	4	5	12	6	3	5	7	2	8	6
145	61	26	49	75	20	28	2	3	3	1	1	4	11	1	4	4
451	193	60	145	146	45	61	6	8	15	7	4	9	18	3	12	10

太宰府市	春日市	大野城市	筑紫野市	那珂川市	その他	無回答
11	31	46	15	4	85	7
6	79	144	8	0	68	8
17	110	190	23	4	153	15

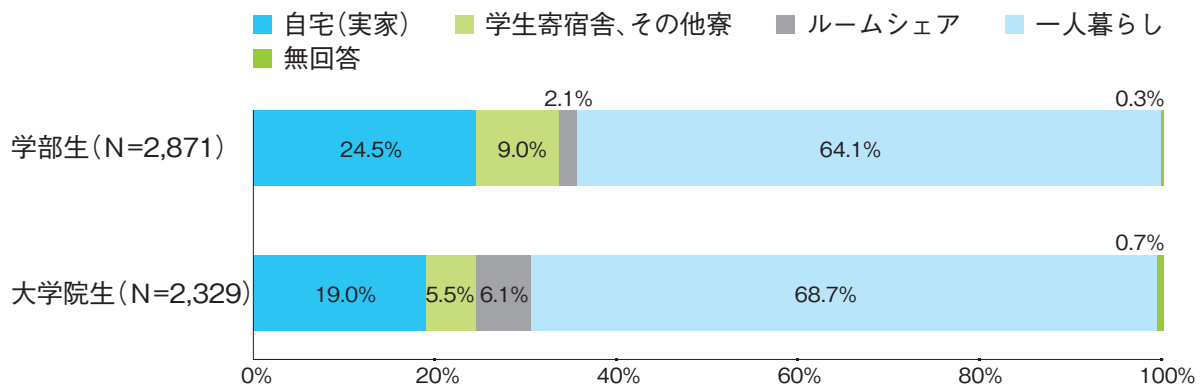




(2) 住居形態

前回の調査より、一人暮らしの割合が増加しました(学部生 62.4%→64.1%、大学院生 66.9%→68.7%)。伊都キャンパス周辺に学生向けの住居が増えたことが関わっていると考えられます。

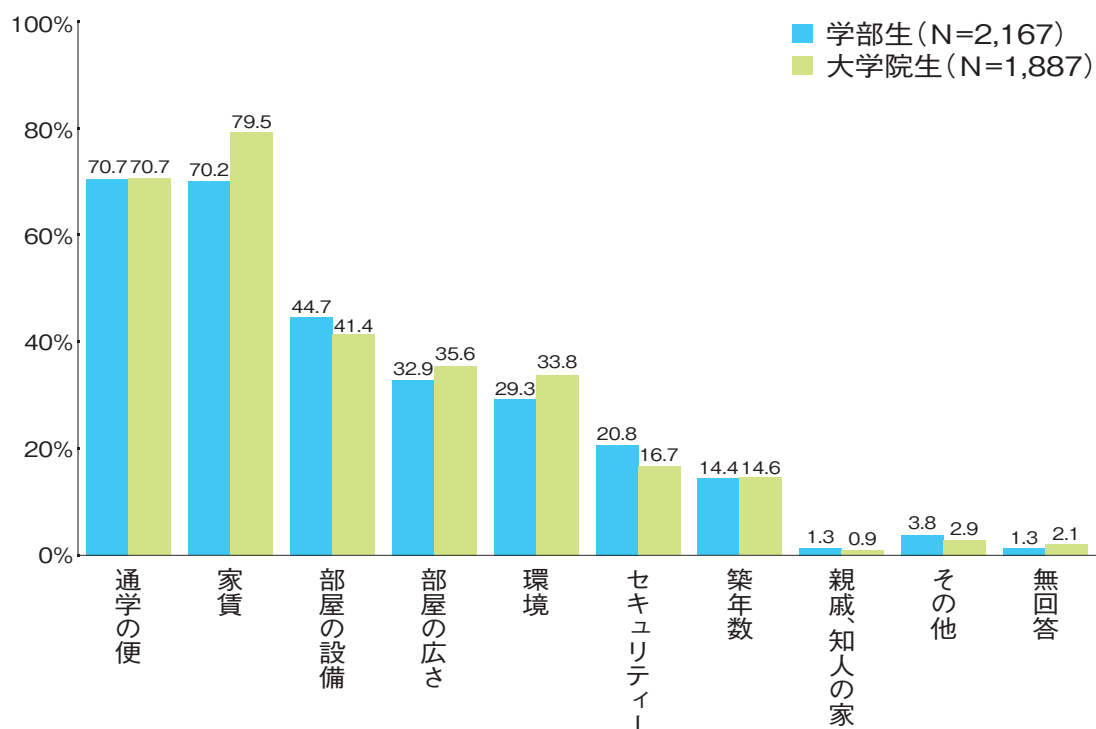
(人)	調査数	自宅(実家)	学生寄宿舍、その他寮	ルームシェア	一人暮らし	無回答
学部生	2,871	704	259	59	1,841	8
大学院生	2,329	442	127	143	1,600	17



(3)住居(部屋)を選ぶ際に考慮した条件【複数回答可】

前回調査と同様、「家賃」「通学の便」が上位にあがっています。部屋の設備や広さも選ぶ基準としてあがっています。

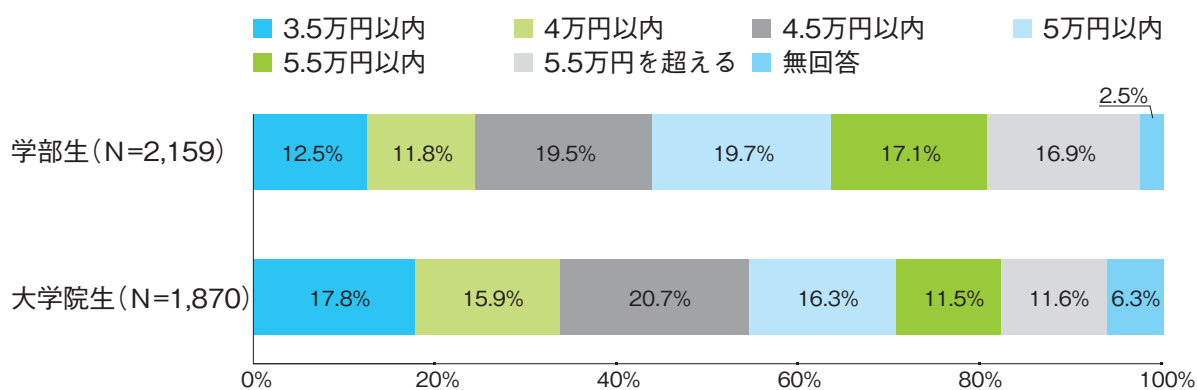
(人)	調査数	通学の便	家賃	部屋の設備	部屋の広さ	環境	セキュリティー	築年数	親戚、知人の家	その他	無回答
学部生	2,167	1,531	1,521	969	713	636	450	312	29	82	29
大学院生	1,887	1,335	1,500	782	671	638	315	275	17	55	40



(4)家賃

4～5万円台を中心におおよそ均等に分布しているようです。

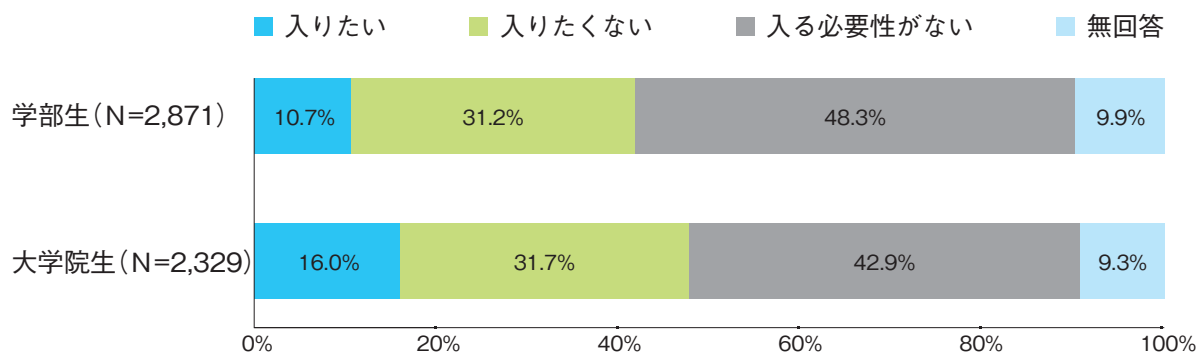
(人)	調査数	3.5万円以内	4万円以内	4.5万円以内	5万円以内	5.5万円以内	5.5万円を超える	無回答
学部生	2,159	270	255	421	425	369	364	55
大学院生	1,870	332	297	388	304	215	217	117



(5) 九大の学生寄宿舍に入りたいと思うか

全体の傾向は前回調査と大きくは変わりませんが、「入りたい」が大学院生で幾分増加しています（学部生 10.4%→10.7%、大学院生 14.3%→16.0%）。

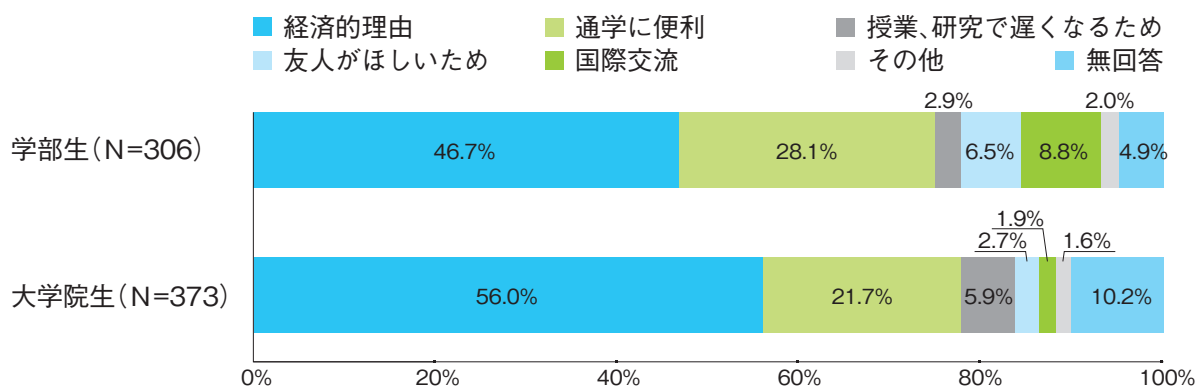
(人)	調査数	入りたい	入りたくない	入る必要性がない	無回答
学部生	2,871	306	895	1,387	283
大学院生	2,329	373	739	1,000	217



(6) 九大の学生寄宿舍に入りたい理由

(5)で「入りたい」と答えた学生にその理由を尋ねたところ、前回調査同様、「経済的理由」が約半数と最も多く、「通学に便利」が続いています。

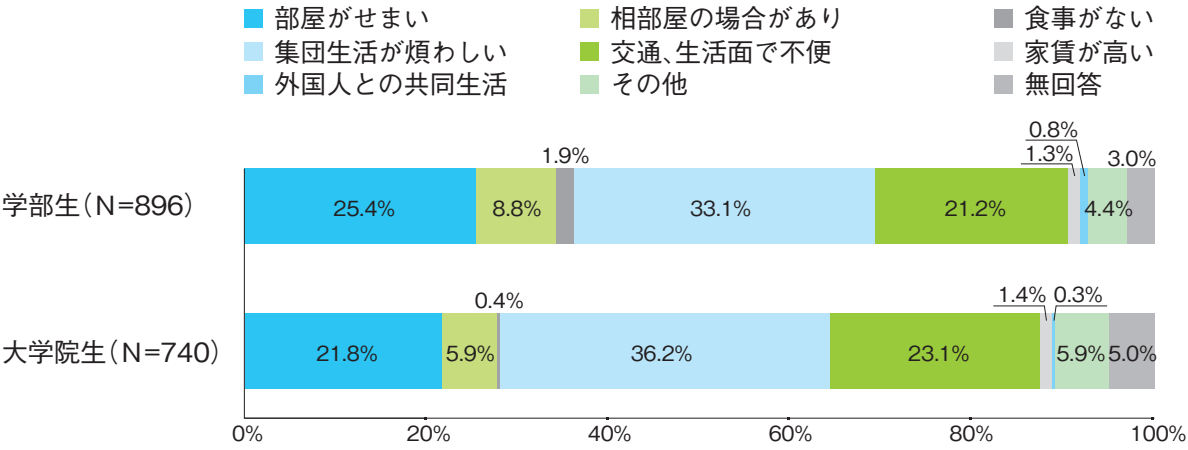
(人)	調査数	経済的理由	通学に便利	授業、研究で遅くなるため	友人がほしいため	国際交流	その他	無回答
学部生	306	143	86	9	20	27	6	15
大学院生	373	209	81	22	10	7	6	38



(7)九大の学生寄宿舍に入りたくない理由

(5)で「入りたくない」と答えた学生にその理由を尋ねたところ、「部屋がせまい」「集団生活が煩わしい」「交通・生活面で不便」が大半を占めていました。特に「集団生活が煩わしい」の割合が高くなっています。

(人)	調査数	部屋が せまい	相部屋の 場合が あり	食事が ない	集団生活 が煩わし い	交通、 生活面で 不便	家賃が 高い	外国人と の共同 生活	その他	無回答
学部生	896	228	79	17	297	190	12	7	39	27
大学院生	740	161	44	3	268	171	10	2	44	37



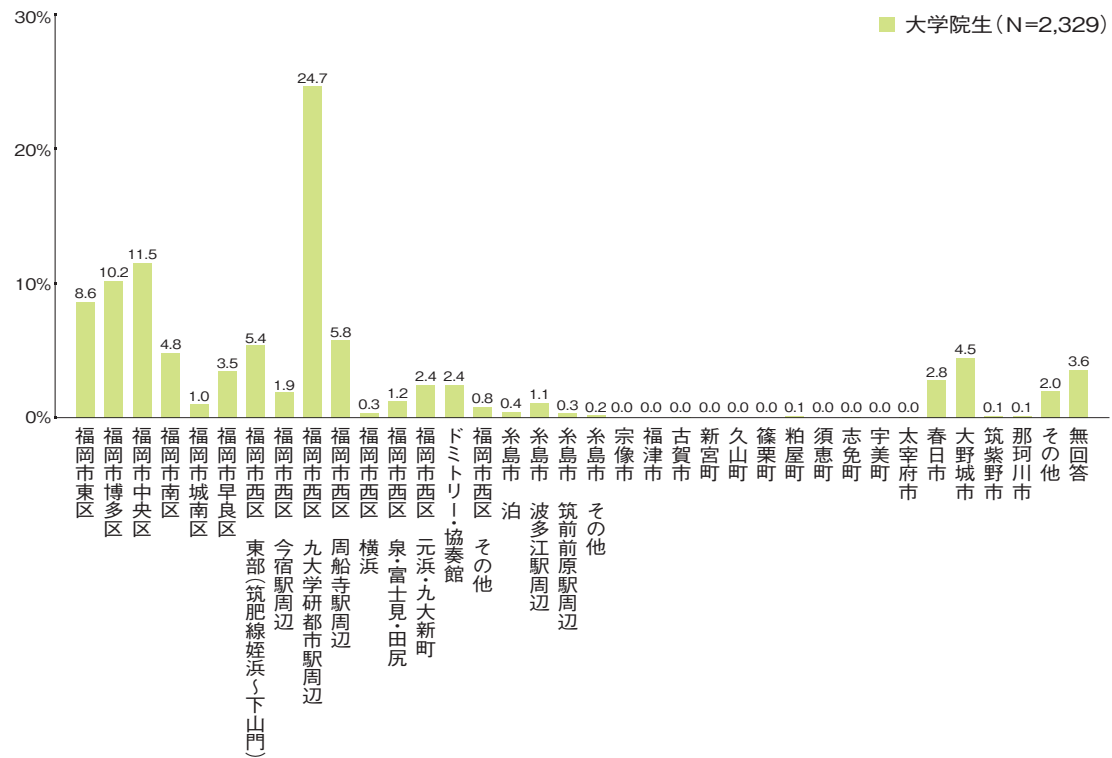
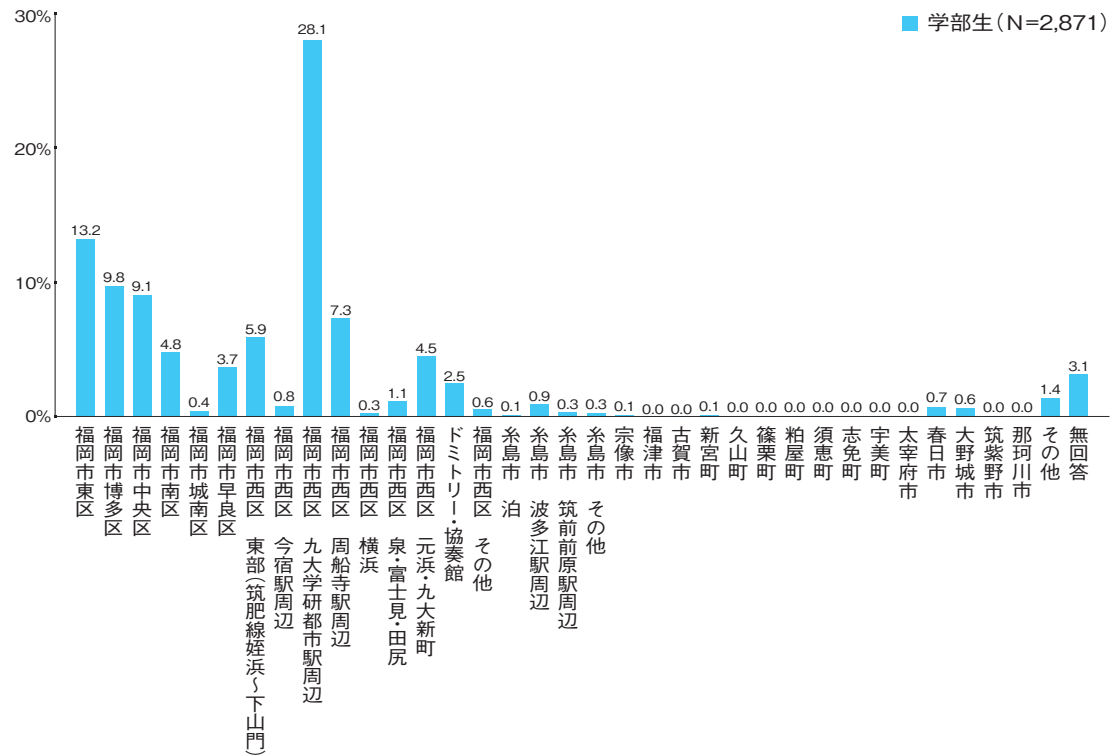
(8)希望する転居先(転居に要する費用や手間は無視とした場合)

キャンパスの近くのエリアの人气が高く、移動時間や交通費を節約したいと考える学生が多いことがうかがえます。また、福岡市東区、博多区、中央区を好む学生も一定数いることがわかりました。

(人)	調査数	福岡市東区	福岡市博多区	福岡市中央区	福岡市南区	福岡市城南区	福岡市早良区	東部 (筑肥線 延々下門)	福岡市西区 今宿駅周辺	福岡市西区 九大学研都市駅周辺	福岡市西区 周船寺駅周辺	福岡市西区 横濱	福岡市西区 泉・富士見・田尻
学部生	2,871	380	280	261	137	11	106	170	23	806	211	8	33
大学院生	2,329	201	238	268	112	23	81	126	44	576	135	8	28

元浜・九大新町	福岡市西区 協奏館	ドミトリー・ その他	福岡市西区 泊	糸島市 波多江駅周辺	糸島市 筑前前原駅周辺	糸島市 その他	宗像市	福津市	古賀市	新宮町	久山町	篠栗町	粕屋町	須恵町	志免町	宇美町
130	71	16	3	26	9	8	2	1	1	3	0	1	1	1	0	1
57	57	18	10	25	7	5	0	0	1	0	0	0	3	0	1	0

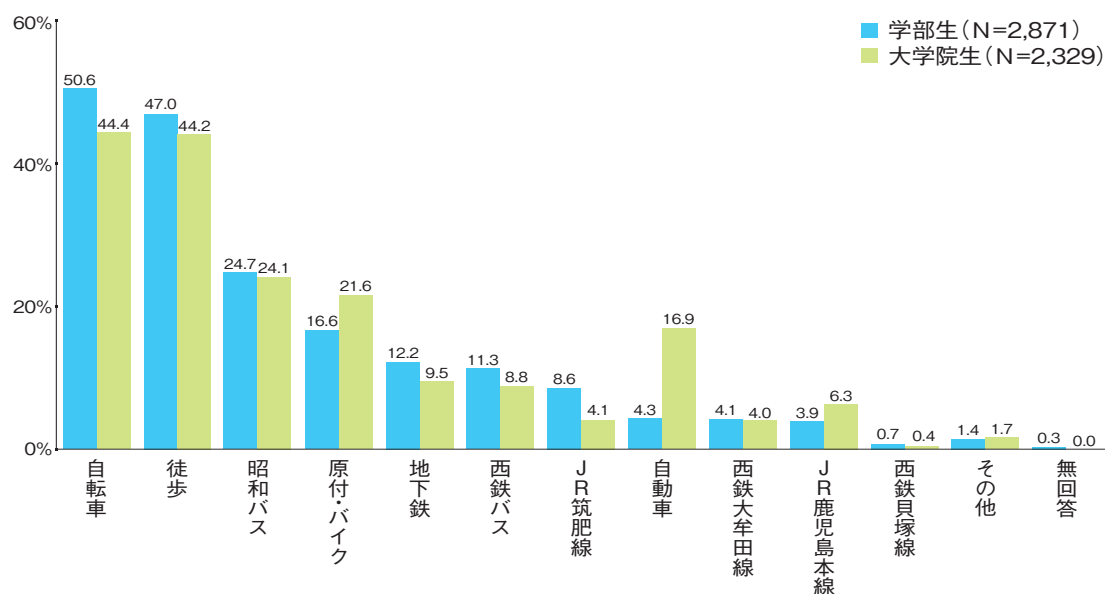
太宰府市	春日市	大野城市	筑紫野市	那珂川市	その他	無回答
1	21	18	1	0	40	90
1	65	104	3	3	46	83



(1)主な通学方法【複数回答可】

学部生、大学院生ともに自転車が最も多く、次いで徒歩が多いという結果となりました。学部生と大学院生とを比較すると、原付・バイクや自動車などの交通手段を持つ割合が大学院生の方が高いという特徴があります。

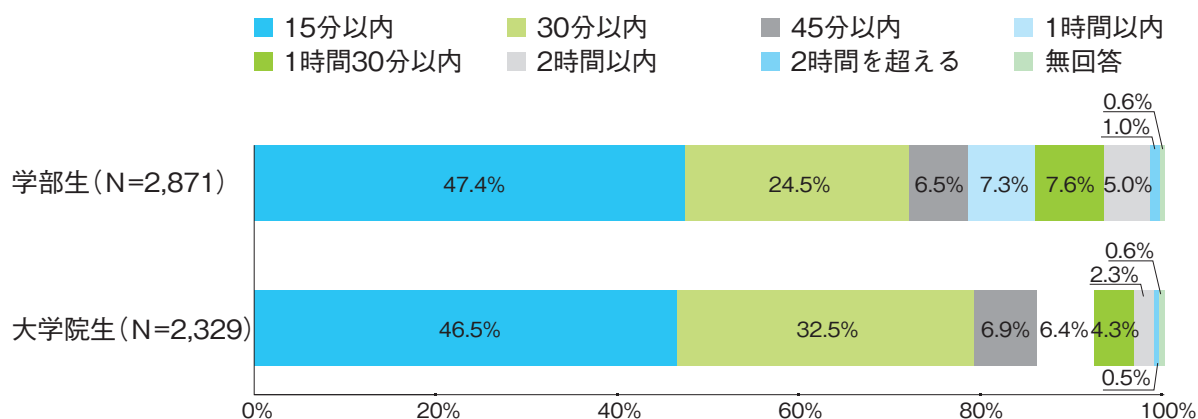
(人)	調査数	自転車	徒歩	昭和バス	原付・ バイク	地下鉄	西鉄バス	JR筑肥線	自動車	大牟田線 西鉄	鹿児島本線 JR	西鉄貝塚線	その他	無回答
学部生	2,871	1,453	1,350	710	477	351	325	246	123	119	111	21	41	9
大学院生	2,329	1,034	1,030	562	503	221	204	96	394	93	147	9	39	0



(2) 片道の通学時間

片道の通学時間は「15分以内」が半数近くに達し、「15～30分」と合わせると70%以上に達します。学部生、大学院生ともに学生の多くはキャンパスの近くに住んでいることがわかります。

(人)	調査数	15分以内	30分以内	45分以内	1時間以内	1時間30分以内	2時間以内	2時間を超える	無回答
学部生	2,871	1,361	704	187	211	218	144	30	16
大学院生	2,329	1,082	758	161	149	101	53	11	14

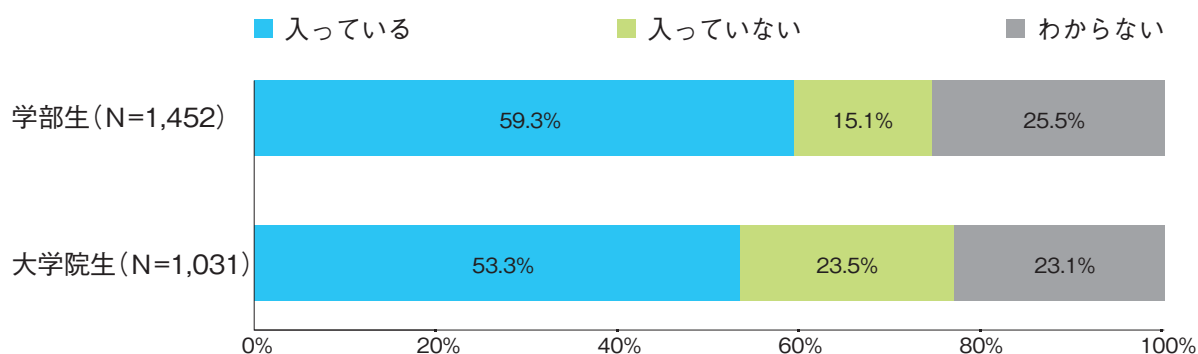


(3-1) 任意保険の有無(自転車)

前回の調査に比べ自転車の任意保険の加入率は増加しています(学部生 50.9% → 59.3%、大学院生 38.9% → 53.3%)。一方、約4人に1人が「わからない」と回答するなど、保険について無関心な学生も依然として多いようです。自転車通学が多いなか、さらなる意識の向上が求められます。

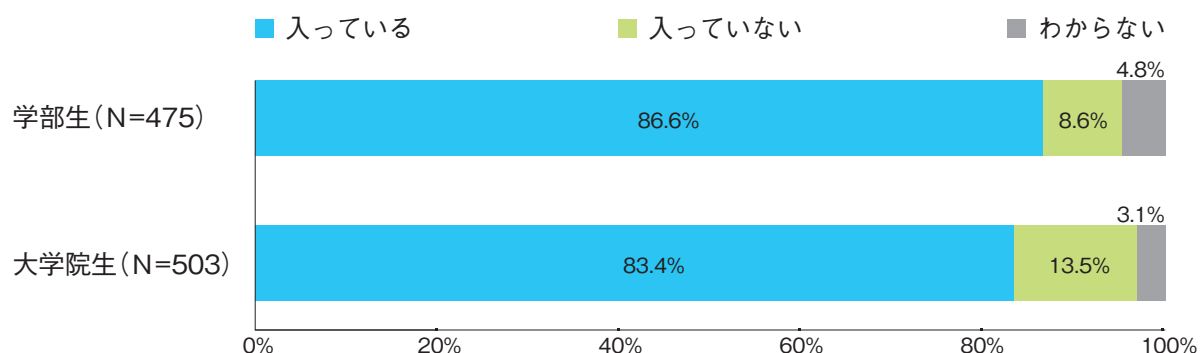
また、原付・バイク・自動車の任意保険加入率については、おおむね前回調査と同水準でしたが、バイク(学部生)のみ減少(88.9% → 82.7%)しています。

(人)	調査数	入っている	入っていない	わからない
学部生	1,452	795	203	342
大学院生	1,031	510	225	221



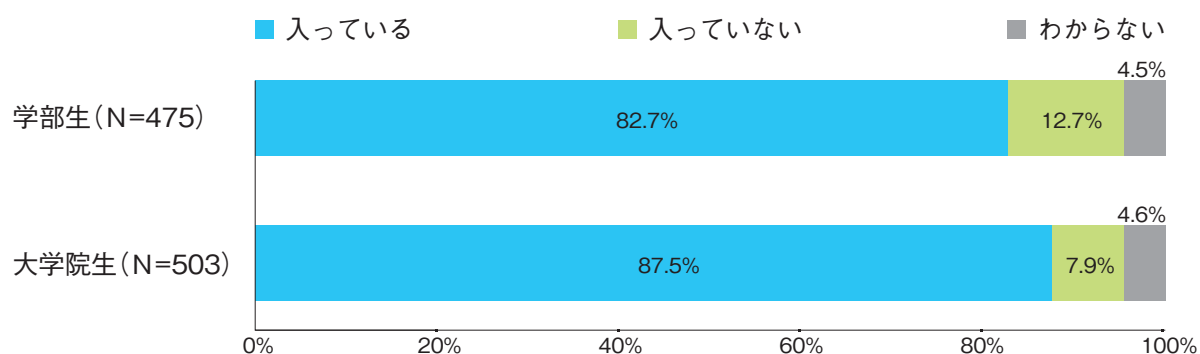
(3-2)任意保険の有無(原付)

(人)	調査数	入っている	入っていない	わからない
学部生	475	323	32	18
大学院生	503	296	48	11



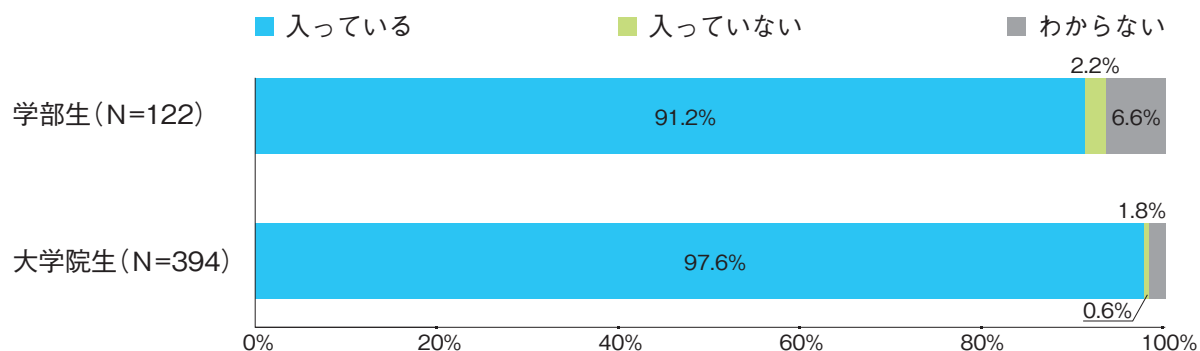
(3-3)任意保険の有無(バイク)

(人)	調査数	入っている	入っていない	わからない
学部生	475	91	14	5
大学院生	503	133	12	7



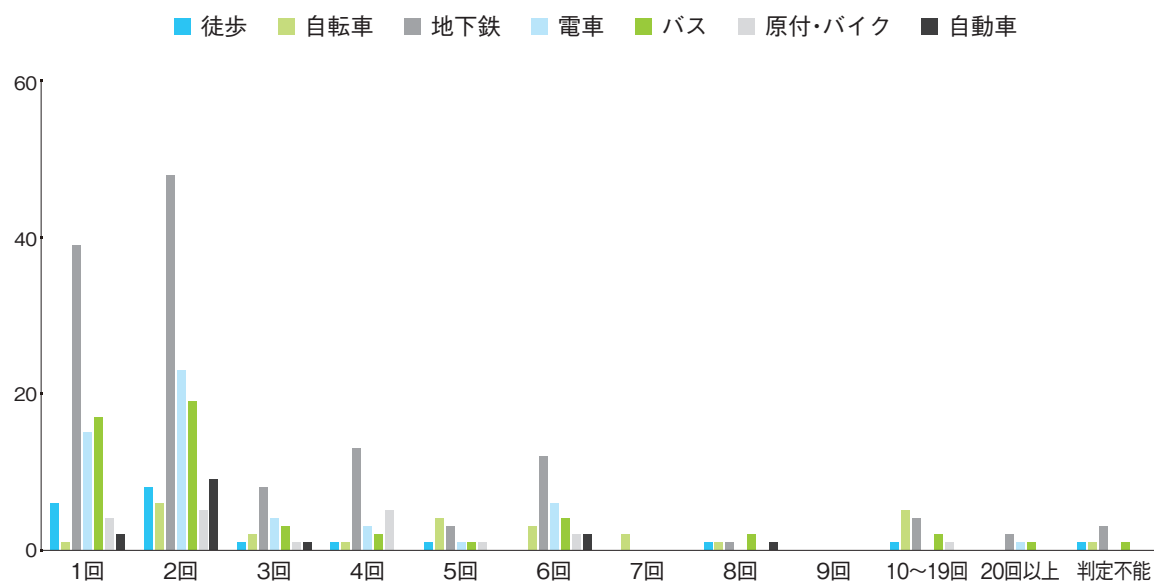
(3-4)任意保険の有無(自動車)

(人)	調査数	入っている	入っていない	わからない
学部生	122	83	2	6
大学院生	394	332	2	6

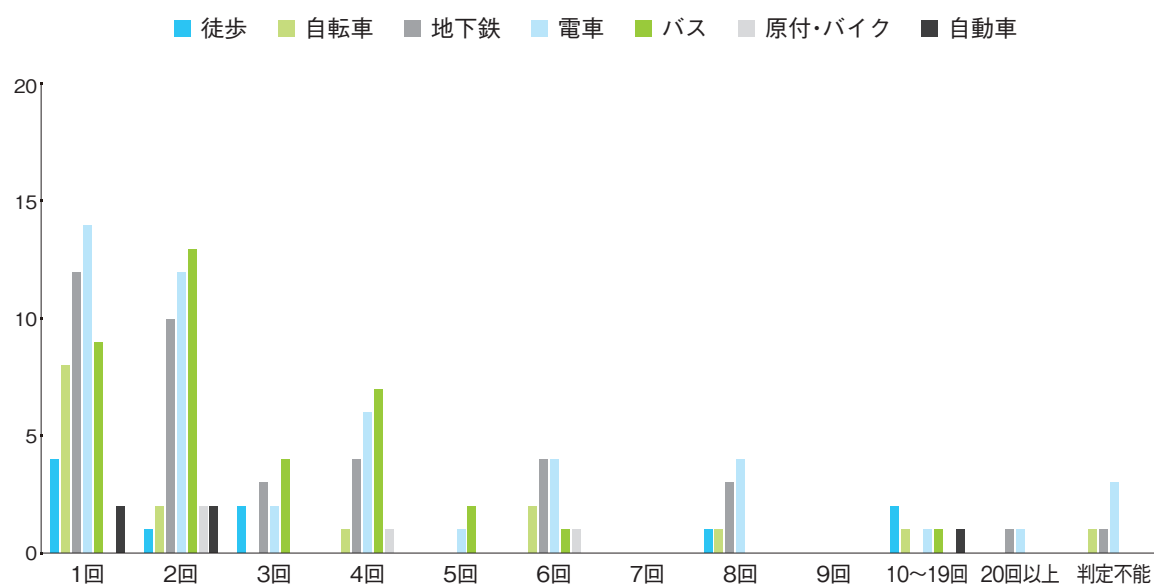


(4) キャンパス間の移動頻度及び交通手段

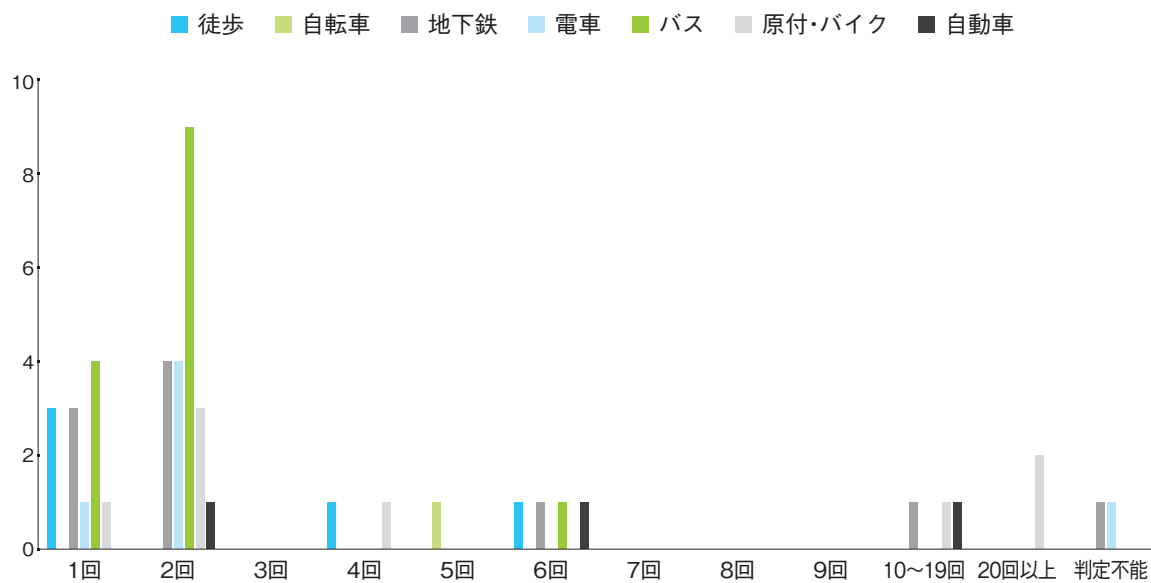
(学部生)①伊都・病院間



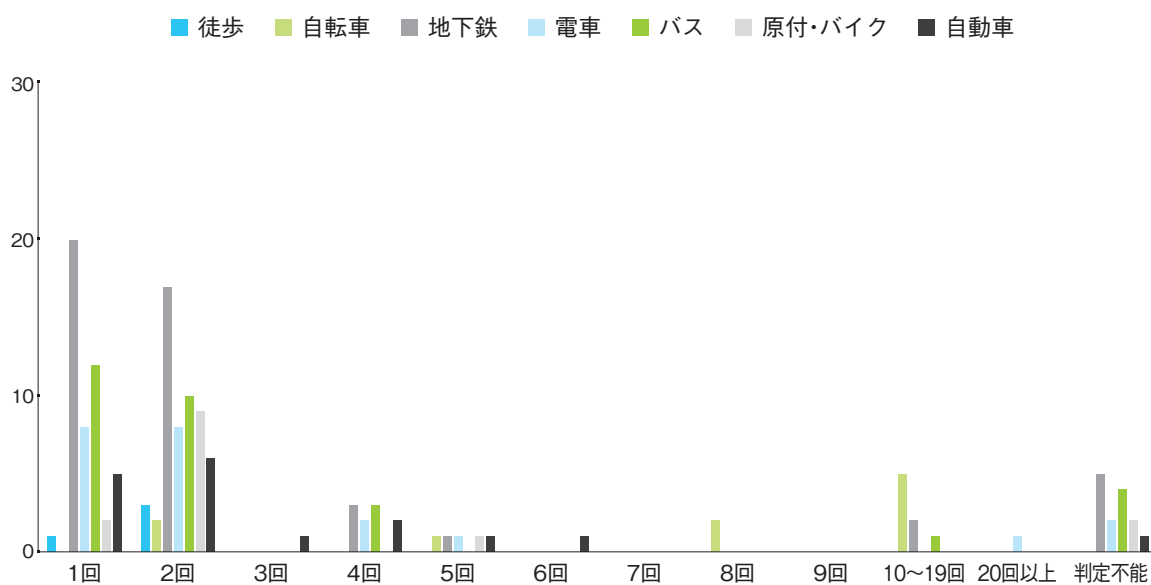
(学部生)②伊都・大橋間



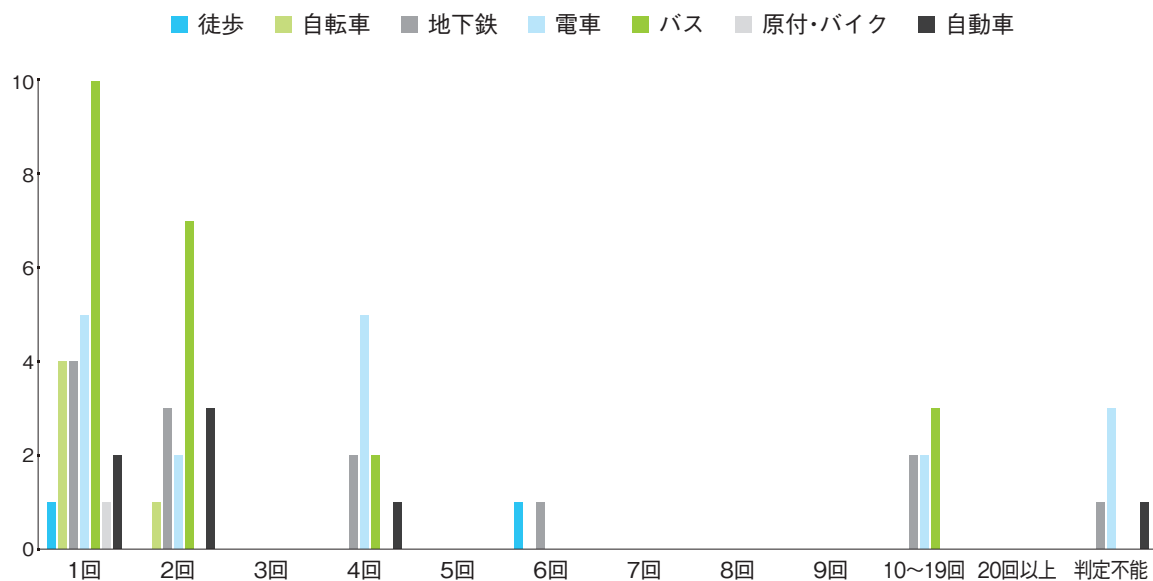
(学部生)③伊都・筑紫間



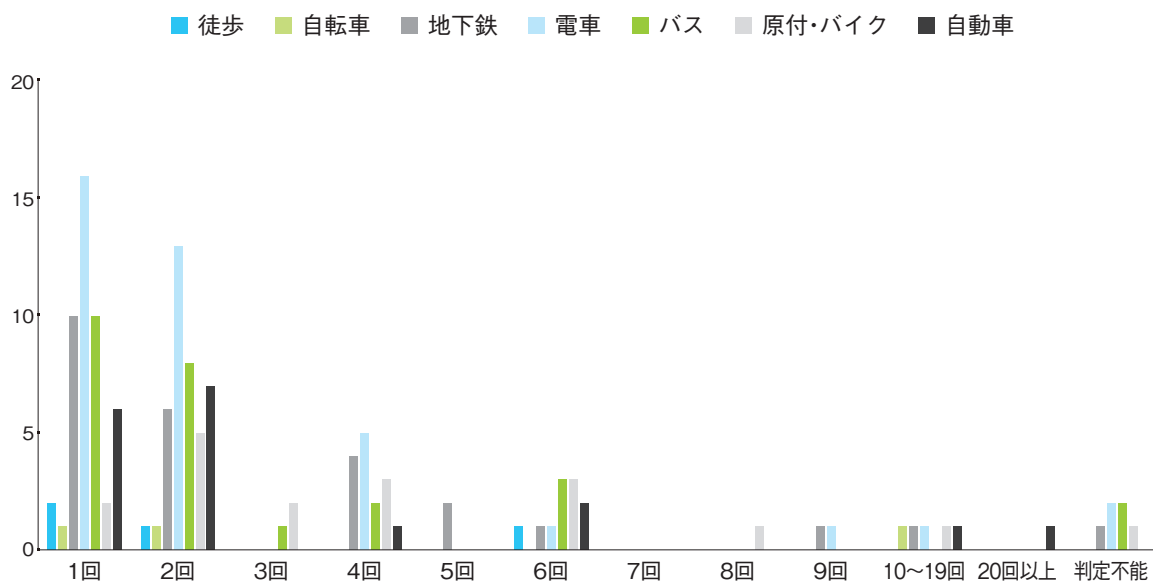
(大学院生)①伊都・病院間



(大学院生)②伊都・大橋間



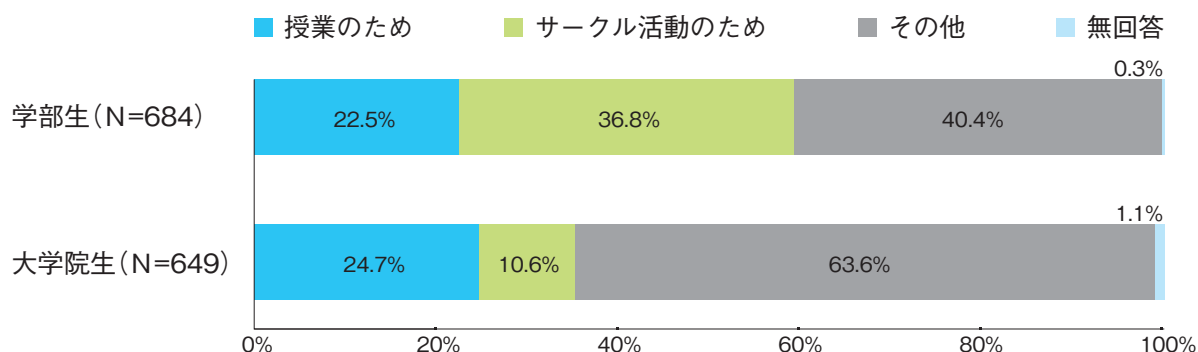
(大学院生)③伊都・筑紫間



(5) キャンパス間の主な移動理由

前回調査で過半数を占めていた「サークル活動のため」の割合が減少し、「その他」が大きく伸びています。箱崎から伊都キャンパスへの移転により、授業やサークル活動が伊都キャンパスに集中していることが理由と考えられます。

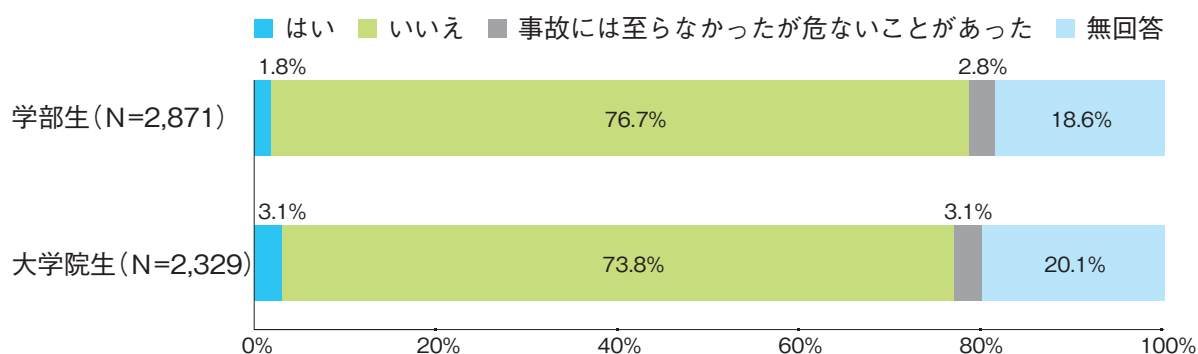
(人)	調査数	授業のため	サークル活動のため	その他	無回答
学部生	684	154	252	276	2
大学院生	649	160	69	413	7



(6) 学内及びキャンパス間移動時に交通事故を起こした経験(自損・被害を含む)

交通事故の経験は、「はい」が2.5%前後、「いいえ」が75%前後という結果となりました。

(人)	調査数	はい	いいえ	事故には至らなかったが危ないことがあった	無回答
学部生	2,871	53	2,203	80	535
大学院生	2,329	72	1,718	72	467

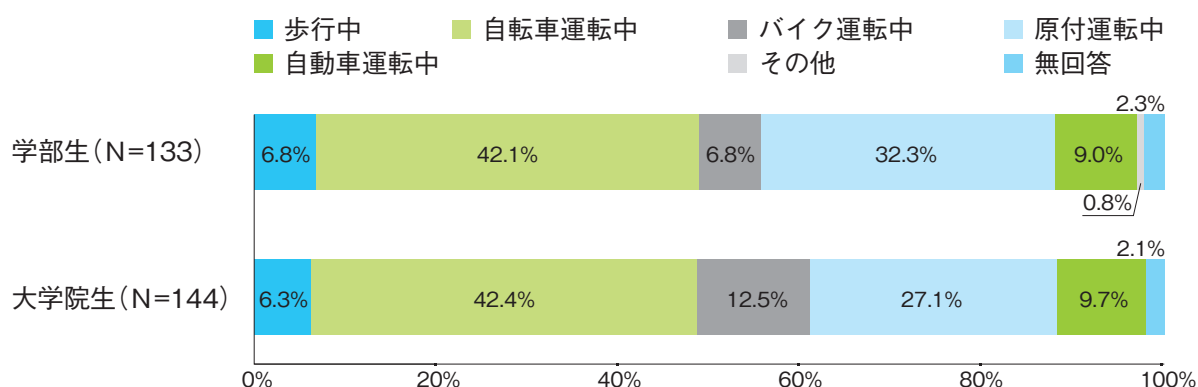


(7)交通事故を起こした時の状況

「事故を起こしたことがある」「事故には至らなかったが危ないことがあった」と回答した方に事故時の状況を尋ねたところ、「自転車」及び「原付」の運転中が大半を占めました。

本章(1)の結果から、運転機会は自転車の方が多いため、事故の発生割合という点では「原付」が最も高いと言えます。

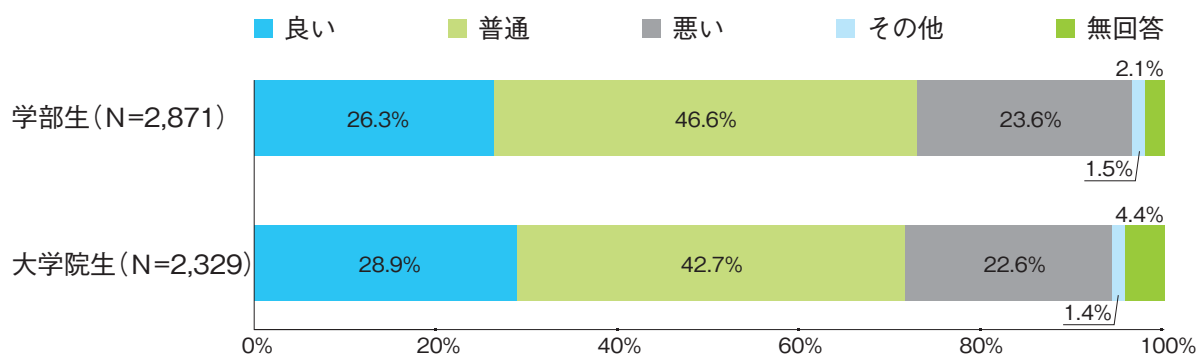
(人)	調査数	歩行中	自転車運転中	バイク運転中	原付運転中	自動車運転中	その他	無回答
学部生	133	9	56	9	43	12	1	3
大学院生	144	9	61	18	39	14	0	3



(8)学生の交通マナー

前回調査に比べ「普通」が大きく減り、「良い」が約10%、「悪い」が約5%増加しました。

(人)	調査数	良い	普通	悪い	その他	無回答
学部生	2,871	755	1,337	677	42	60
大学院生	2,329	673	994	527	33	102



(9) 学生の交通マナーでどのような点が良くないですか

2500 件以上の回答が寄せられています。

特に多い意見として「原付」の運転マナーが悪いことが挙げられています。

- ・スピードの出しすぎ
- ・二人乗り
- ・ノーヘル
- ・信号無視
- ・スマートフォンを見ながらの運転
- ・歩道もスピードを出して進入
- ・ウィンカーを出さない
- ・夜間無点灯 など

次に「自転車」のマナーの意見が多く出ています。

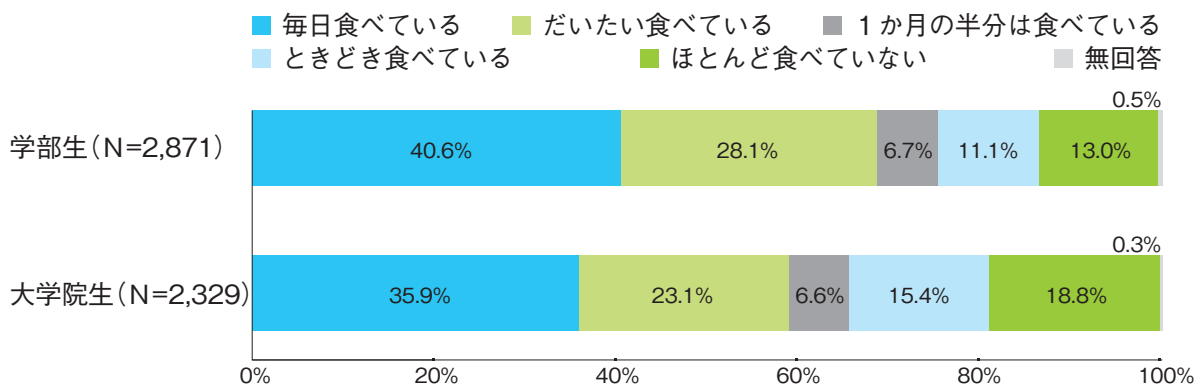
- ・スピードの出しすぎ
- ・イヤホンをつけながらの運転
- ・スマートフォンを見ながらの運転
- ・話しながらの走行
- ・自転車の駐輪場の止め方が悪い
- ・歩道の走行 など

また、キャンパス内での運転のマナーが悪いという意見も多く見られました。

(1) 朝食の有無

学部学生では、朝食を「毎日食べている」「だいたい食べている」者の割合は69%、大学院生では59%で前回調査時とほぼ同じ傾向でした。

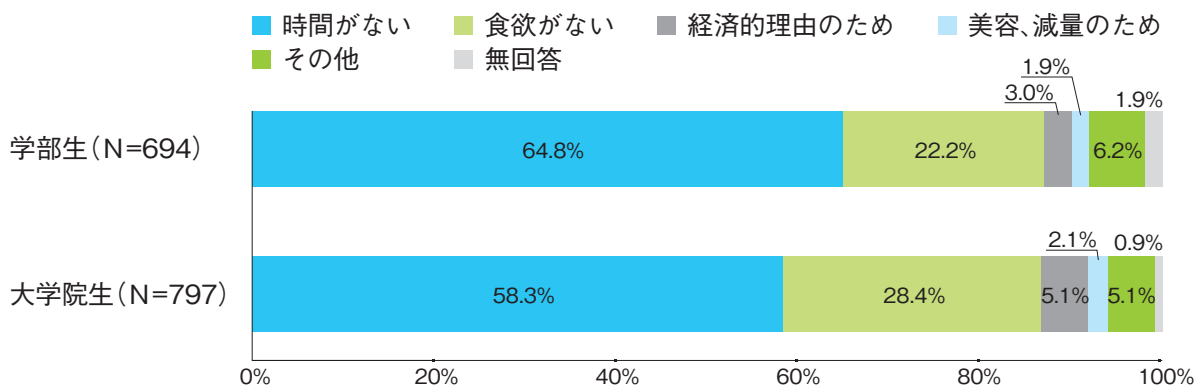
(人)	調査数	毎日食べている	だいたい食べている	1か月の半分は食べている	ときどき食べている	ほとんど食べていない	無回答
学部生	2,871	1,165	806	192	320	374	14
大学院生	2,329	837	537	153	358	438	6



(2) 朝食を食べていない理由

朝食を食べていない理由も、前回調査時と同様、「時間がない」「食欲がない」の割合が80%以上を占めています。

(人)	調査数	時間がない	食欲がない	経済的理由のため	美容、減量のため	その他	無回答
学部生	694	450	154	21	13	43	13
大学院生	797	465	226	41	17	41	7



(3) 食事の場所

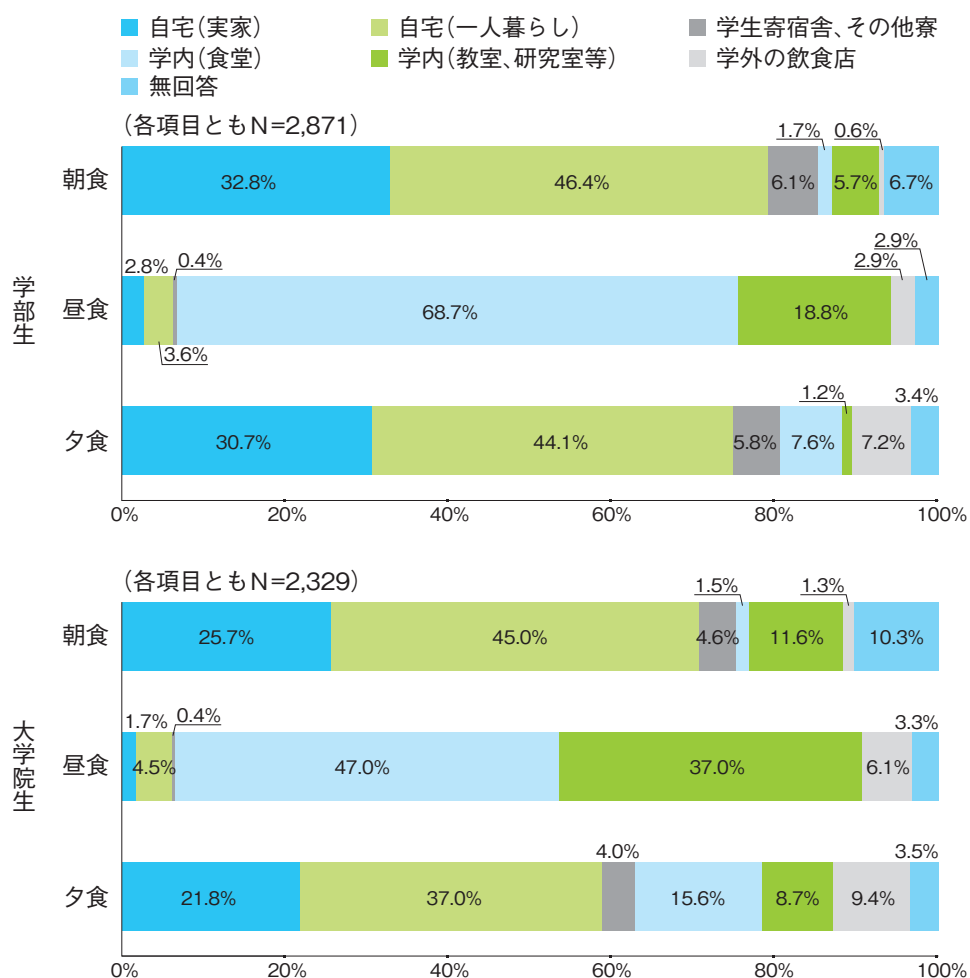
学部生、大学院生ともに昼食は90%近くが学内で食事していますが、大学院生になると、食堂よりも教室・研究室で食事をする割合が大きくなっています。朝食は自宅・寮が多数を占め、夕食は、学部生では自宅・寮が80%を占めますが、大学院では62%に減少し、外食が増加します。これらの傾向も前回調査時とそれほど変わりません。

(学部生)

(人)	調査数	自宅(実家)	自宅(一人暮らし)	学生寄宿舍、その他寮	学内(食堂)	学内(教室、研究室等)	学外の飲食店	無回答
朝食	2,871	941	1,331	176	49	165	17	192
昼食	2,871	79	103	11	1,972	540	82	84
夕食	2,871	882	1,266	166	218	34	208	97

(大学院生)

(人)	調査数	自宅(実家)	自宅(一人暮らし)	学生寄宿舍、その他寮	学内(食堂)	学内(教室、研究室等)	学外の飲食店	無回答
朝食	2,329	598	1,047	107	36	269	31	241
昼食	2,329	39	105	9	1,095	862	142	77
夕食	2,329	508	862	92	364	202	219	82



(4)学内の食堂の利用状況

朝食での利用は少ないですが、昼食については学内食堂が大半を占め、前回調査時に比べて、学部生・大学院生ともに「いつも利用する」の割合が増加しています(学部生 52.8% → 59.3%、大学院生 26.6% → 37.7%)。伊都キャンパスの学生数が増えたために食堂を利用する者の割合が増加してきているのではないかと考えられます。

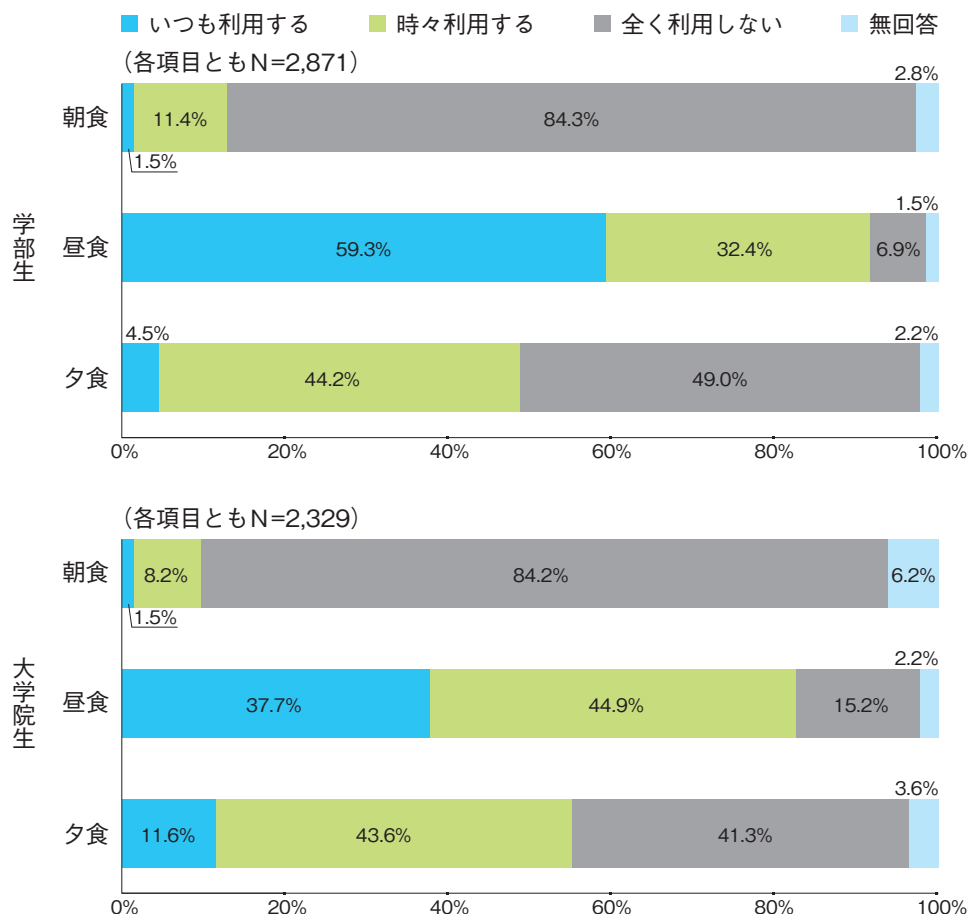
夕食での利用については前回調査とほぼ同じ結果でした。

(学部生)

(人)	調査数	いつも利用する	時々利用する	全く利用しない	無回答
朝食	2,871	44	328	2,419	80
昼食	2,871	1,702	929	197	43
夕食	2,871	130	1,269	1,408	64

(大学院生)

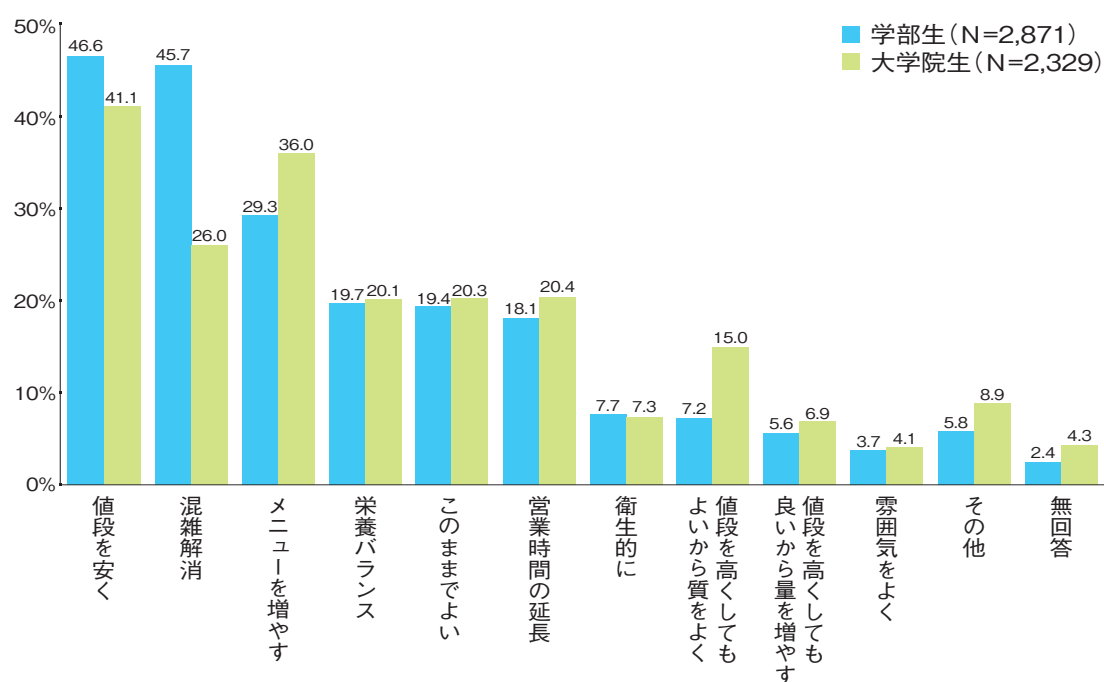
(人)	調査数	いつも利用する	時々利用する	全く利用しない	無回答
朝食	2,329	35	190	1,960	144
昼食	2,329	878	1,045	354	52
夕食	2,329	269	1,015	961	84



(5)学内の食堂の改善すべき点【複数回答可】

「値段を安く」「混雑解消」「メニューを増やす」が上位になったのは前回調査と同じですが、最も多かった「混雑解消」が減少(学部生 60.4%→45.6%、大学院生 39.9%→26.0%)し、「値段を安く」が増加(学部生 41.5%→46.6%、大学院生 37.7%→41.1%)しています。

(人)	調査数	値段を安く	混雑解消	メニューを増やす	栄養バランス	このままでよい	営業時間の延長	衛生的に	値段を高くしてもよいから質をよく	値段を高くしても良いから量を増やす	雰囲気をよく	その他	無回答
学部生	2,871	1,339	1,311	842	566	556	519	220	207	161	107	167	69
大学院生	2,329	958	606	839	469	472	474	170	349	160	95	207	101

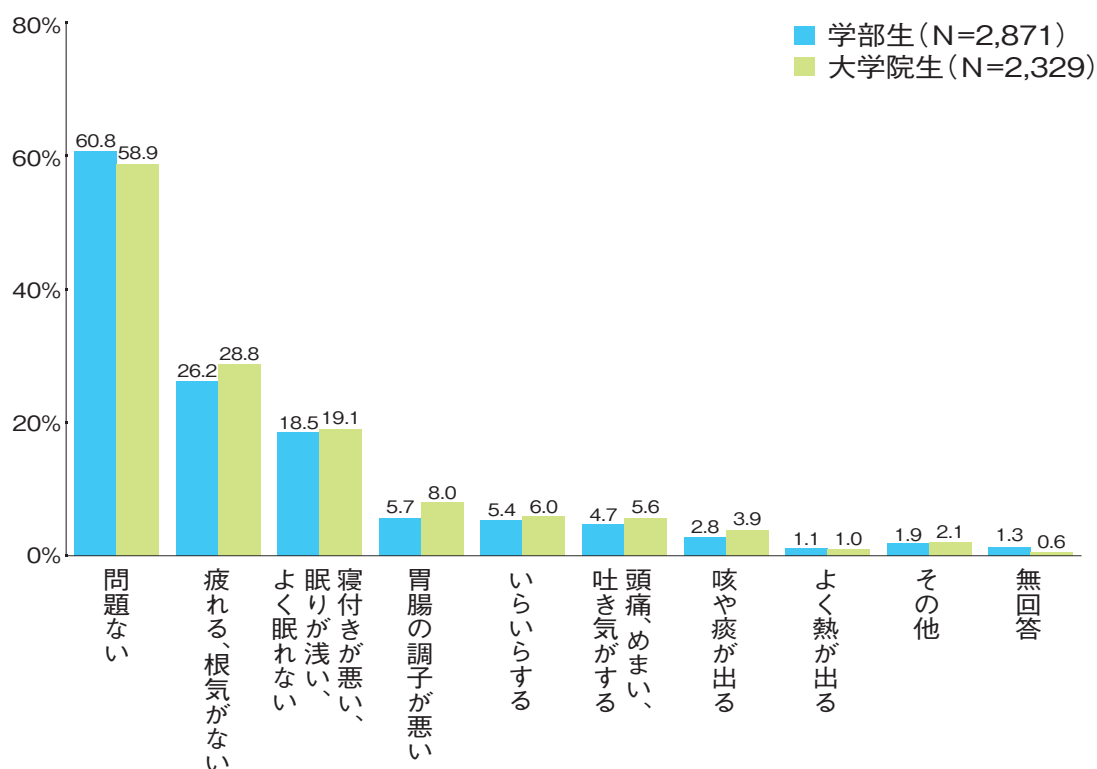


(1) 最近の体調【複数回答可】

4割の学生が何らかの不調を抱えているようです。

全体的な傾向は前回調査と大きくは変わりませんが、睡眠に関して不調であると回答した学生がやや増加しています(学部生 16.3% → 18.5%、大学院生 16.5% → 19.1%)。

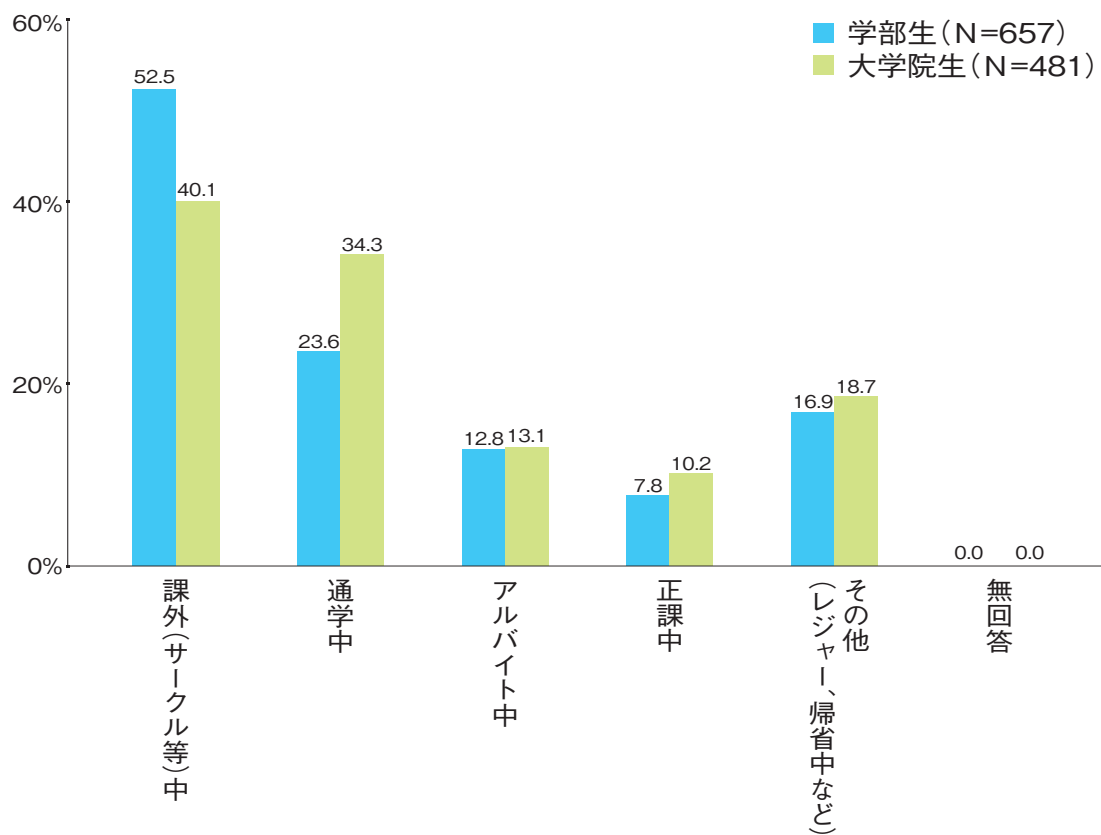
(人)	調査数	問題ない	疲れる、根気がない	寝付きが悪い、眠りが浅い、よく眠れない	胃腸の調子が悪い	いらいらする	頭痛、めまい、吐き気がする	咳や痰が出る	よく熱が出る	その他	無回答
学部生	2,871	1,747	753	532	164	154	135	79	33	54	38
大学院生	2,329	1,372	671	445	186	139	131	90	23	48	13



(2)入学後に怪我をしたときの状況【複数回答可】

入学後に怪我をした学生にその発生状況を尋ねたところ、前回調査同様、1位「課外(サークル等)中」、2位「通学中」という結果でした。

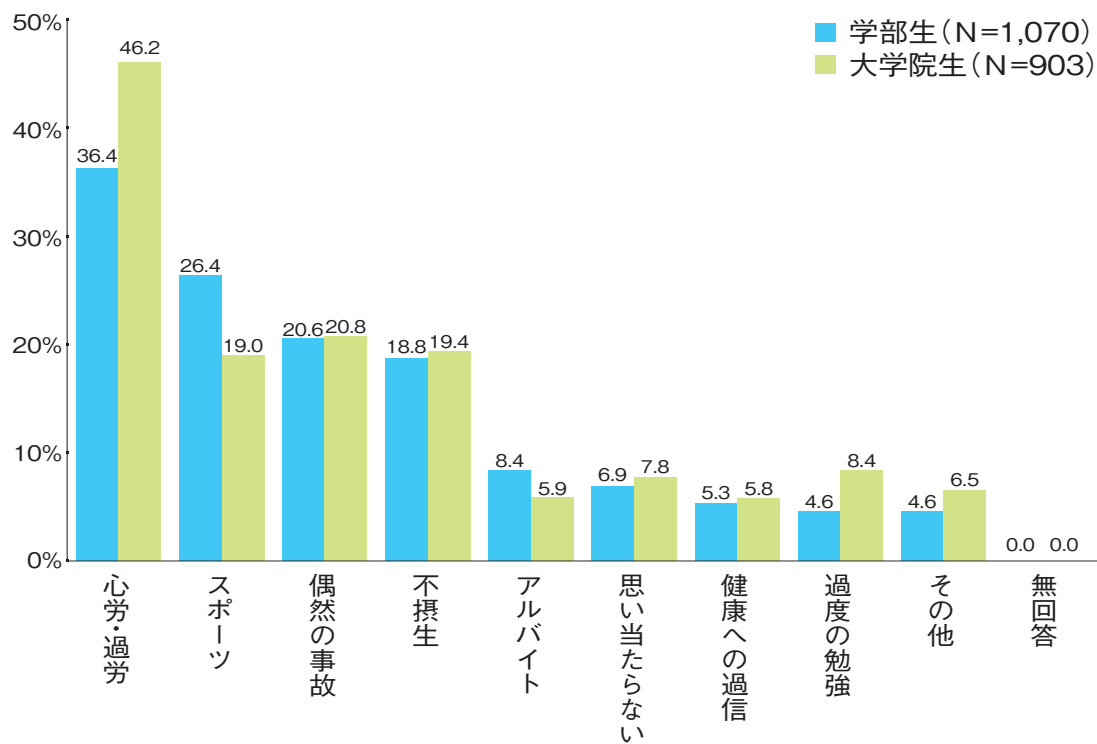
(人)	調査数	(サークル等)中 課外	通学中	アルバイト中	正課中	その他 (レジャー、 帰省中など)	無回答
学部生	657	345	155	84	51	111	0
大学院生	481	193	165	63	49	90	0



(3) 怪我や体調不良の主な原因【複数回答可】

入学後に怪我や体調不良に至った学生に、考えられる主な原因を尋ねたところ、学部生・大学院生ともに「心労・過労」が1位という結果でした。また、2割程度の学生が「不摂生」と回答しています。

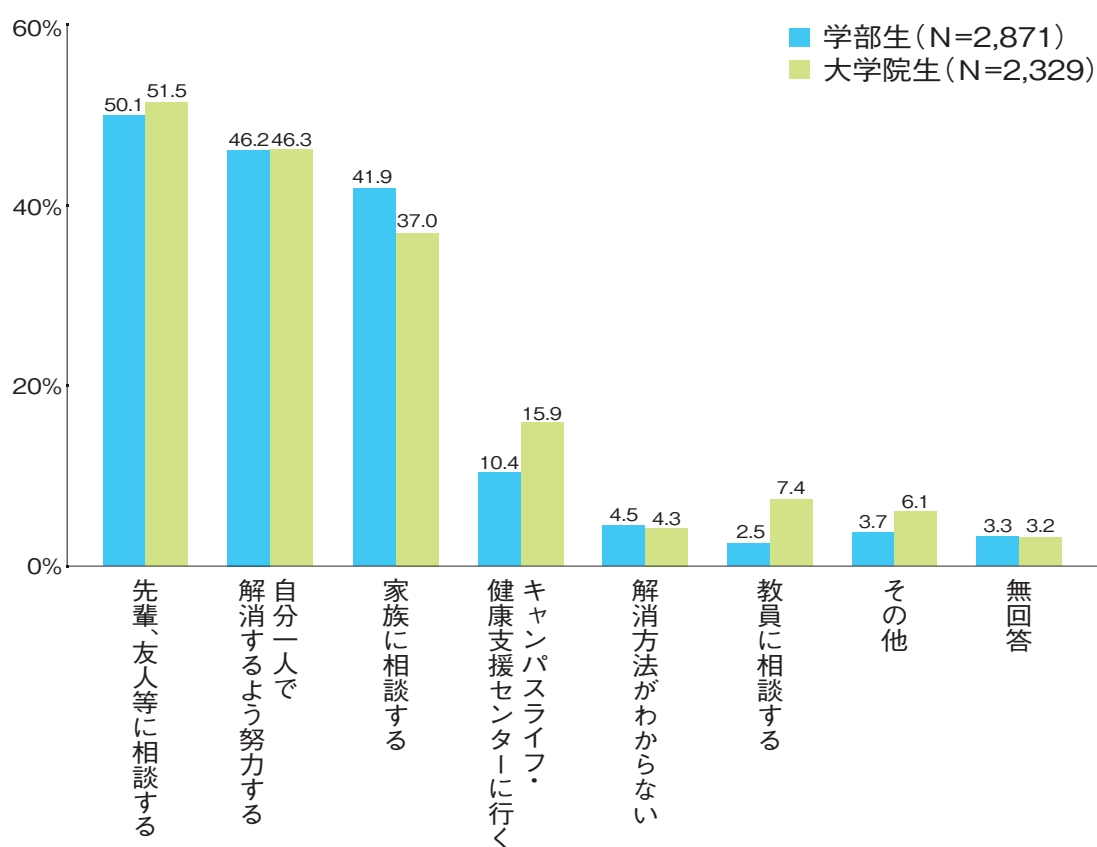
(人)	調査数	心労・過労	スポーツ	偶然的事故	不摂生	アルバイト	思い当たらない	健康への過信	過度の勉強	その他	無回答
学部生	1,070	389	283	220	201	90	74	57	49	49	0
大学院生	903	417	172	188	175	53	70	52	76	59	0



(4)身体面、心理面での悩みの解消方法【複数回答可】

「先輩、友人等に相談する」が1位なのは前回調査と変わりませんが、「自分一人で解消するよう努力する」が大きく増加し、2位になっています(学部生 20.9% → 46.2%、大学院生 19.0% → 46.3%)。また、「解消方法がわからない」とする学生も増えています。

(人)	調査数	先輩、友人等に 相談する	自分一人で 解消するよう 努力する	家族に相談する	キャンパスライフ・ 健康支援センターに 行く	解消方法が わからない	教員に相談する	その他	無回答
学部生	2,871	1,438	1,327	1,204	298	130	73	107	95
大学院生	2,329	1,200	1,078	862	371	99	173	141	74

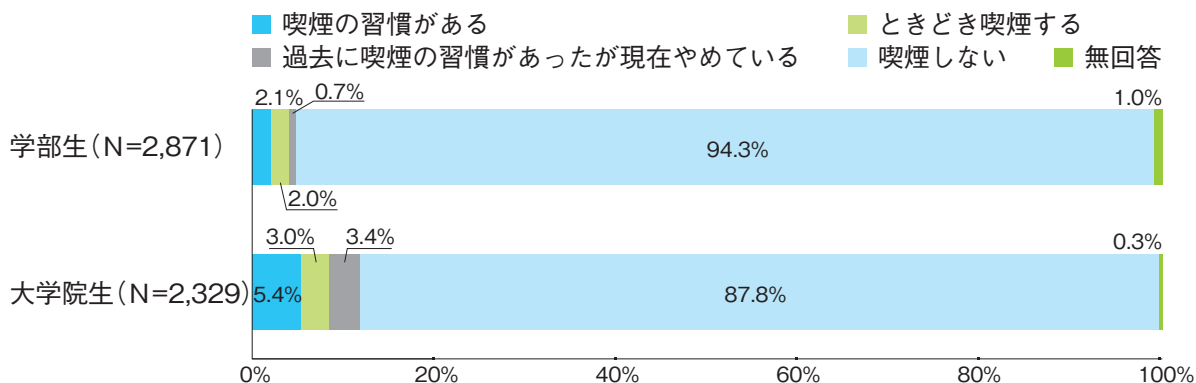


(5) 喫煙の有無

前回の調査より、さらに喫煙者は減少しています。

社会の風潮や、キャンパス内の全面禁煙の効果の表れと考えられます。

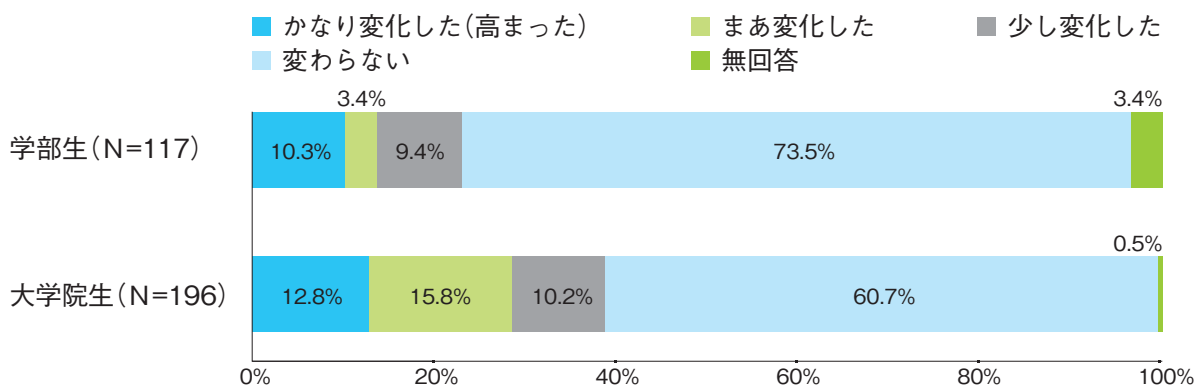
(人)	調査数	喫煙の習慣がある	ときどき喫煙する	過去に喫煙の習慣があったが現在やめている	喫煙しない	無回答
学部生	2,871	59	58	20	2,706	28
大学院生	2,329	126	70	80	2,045	8



(6) キャンパス内全面禁煙を受けて、禁煙に対する意識の変化

「喫煙の習慣がある」「ときどき喫煙する」と回答した学生の6-7割では、意識の変化は見られませんでした。

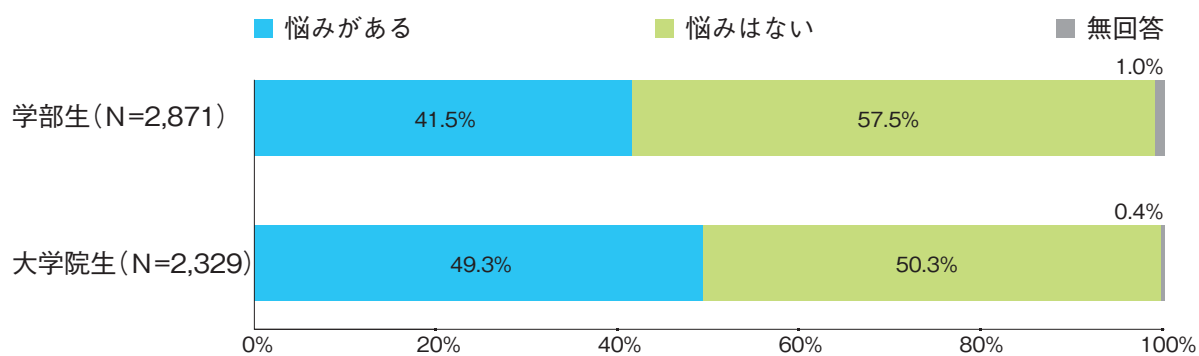
(人)	調査数	かなり変化した(高まった)	まあ変化した	少し変化した	変わらない	無回答
学部生	117	12	4	11	86	4
大学院生	196	25	31	20	119	1



(1) 悩みの有無

学部生の41%、大学院生の49%が悩みを抱えている結果でしたが、前回(学部生44%、大学院生52%)、前々回(学部生55%、大学院生57%)と比較すると、減少傾向にあると言えます。

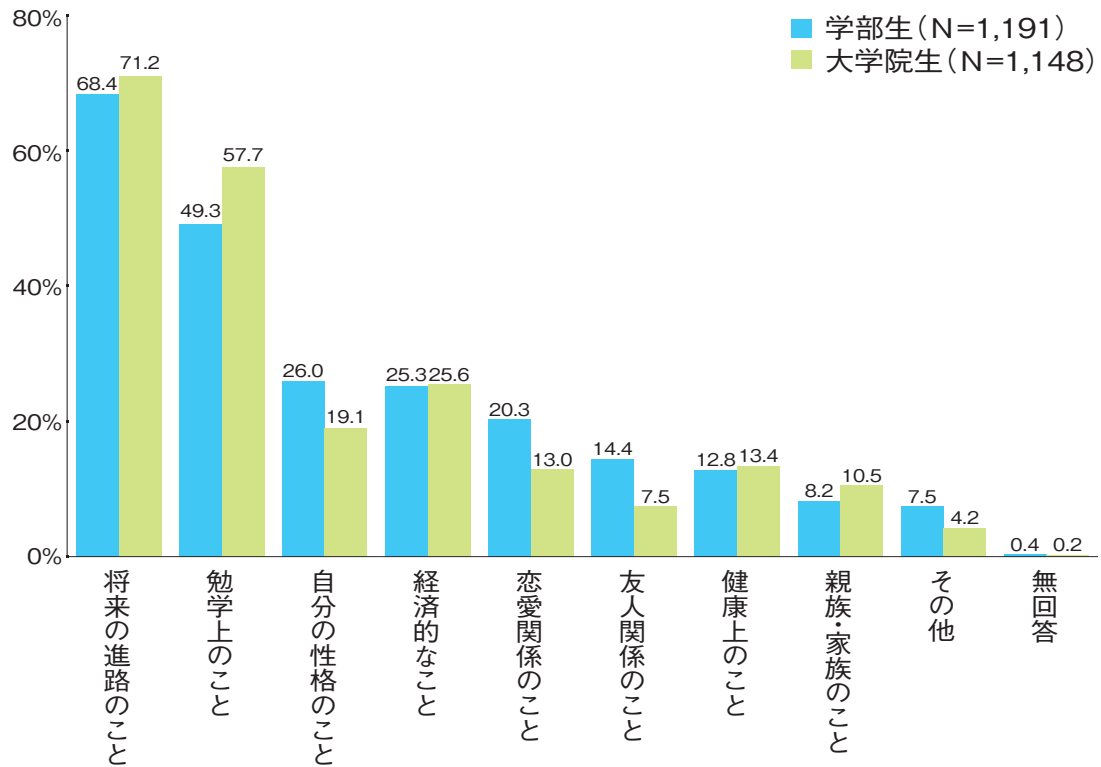
(人)	調査数	悩みがある	悩みはない	無回答
学部生	2,871	1,191	1,651	29
大学院生	2,329	1,148	1,172	9



(2) 悩みの内容【複数回答可】

前回調査と同様、「将来の進路のこと」「勉強上のこと」が上位を占めています。

(人)	調査数	将来の進路のこと	勉強上のこと	自分の性格のこと	経済的なこと	恋愛関係のこと	友人関係のこと	健康上のこと	親族・家族のこと	その他	無回答
学部生	1,191	815	587	310	301	242	172	152	98	89	5
大学院生	1,148	817	662	219	294	149	86	154	121	48	2

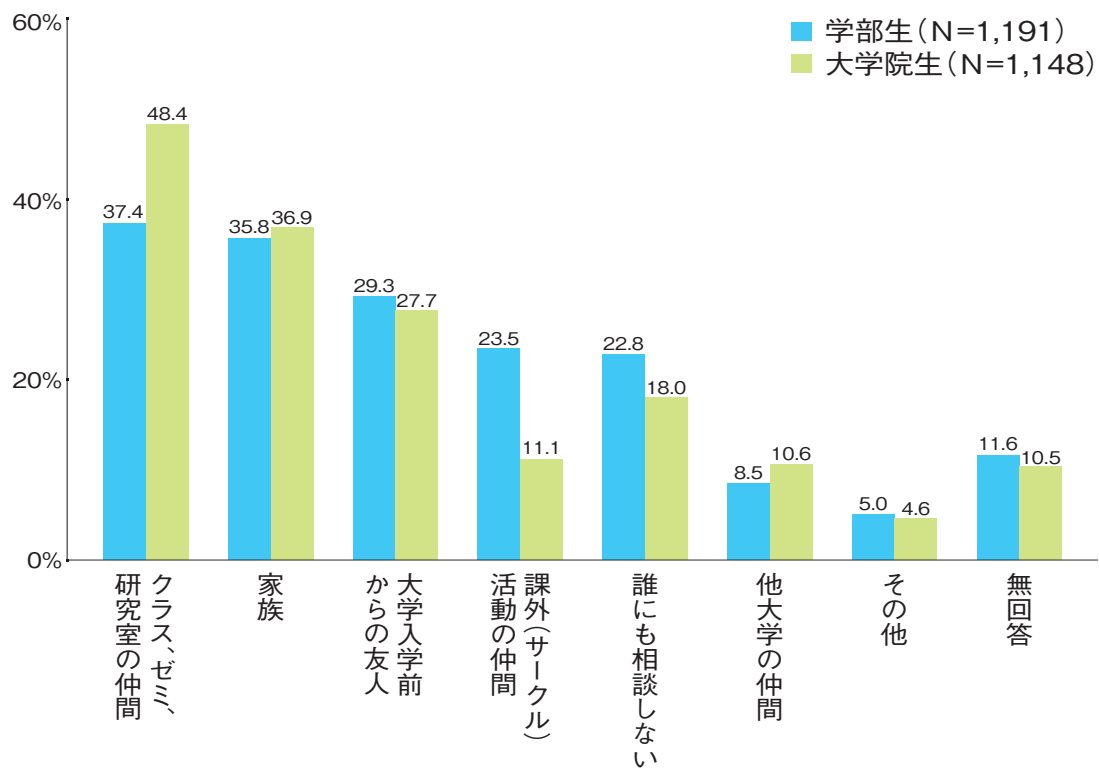


(3) 悩みの相談先【複数回答可】

前回と同様、悩みの相談先は、学部生・大学院生ともに「クラス・ゼミ・研究室の仲間」、「家族」、「大学入学前からの友人」の順でした。

全体的な傾向は前回調査と同様ですが、「誰にも相談しない」の回答が増加しています(学部生 18.7% → 22.8%、大学院生 14.1% → 18.0%)。

(人)	調査数	クラス、ゼミ、 研究室の仲間	家族	大学入学前からの友人	課外(サークル) 活動の仲間	誰にも 相談しない	他大学の仲間	その他	無回答
学部生	1,191	445	426	349	280	272	101	60	138
大学院生	1,148	556	424	318	128	207	122	53	120

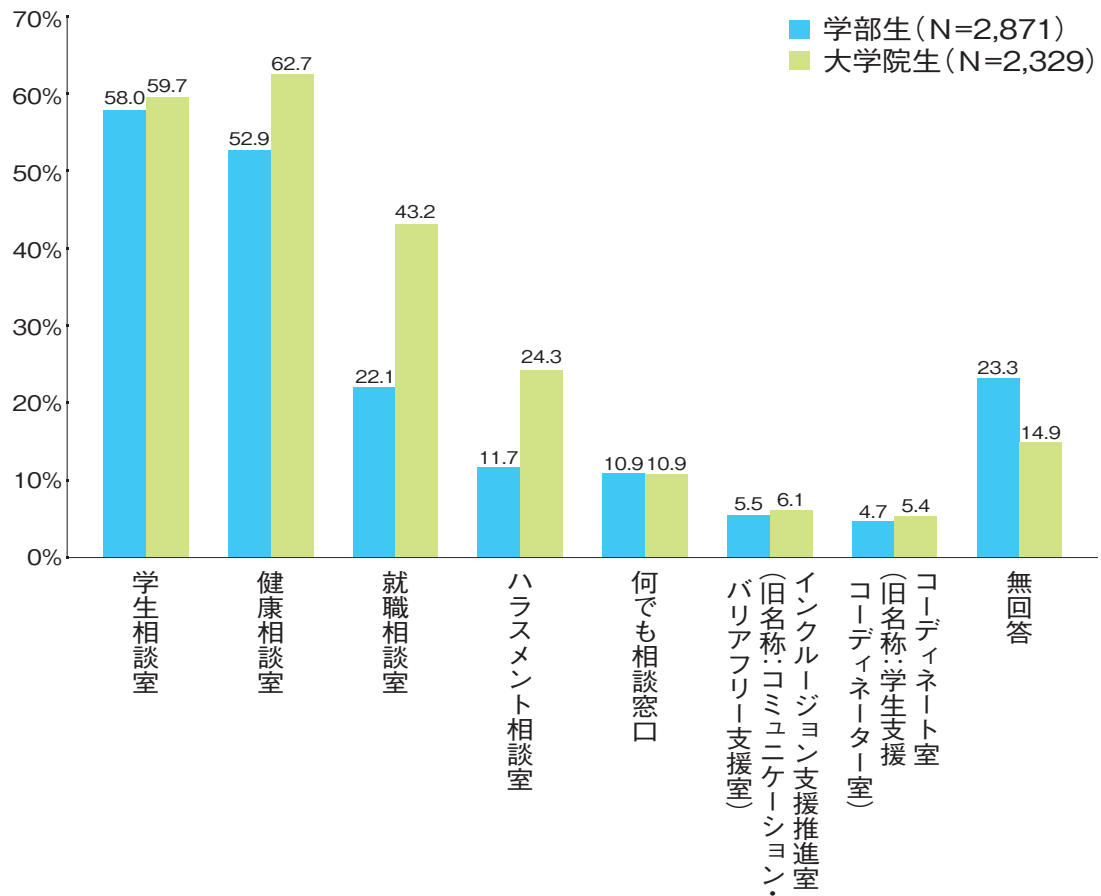


(4)相談窓口の認知度【複数回答可】

前回より、各相談室関係の認知度が減少しています。

学生相談室(66%→58%)、健康相談室(59%→57%)、就職相談室(35%→32%)など学生への周知活動が必要と思われます。

(人)	調査数	学生相談室	健康相談室	就職相談室	ハラスメント相談室	何でも相談窓口	インクルージョン支援推進室 (旧名称:コミュニケーション・ バリアフリー支援室)	コーディネーター室 (旧名称:学生支援コーディネーター室)	無回答
学部生	2,871	1,665	1,518	634	335	313	159	135	669
大学院生	2,329	1,390	1,461	1,007	567	253	142	126	348



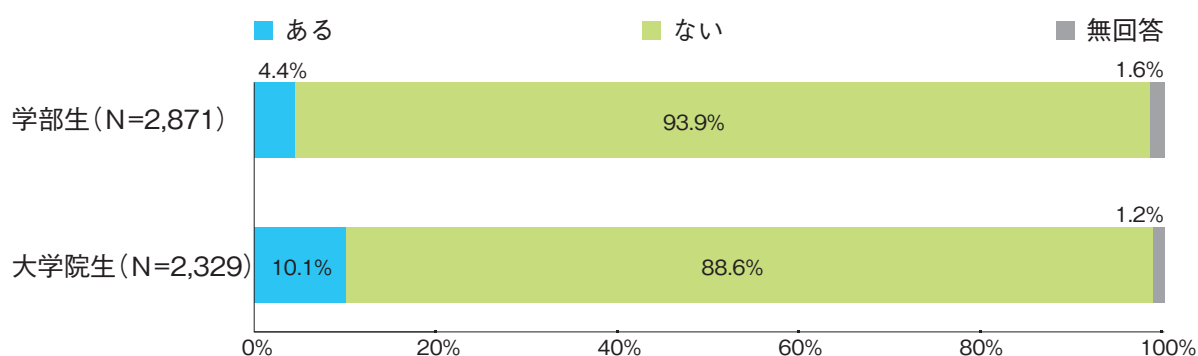
(5-1) ハラスメントを受けた経験

今回学部生の 127 名、大学院生の 236 名(計 363 名)がハラスメントを受けた経験があるとの回答でした。

学部生ではセクシャル・ハラスメントやパワー・ハラスメントが多く、大学院生ではアカデミック・ハラスメントやパワー・ハラスメントが大部分という結果でした。

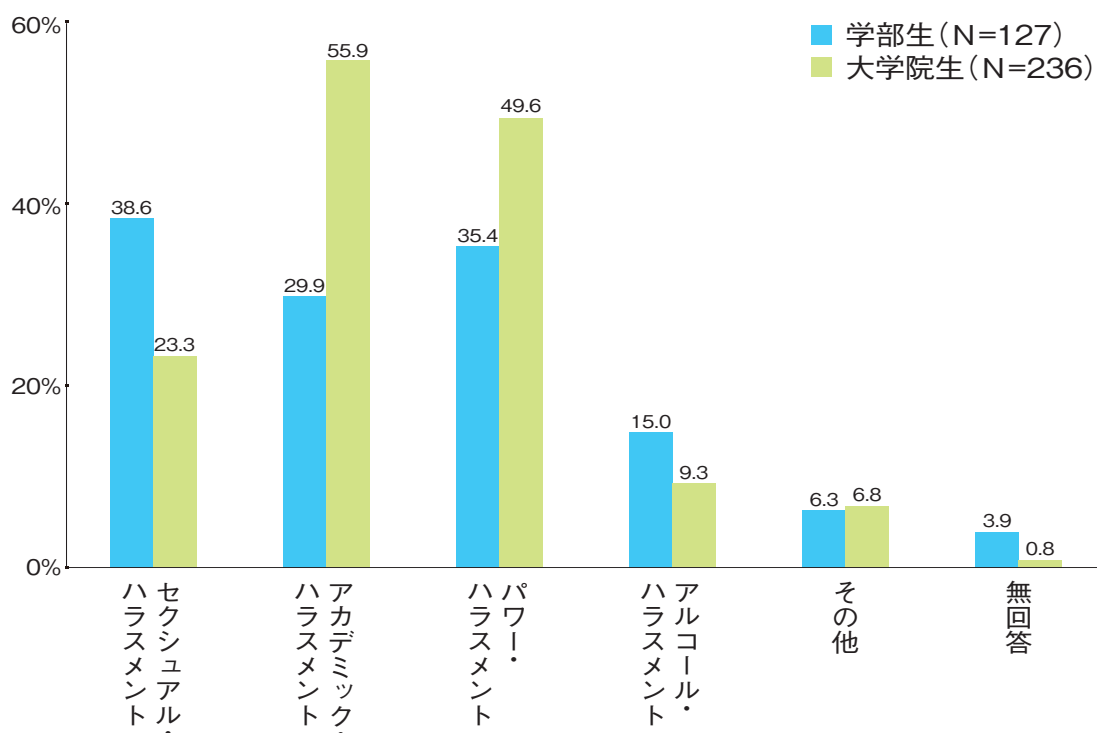
前回調査と比較して、アルコール・ハラスメントの被害経験が大きく減少しています(学部生 26.7% → 14.2%、大学院生 13.7% → 9.3%)。

(人)	調査数	ある	ない	無回答
学部生	2,871	127	2,697	47
大学院生	2,329	236	2,064	29



(5-2) 自分が受けたハラスメントの種類【複数回答可】

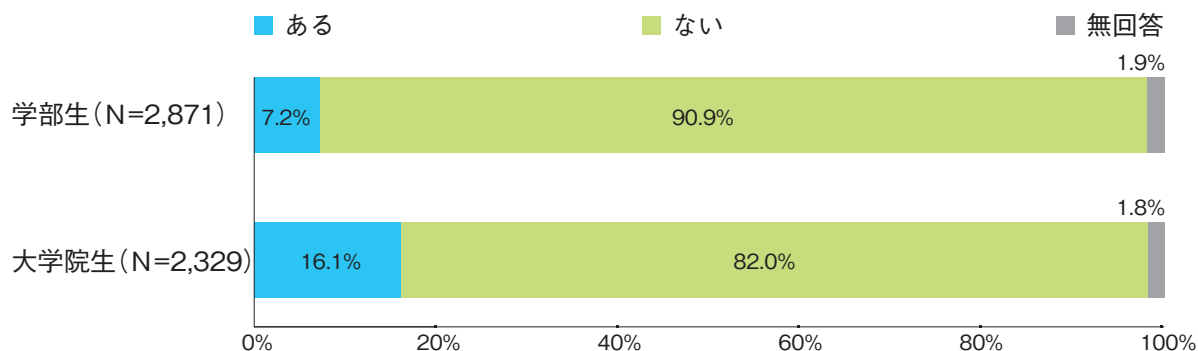
* (5-1) で「ある」と答えた学生のみ回答



(6-1) 他人がハラスメントを受けているのを見た経験

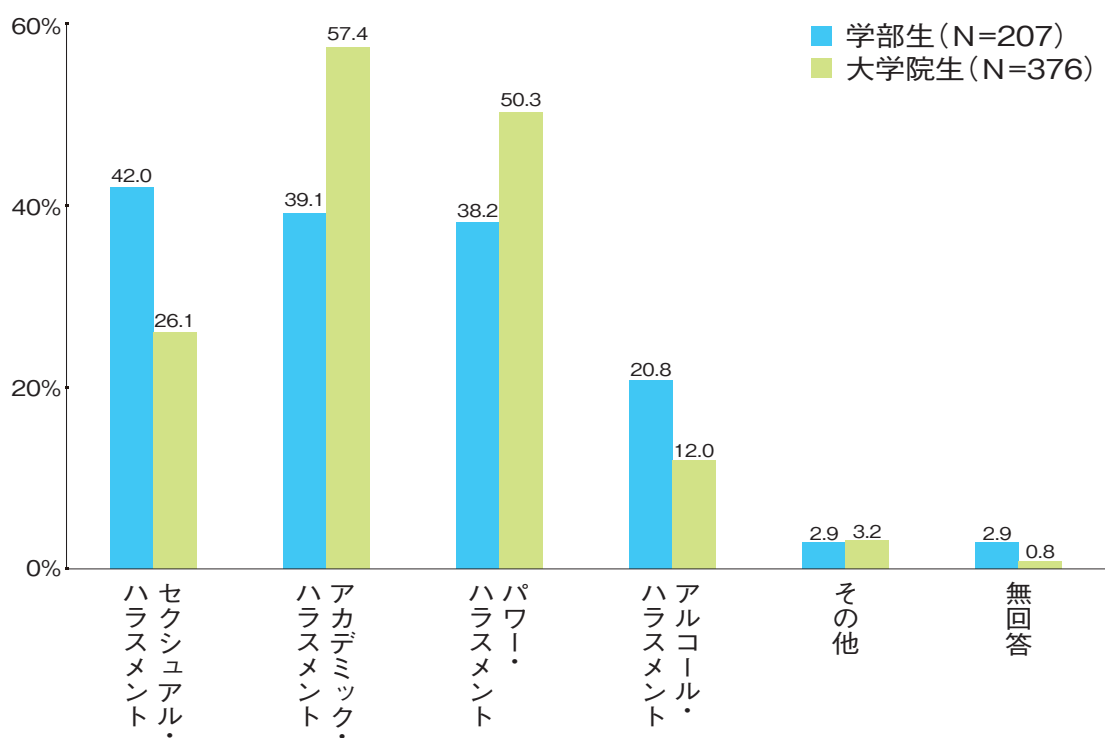
「身の回りで見聞きしたハラスメント」の内訳は、前問の「自分が受けたハラスメント」と概ね似た傾向を示しています。

(人)	調査数	ある	ない	無回答
学部生	2,871	207	2,609	55
大学院生	2,329	376	1,910	43



(6-2) 他人が受けていたハラスメントの種類【複数回答可】

* (6-1)で「ある」と答えた学生のみ回答

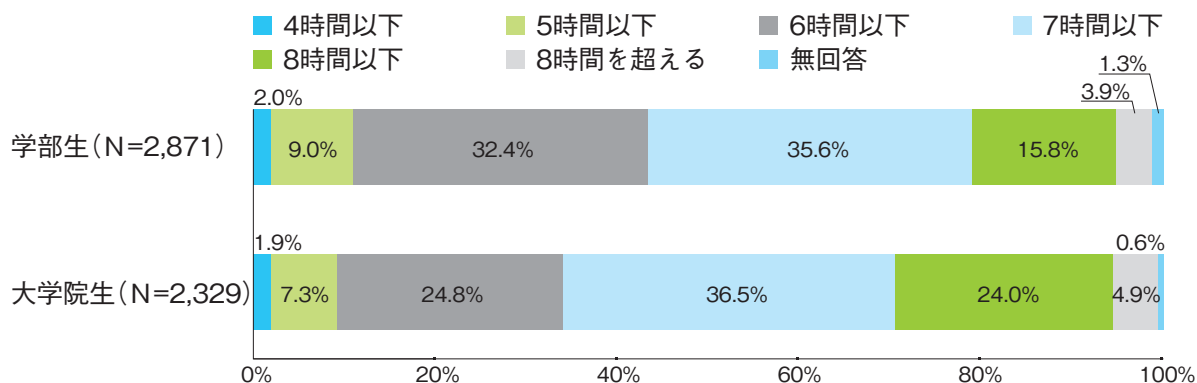


(1) 睡眠時間

睡眠時間は6時間前後とする回答が過半数でした。

学部生より大学院生の方が睡眠時間が長い傾向にあるようです。

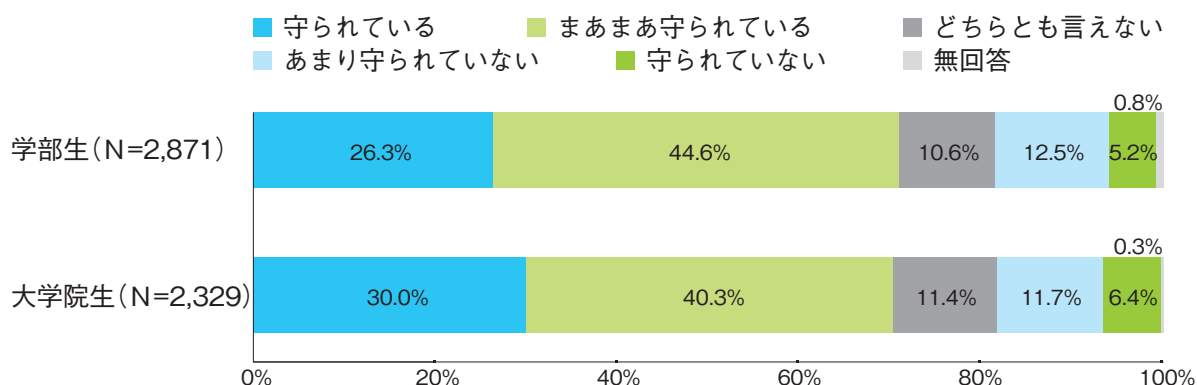
(人)	調査数	4時間以下	5時間以下	6時間以下	7時間以下	8時間以下	8時間を超える	無回答
学部生	2,871	56	259	930	1,023	453	113	37
大学院生	2,329	44	171	577	850	559	114	14



(2) 平日の起床時間のリズム

平日の起床時間のリズムは、学部生・大学院生ともに7割程度の学生が「守られている」「まあまあ守られている」と回答しました。

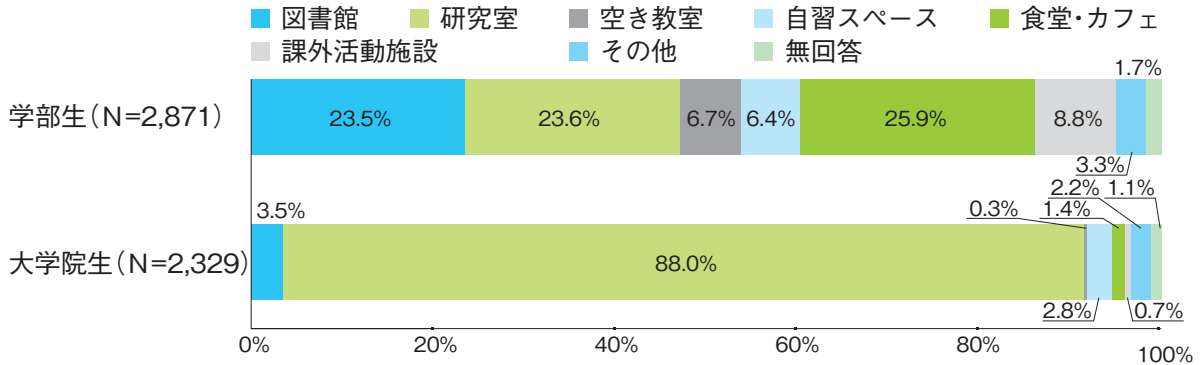
(人)	調査数	守られている	まあまあ守られている	どちらとも言えない	あまり守られていない	守られていない	無回答
学部生	2,871	755	1,280	305	358	150	23
大学院生	2,329	698	939	265	272	148	7



(3)授業以外のキャンパスの居場所

学部生は、「食堂・カフェ」「図書館」「研究室」が多いですが、大学院生は「研究室」に居ることが多いようです。

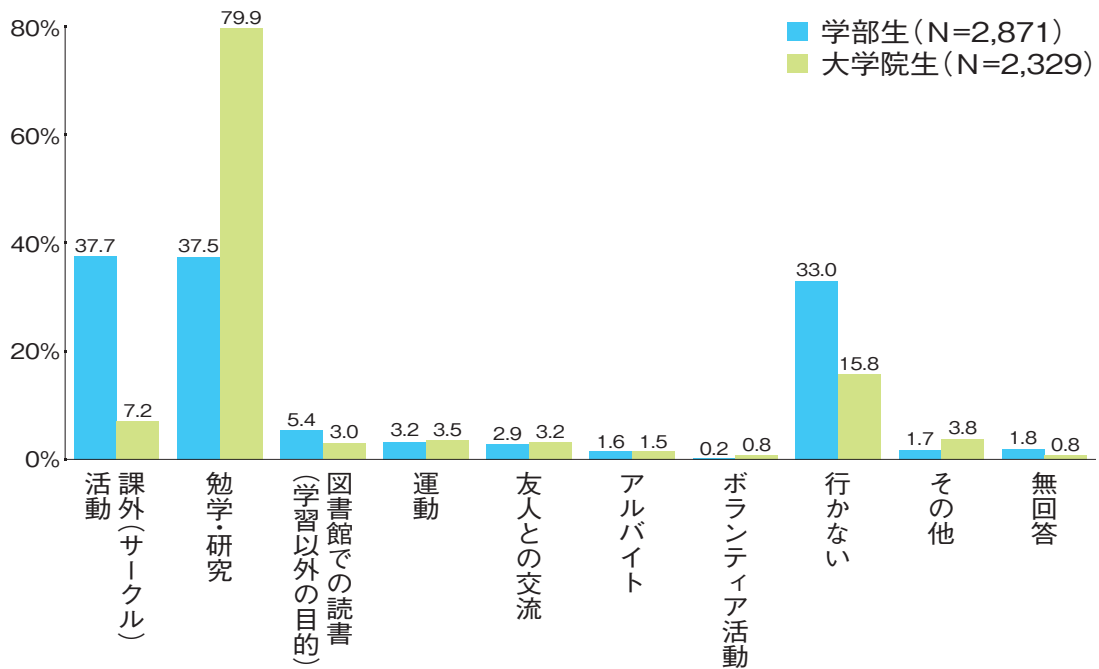
(人)	調査数	図書館	研究室	空き教室	自習スペース	食堂・カフェ	課外活動施設	その他	無回答
学部生	2,871	675	678	191	185	744	254	94	50
大学院生	2,329	82	2,050	6	65	33	16	51	26



(4)土日祝日に学校に行く理由【複数回答可】

休日に登校する理由は学部生が「課外活動」「勉学・研究」に分かれてましたが、大学院生ではほとんどが「勉学・研究」でした。

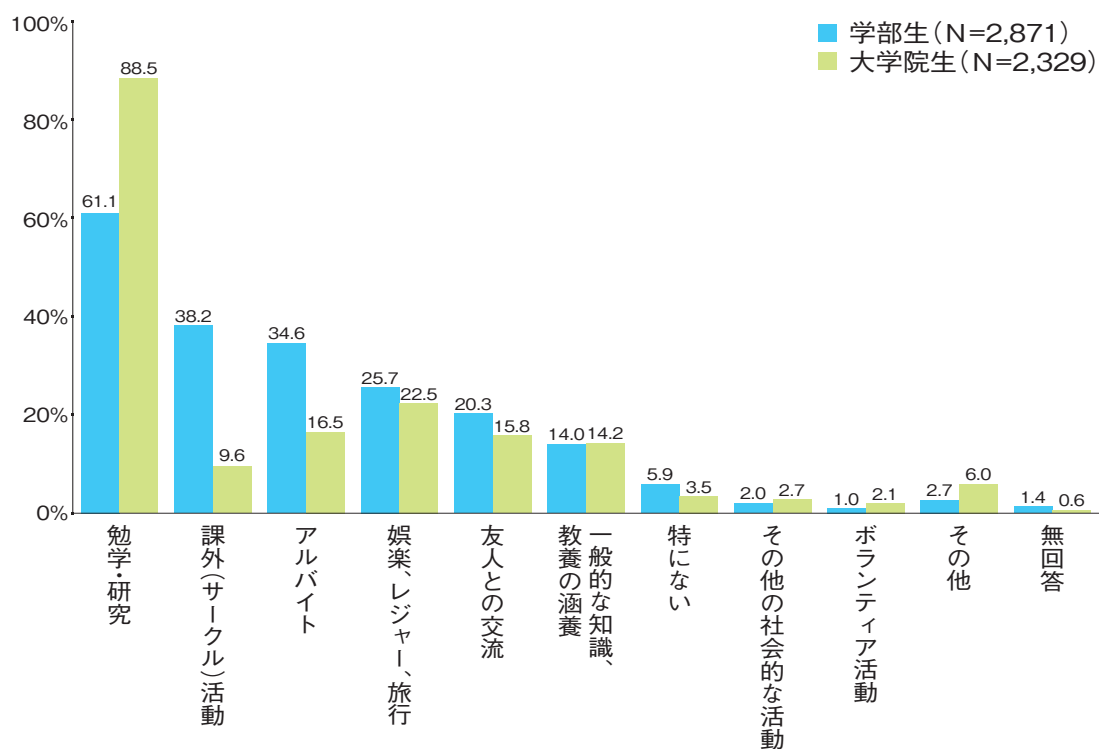
(人)	調査数	(サークル) 課外活動	勉学・研究	図書館での読書(学習以外の目的)	運動	友人との交流	アルバイト	ボランティア活動	行かない	その他	無回答
学部生	2,871	1,081	1,077	154	91	84	46	6	947	49	53
大学院生	2,329	167	1,862	69	82	75	36	18	369	89	18



(5)現在、力を入れていること【複数回答可】

学部生・大学院生ともに「勉学・研究」がトップで、前回と同様でした。ついで学部生は「課外(サークル)活動」「アルバイト」と続くのに対して、大学院生では「娯楽、レジャー、旅行」「アルバイト」「友人との交流」「一般的な知識、教養の涵養」が続いています。

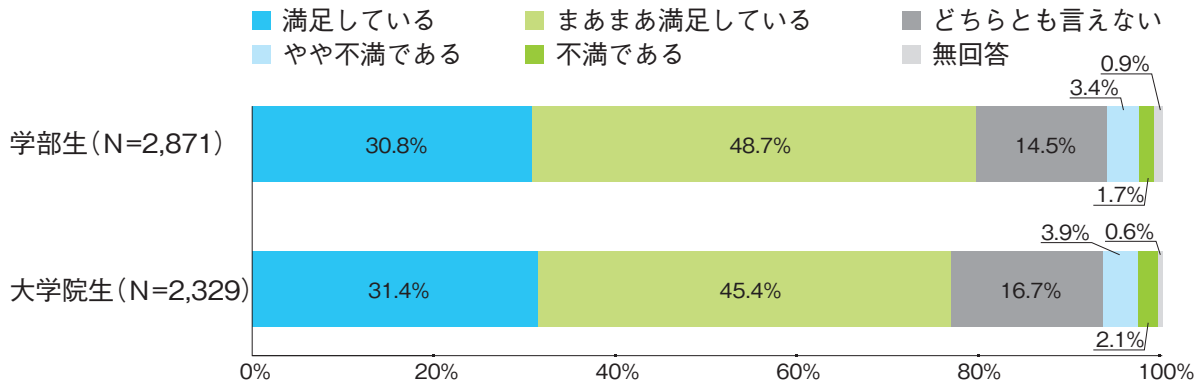
(人)	調査数	勉学・研究	課外(サークル)活動	アルバイト	娯楽、レジャー、旅行	友人との交流	一般的な知識、教養の涵養	特にない	その他の社会的な活動	ボランティア活動	その他	無回答
学部生	2,871	1,755	1,096	992	737	583	403	169	58	30	78	39
大学院生	2,329	2,062	223	384	523	369	331	81	64	49	139	13



(6) 大学生活の満足度

学部生、大学院生ともに75%以上の学生が「満足している」「まあまあ満足している」と回答しており、大学生活におおむね満足している状況がうかがえます。

(人)	調査数	満足している	まあまあ満足している	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	無回答
学部生	2,871	884	1,399	415	99	48	26
大学院生	2,329	731	1,057	389	90	49	13



(7) 大学生活の不満点

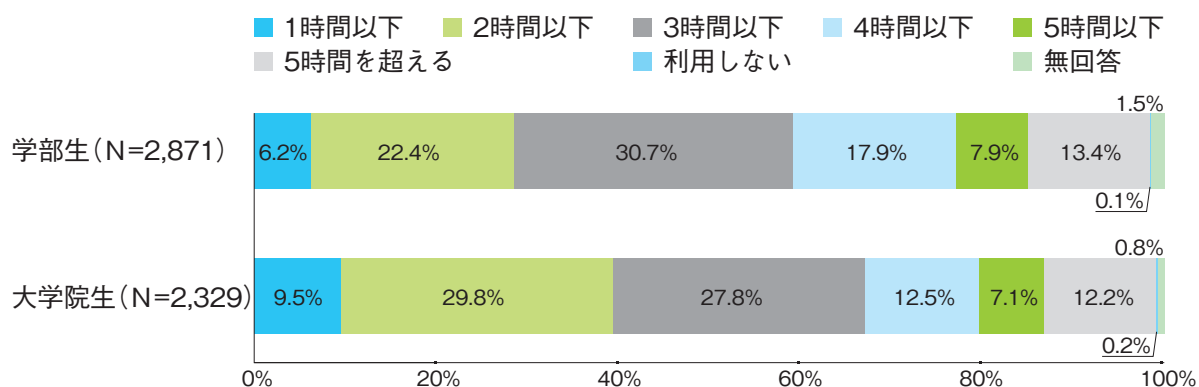
250件超の回答があり、伊都キャンパスの立地や周囲に商業施設・娯楽施設が少ない点、交通費の高さについての不満が多く上げられました。

また、授業・研究が多忙である、友人関係を築くことが難しい、漠然と不安であるといった回答も多くみられました。

(8) 1日のうち、勉学・研究以外の目的でインターネットを使用する時間

1日のインターネットの使用時間は学部生・大学院生ともに1～3時間の学生が多いという結果で、前回調査と同じでした。また、3時間以上利用する学生も3割以上います。

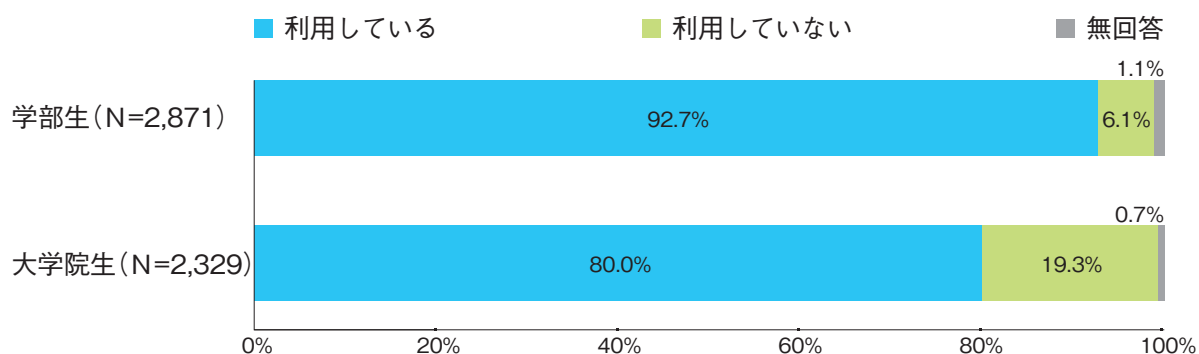
(人)	調査数	1時間以下	2時間以下	3時間以下	4時間以下	5時間以下	5時間を超える	利用しない	無回答
学部生	2,871	177	643	880	514	226	385	3	43
大学院生	2,329	222	695	647	292	165	285	5	18



(9) SNSの利用状況

SNSを利用している学生は学部生で92%、大学院生で80%となり、学部生の方が相対的に多い結果でした。学部生・大学院生ともに、利用者の割合は前回よりも増加しています。

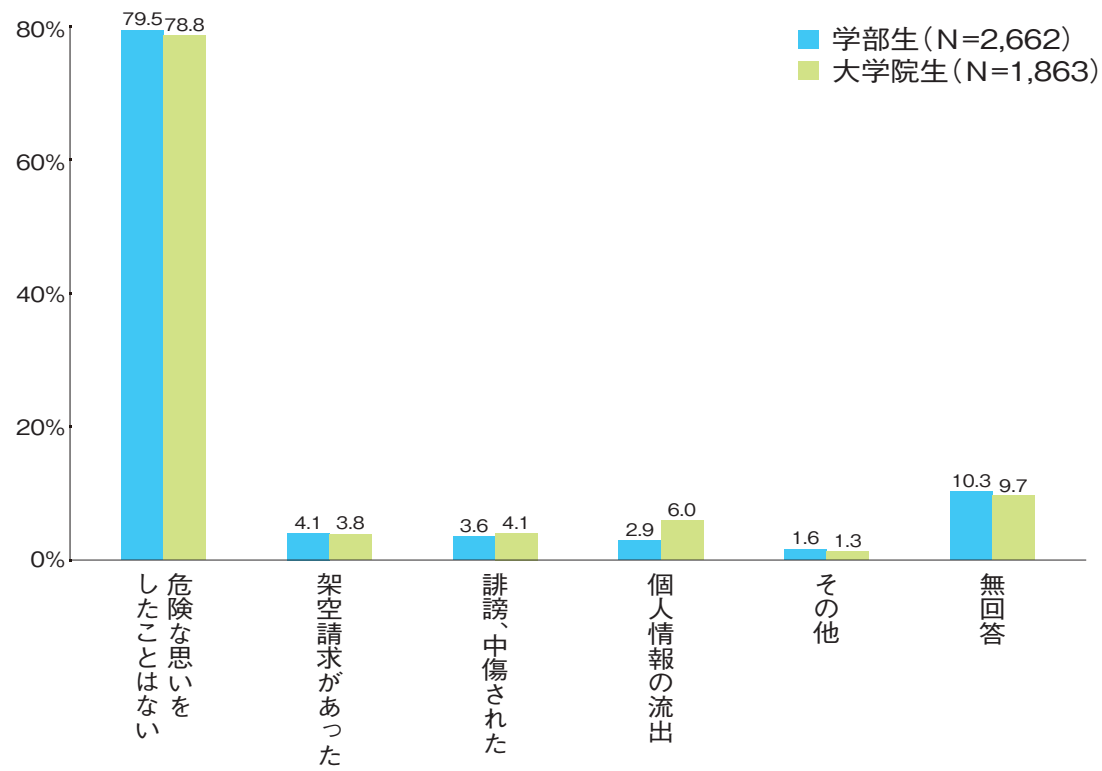
(人)	調査数	利用している	利用していない	無回答
学部生	2,871	2,662	176	33
大学院生	2,329	1,863	449	17



(10) SNSの利用で危険な(嫌な)思いをした経験【複数回答可】

SNSを利用して何らかの危険な(嫌な)思いをした学生は、前回調査よりも10～15%程度減少しています。

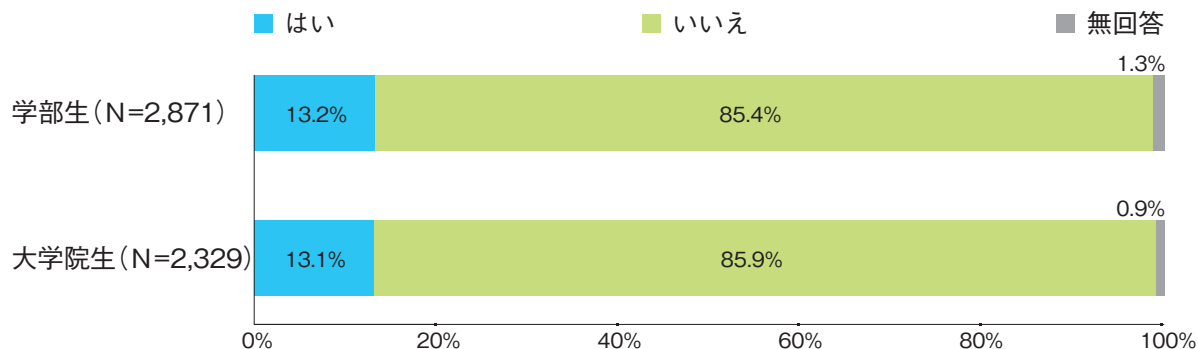
(人)	調査数	危険な思いをしたことはない	架空請求があった	中傷された 誹謗、	個人情報の流出	その他	無回答
学部生	2,662	2,117	108	95	77	42	273
大学院生	1,863	1,468	71	76	111	24	180



(11)身の危険を感じた経験

身の危険を感じたことがあると回答した学生は約13%で、前回の6%に比べて大幅に増えています。

(人)	調査数	はい	いいえ	無回答
学部生	2,871	380	2,453	38
大学院生	2,329	306	2,001	22

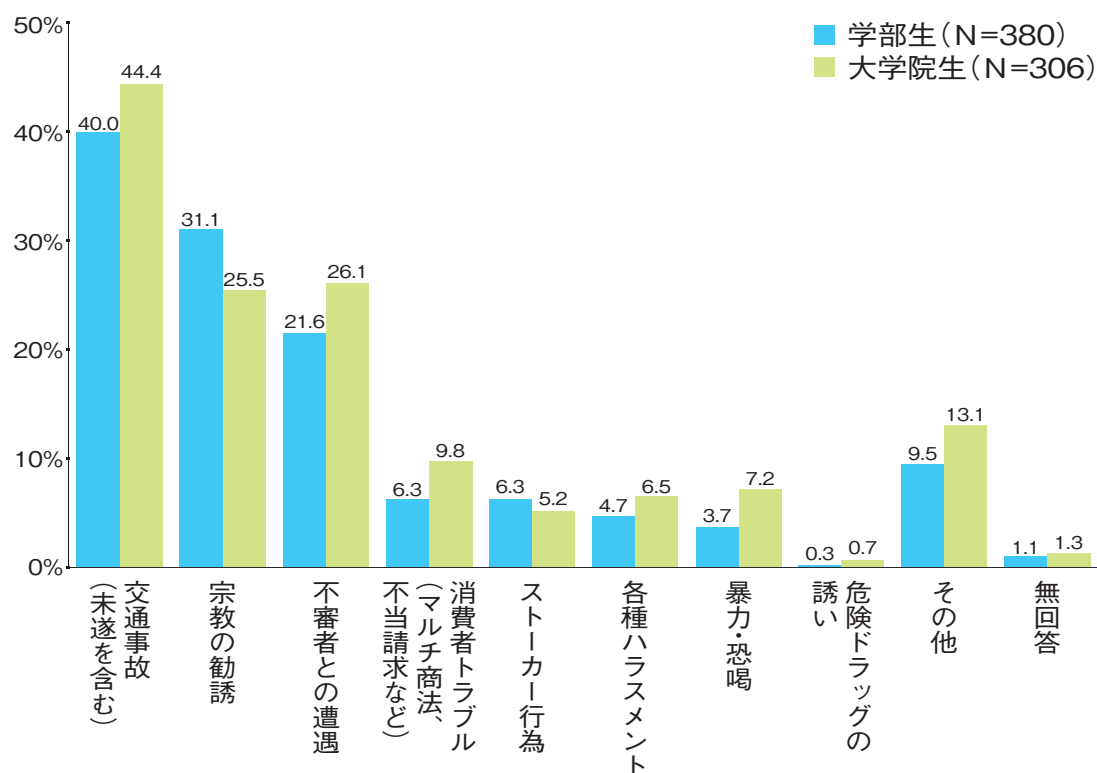


(12)身の危険を感じた内容【複数回答可】

「交通事故(未遂を含む)」「宗教の勧誘」「不審者との遭遇」が上位にあがっています。

「その他」には野生動物(イノシシ、スズメバチ)との遭遇、近隣住民とのトラブル等が見られました。

(人)	調査数	交通事故 (未遂を含む)	宗教の勧誘	不審者との遭遇	消費者トラブル (マルチ商法、 不当請求など)	ストーカー行為	各種ハラスメント	暴力・恐喝	危険ドラッグの 誘い	その他	無回答
学部生	380	152	118	82	24	24	18	14	1	36	4
大学院生	306	136	78	80	30	16	20	22	2	40	4



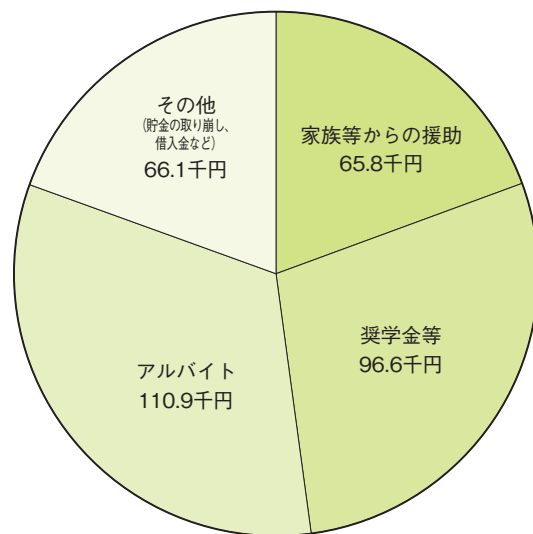
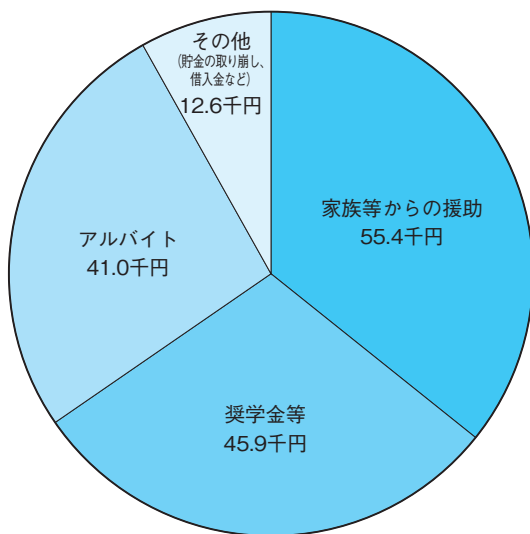
(1-1) 1 か月の平均収入額(平均金額)

前回調査より、学部生の月の平均総収入額が約 30,000 円減になっています。大学院生は、前回と同じくらいです。

特に学部生は、奨学金の収入が減っています(前回 60.0 千円)。

(千円)	①家族等からの援助	②奨学金等	③アルバイト	④その他 (貯金の取り崩し、 借入金など)	合計
学部生	55.4	45.9	41.0	12.6	155.0
大学院生	65.8	96.6	110.9	66.1	339.5

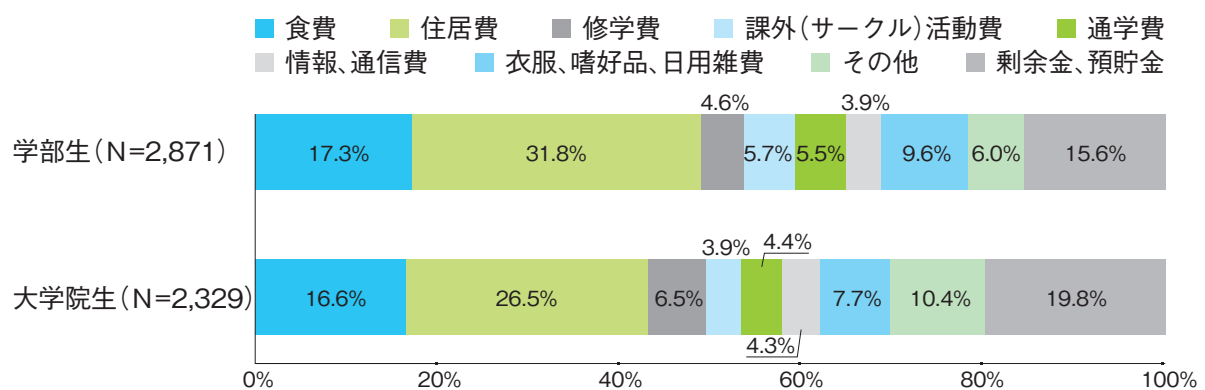
■ 学部生 (N=2,871)
■ 大学院生 (N=2,329)



(1-2) 1 か月の平均支出額(構成比)

各支出費目の構成比は、学部学生と大学院生で大きな違いはありませんでした。大学院生の方が収入が多い分、食費・住居費等の基礎支出費の構成比が相対的に下がっています。

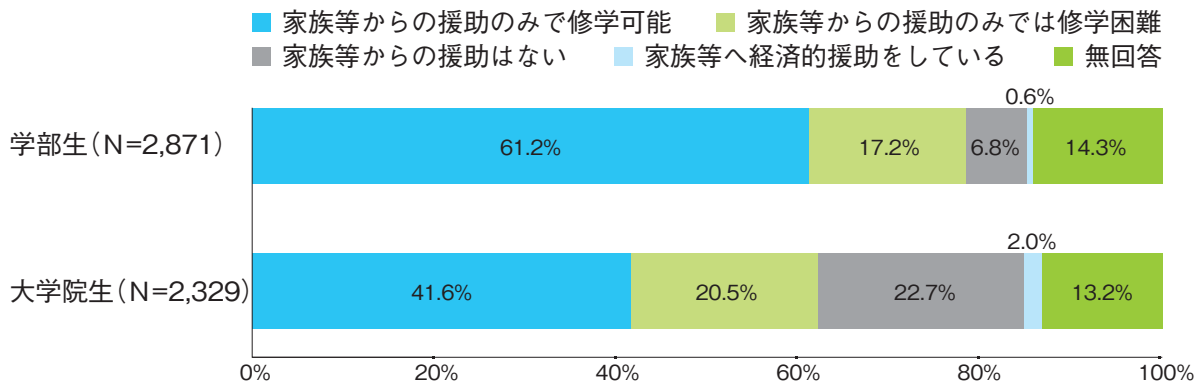
(千円)	①食費	②住居費(家賃、 光熱水量費、 駐車場代など)	③修学費(書籍、 実習材料、文房具、 実習学会旅費など)	④課外(サークル) 活動費	⑤通学費	⑥情報、 通信費	⑦衣服、嗜好品、 日用雑費	⑧その他	⑨剰余金、 預貯金	合 計
学部生	24.0	44.2	6.4	7.9	7.7	5.4	13.3	8.4	21.7	139.0
大学院生	34.0	54.2	13.3	7.9	9.0	8.7	15.7	21.4	40.6	204.6



(2) 家族等からの送金と修学との関係

学部学生の61.2%が家族等からの送金のみで修学可能な状況にあり、大学院生では41.6%でした。一方で、22.7%の大学院生が「家族からの援助はない」状況で修学しており、学部学生の6.8%と比較して、自立の傾向が強いことがうかがえます。

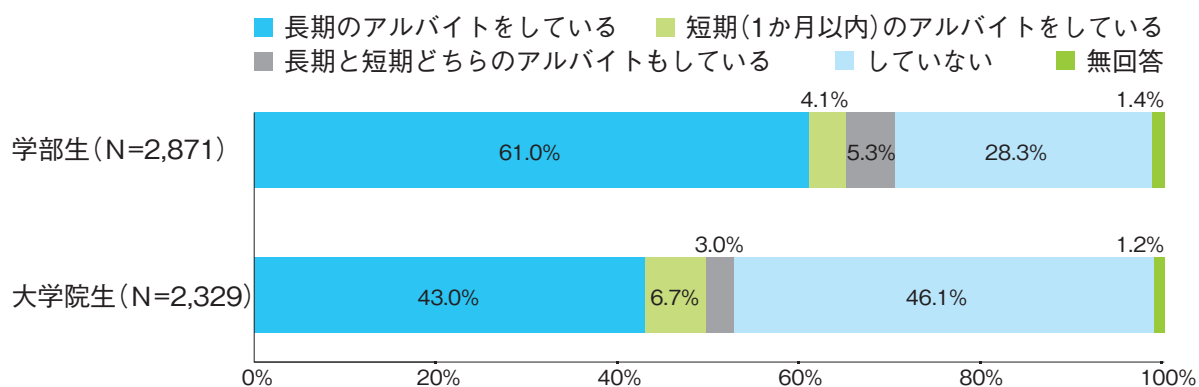
(人)	調査数	家族等からの援助のみで修学可能	家族等からの援助のみでは修学困難	家族等からの援助はない	家族等へ経済的援助をしている	無回答
学部生	2,871	1,756	494	195	16	410
大学院生	2,329	969	478	528	46	308



(1) アルバイトの状況

前回調査と比べ、特に学部生でアルバイトをしている学生が増えています(学部生 57.6%→70.4%、大学院生 47.5%→52.7%)。

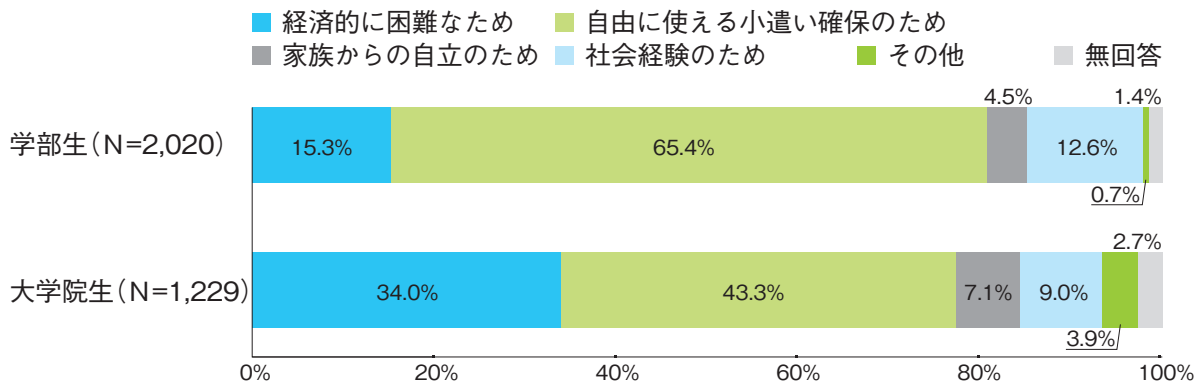
(人)	調査数	長期のアルバイトをしている	短期(1か月以内)のアルバイトをしている	長期と短期どちらのアルバイトもしている	していない	無回答
学部生	2,871	1,750	118	152	812	39
大学院生	2,329	1,001	156	71	1,074	27



(2-1) アルバイトをしている理由

アルバイトをしている理由については、学部生、大学院生ともに「自由に使える小遣い確保のため」が最も多く、「経済的に困難なため」が続きました。学部生は前回と同じ結果ですが、大学院生は前回「経済的に困難なため」が41.1%で1位、「自由に使える小遣い確保のため」が32.5%で2位だったため、逆転しています。

(人)	調査数	経済的に困難なため	自由に使える小遣い確保のため	家族からの自立のため	社会経験のため	その他	無回答
学部生	2,020	309	1,322	90	255	15	29
大学院生	1,229	418	532	87	111	48	33

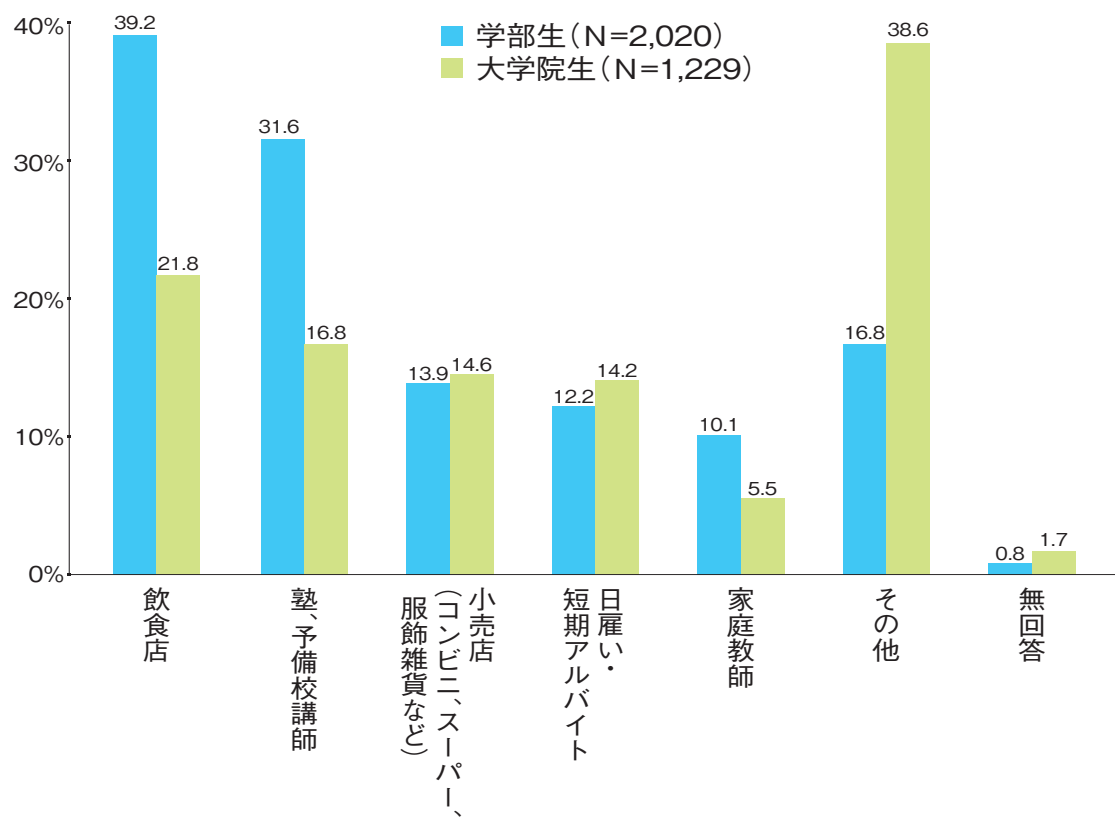


(2-2) アルバイトの職種【複数回答可】

前回の調査に比べ、学部生は、塾・予備校生の割合が減少し、飲食店や日雇い・短期バイトの比率が増加しています。

大学院生の「その他」の内訳はT A・R Aが主でした。

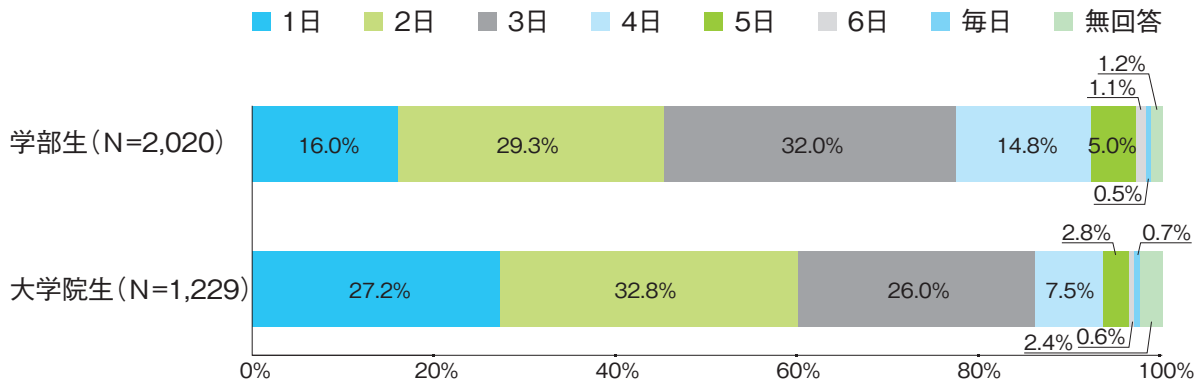
(人)	調査数	飲食店	塾、予備校講師	小売店（コンビニ、スーパー、服飾雑貨など）	日雇い・短期アルバイト	家庭教師	その他	無回答
学部生	2,020	792	639	281	247	205	339	16
大学院生	1,229	268	206	179	174	68	475	21



(2-3) 1 週間の勤務日数

学部生は週3日が最も多いのに対し、大学院生は週2日が最も多く、週1日が続きます。また、学部生の2割が週4日以上働いており、平均的な勤務日数は学部生の方が大学院生より多い結果となりました。前回調査とおおむね同じ傾向です。

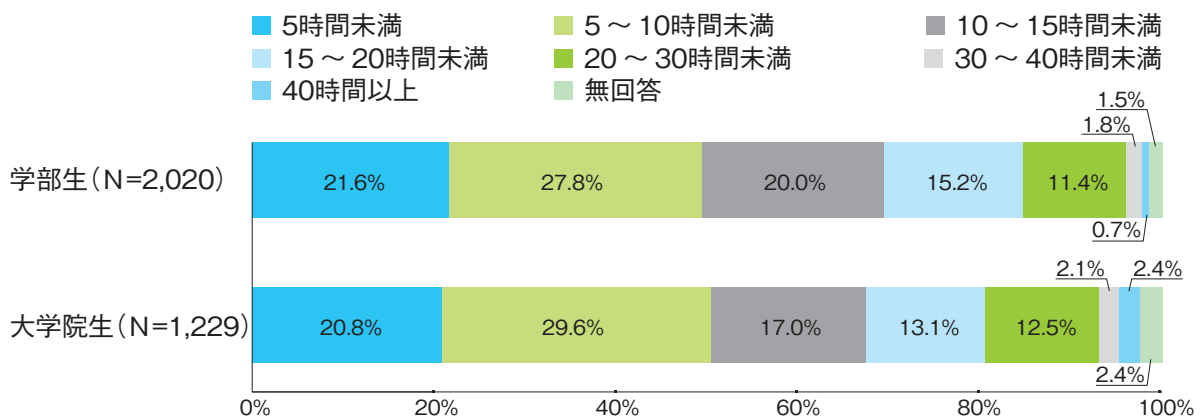
(人)	調査数	1日	2日	3日	4日	5日	6日	毎日	無回答
学部生	2,020	323	592	647	299	101	22	11	25
大学院生	1,229	334	403	320	92	35	7	8	30



(2-4) 1 週間のアルバイト時間

1 週間のうちの就労時間が15時間までの合計は、学部学生が69.1%、大学院生が67.2%で、7割弱の学生が15時間未満の就労となっていました。また、15～30時間でも、学部学生が26.6%、大学院生が25.5%と、両者でほぼ同じ割合を占めています。前回調査とおおむね同じ傾向です。

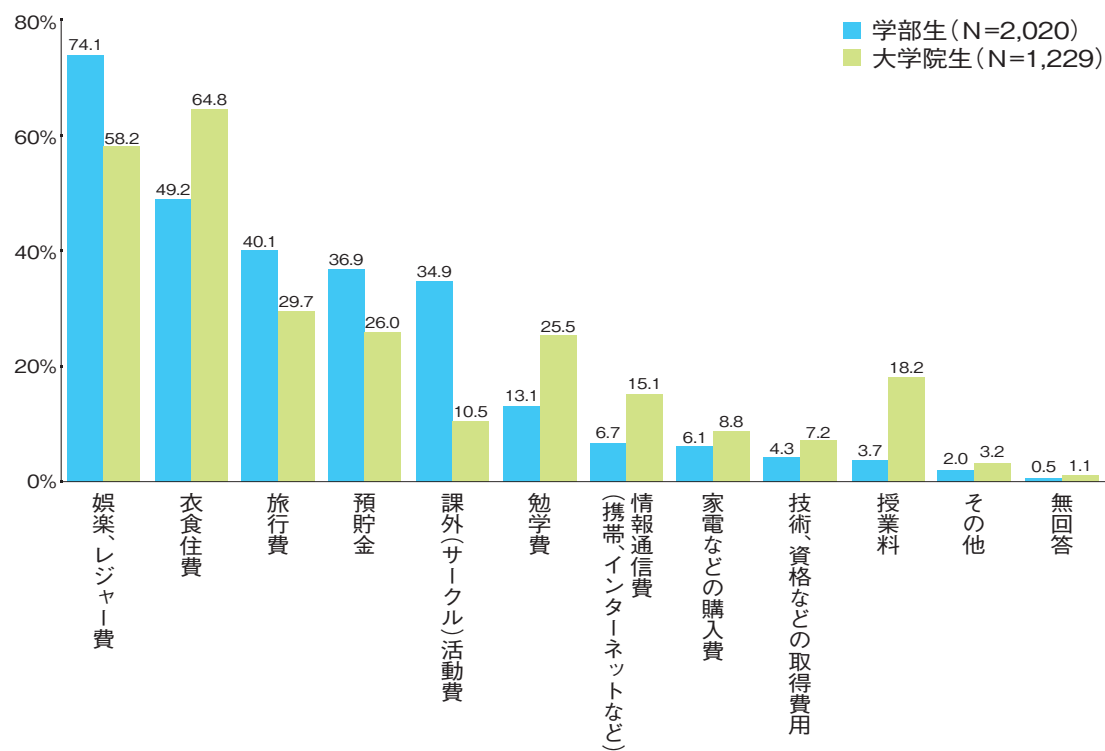
(人)	調査数	5時間未満	5～10時間未満	10～15時間未満	15～20時間未満	20～30時間未満	30～40時間未満	40時間以上	無回答
学部生	2,020	437	561	404	308	230	36	14	30
大学院生	1,229	256	364	209	161	154	26	29	30



(2-5) アルバイト収入の使い道【複数回答可】

学部生、大学院生ともに「娯楽、レジャー費」「衣食住費」の割合が高くなっています。学部生では「娯楽、レジャー費」「旅行費」「預貯金」「課外(サークル)活動費」等が大学院生に比べ高い比率を示す一方で、大学院生では「衣食住費」「勉学費」「通信費」「授業料」等の比率が学部生より高く、両者の生活様式の差を反映していると考えられます。

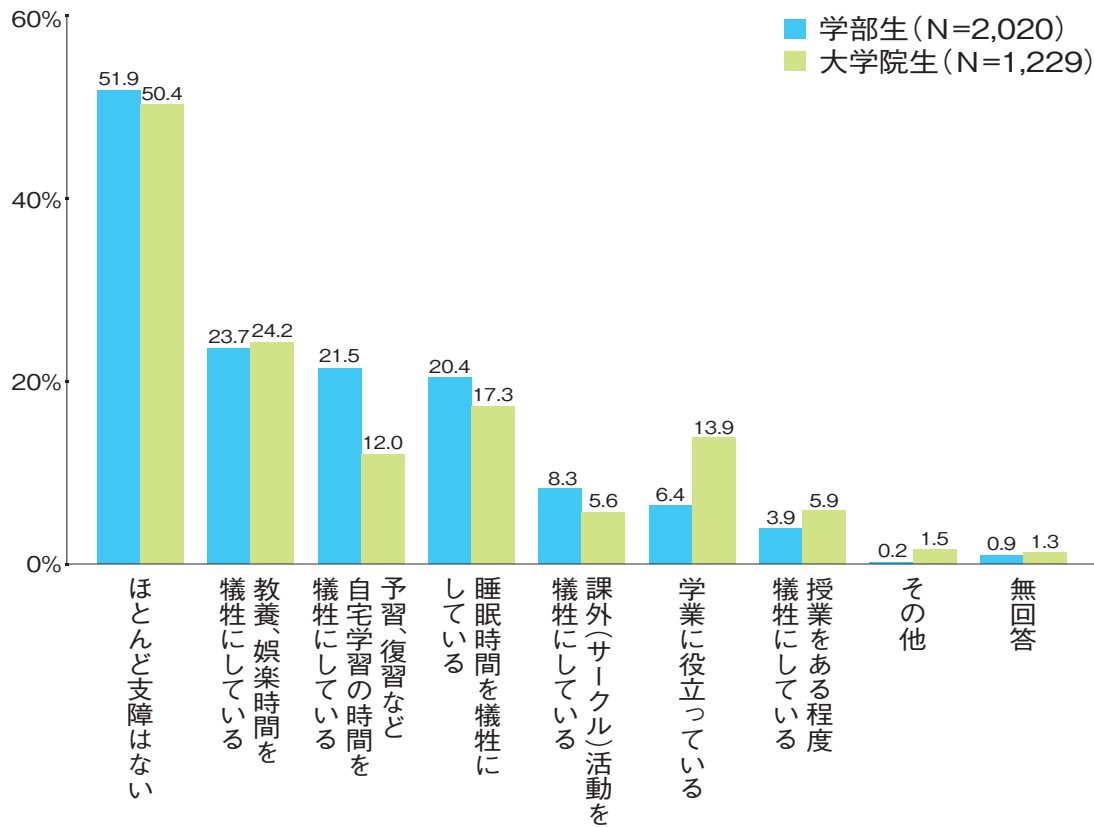
(人)	調査数	娯楽、 レジャー費	衣食住費	旅行費	預貯金	課外(サークル) 活動費	勉学費	情報通信費(携帯、 インターネットなど)	家電などの購入費	技術、資格などの 取得費用	授業料	その他	無回答
学部生	2,020	1,496	993	811	746	704	265	135	124	87	74	40	11
大学院生	1,229	715	796	365	319	129	313	186	108	88	224	39	13



(2-6) アルバイトと学業との関係【複数回答可】

前回調査同様、学部生、大学院生ともに半数の学生が「ほとんど支障はない」と回答し、最も大きな割合を占めました。

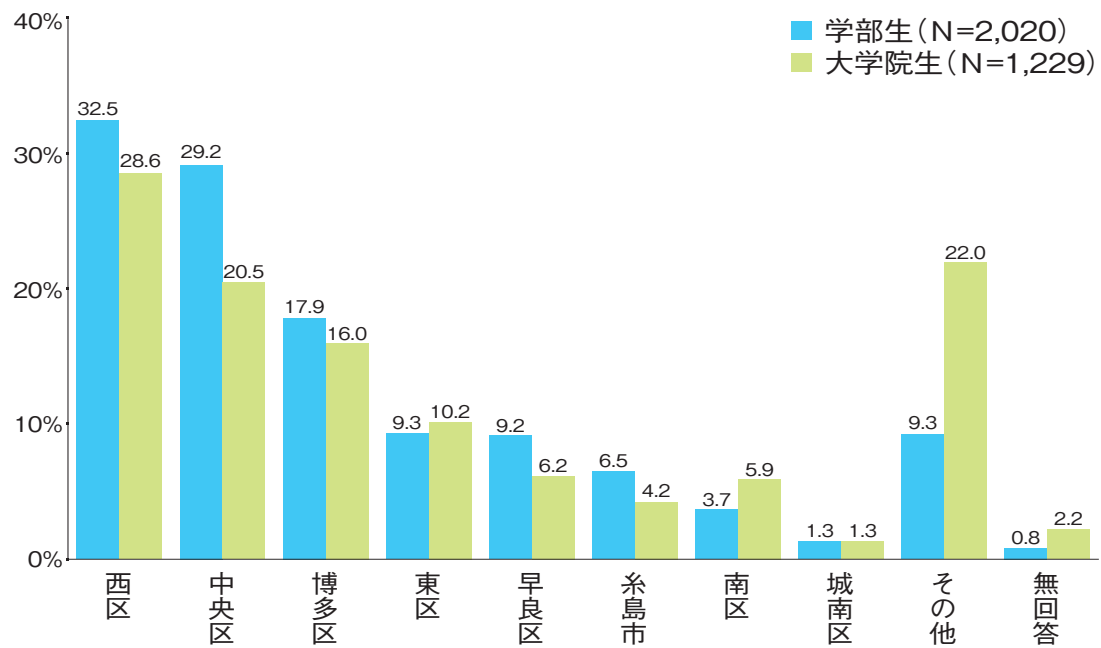
(人)	調査数	ほとんど支障はない	教養、娯楽時間を犠牲にしている	予習、復習など自宅学習の時間を犠牲にしている	睡眠時間を犠牲にしている	課外（サークル）活動を犠牲にしている	学業に役立っている	授業をある程度犠牲にしている	その他	無回答
学部生	2,020	1,049	478	434	413	167	130	79	4	19
大学院生	1,229	619	298	147	213	69	171	72	19	16



(2-7) アルバイトの勤務地【複数回答可】

学部生と大学院生はともに、西区、中央区、博多区の順番で多く、前回調査と比べ、西区のアルバイトの割合が増加しています(学部生 27.2%→32.4%、大学院生 23.0%→28.6%)。伊都キャンパスの移転完了を反映していると考えられます。

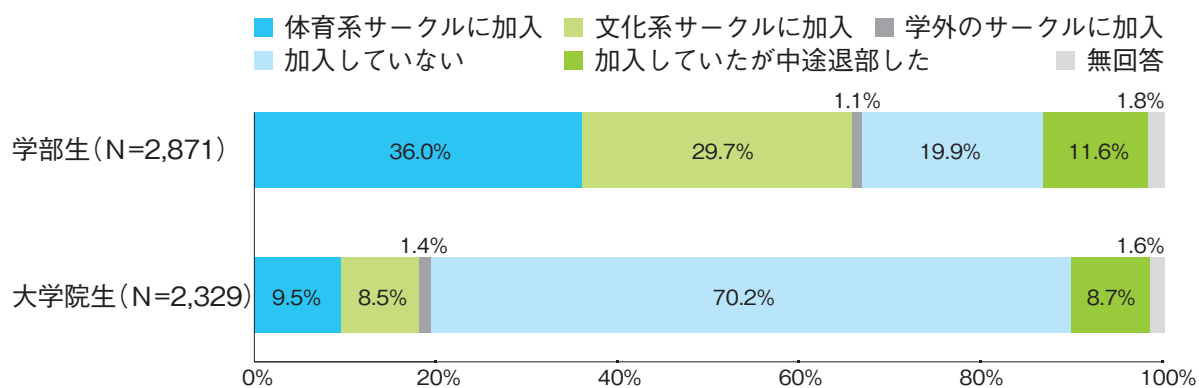
(人)	調査数	西区	中央区	博多区	東区	早良区	糸島市	南区	城南区	その他	無回答
学部生	2,020	656	590	361	188	185	131	74	27	187	17
大学院生	1,229	351	252	197	125	76	52	73	16	270	27



(1)サークル(課外活動)への参加状況

サークルへの参加状況をみると、学部生は加入者が7割弱で、加入率が高いといえます。大学院生でサークルに加入している学生は2割程度で、前回調査に比べて若干減少しています。

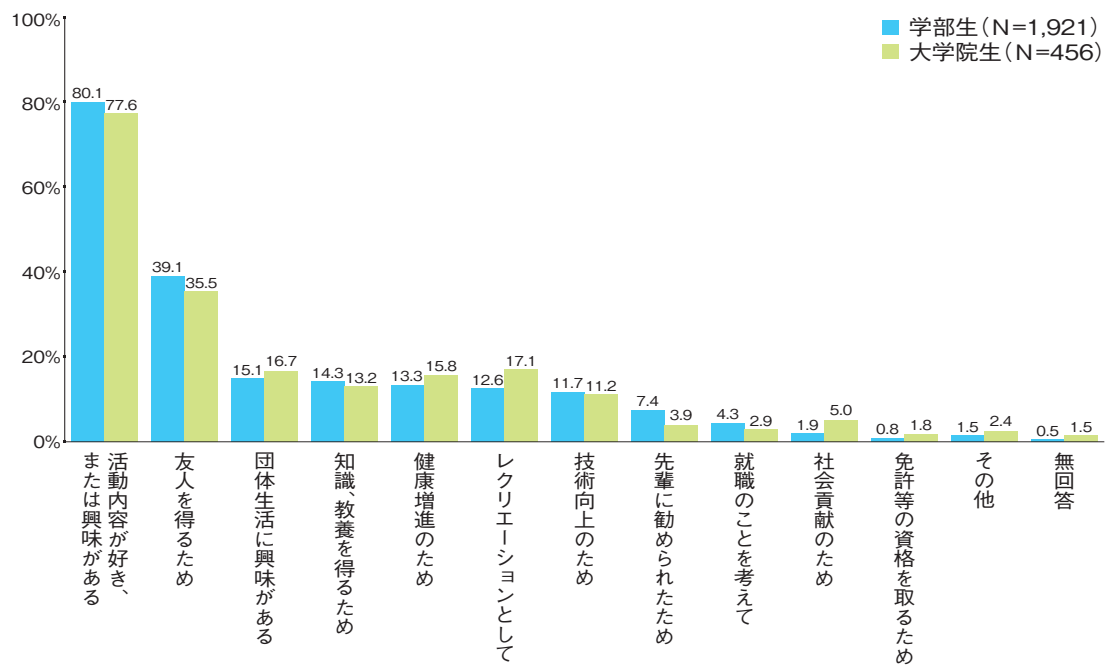
(人)	調査数	体育系サークル に加入	文化系サークル に加入	学外のサークル に加入	加入していない	加入していたが 中途退部した	無回答
学部生	2,871	1,033	852	31	570	333	52
大学院生	2,329	222	199	32	1,636	203	37



(2-1)サークルに加入した主な理由【複数回答可】

サークルに加入した理由については、学部生、大学院生ともに、「活動内容が好き、または興味がある」が8割前後に達して最も高く、次いで、「友人を得るため」が4割前後でした。

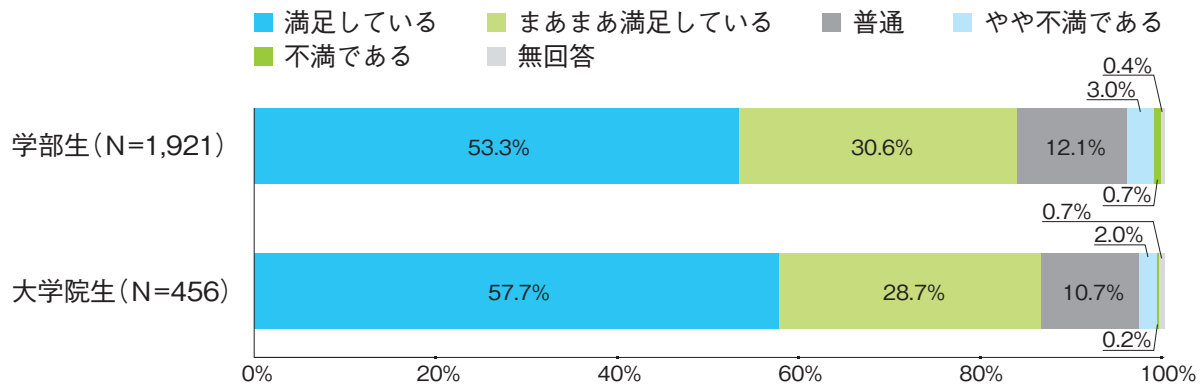
(人)	調査数	活動内容が好き、 または興味がある	友人を得るため	団体生活に 興味がある	知識、教養を 得るため	健康増進のため	レクリエーション として	技術向上のため	先輩に勧められた ため	就職のことを 考えて	社会貢献のため	免許等の資格を 取るため	その他	無回答
学部生	1,921	1,539	752	290	274	256	243	224	143	82	36	15	28	9
大学院生	456	354	162	76	60	72	78	51	18	13	23	8	11	7



(2-2)サークルの満足度

学部生も大学院生も、8割以上の学生がサークル活動に満足しているようです。

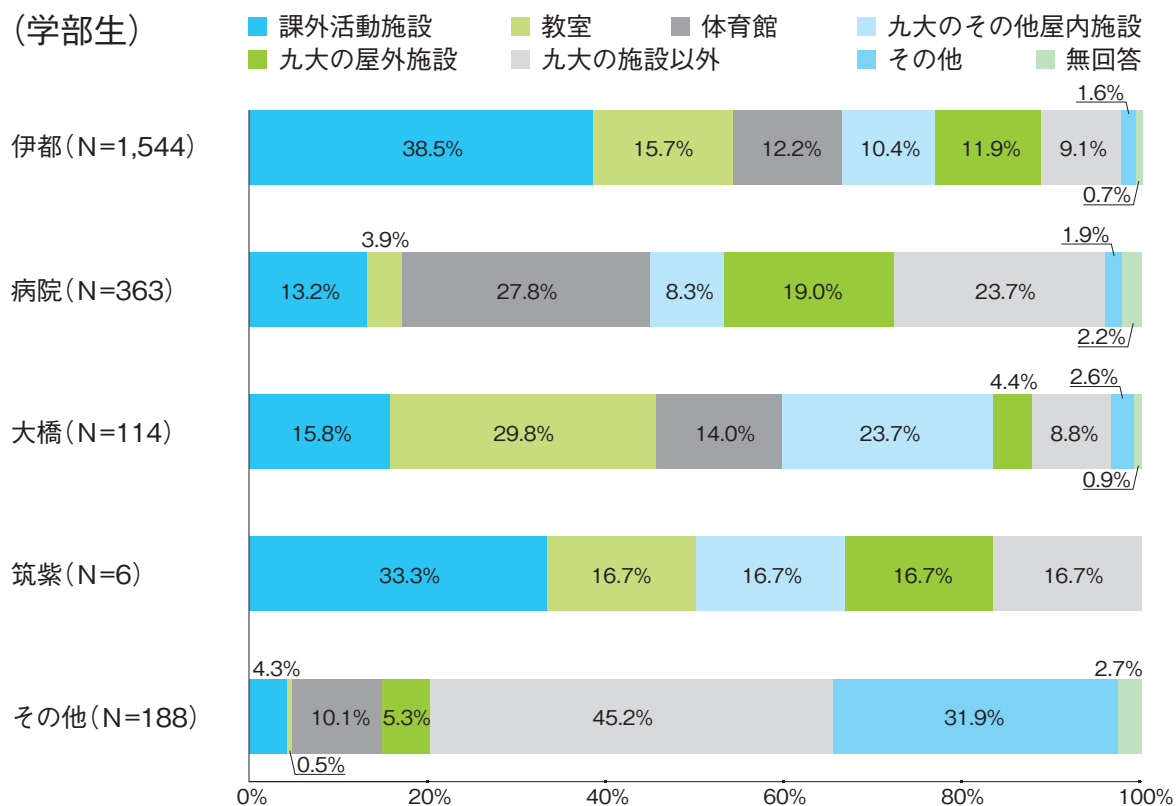
(人)	調査数	満足している	まあまあ満足している	普通	やや不満である	不満である	無回答
学部生	1,921	1,023	587	232	57	14	8
大学院生	456	263	131	49	9	1	3



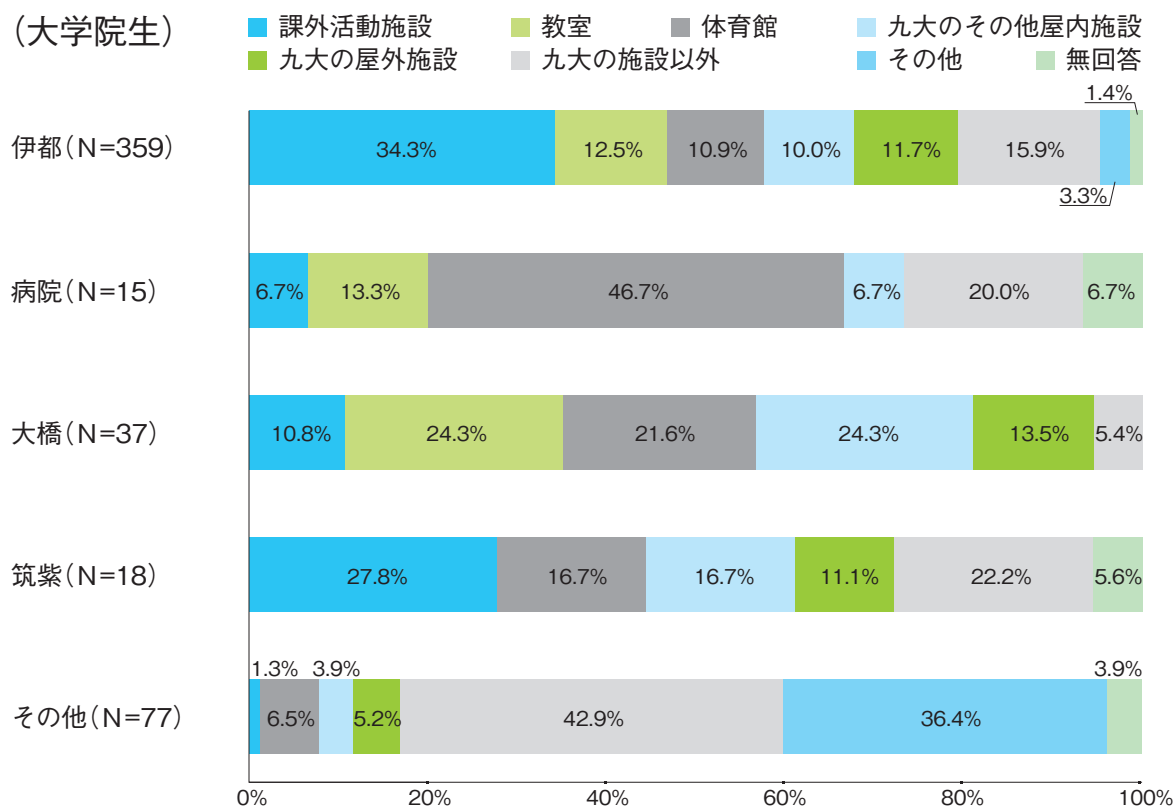
(2-3)サークル活動の場所

サークル活動の場所は、伊都キャンパスと筑紫キャンパスは、課外活動施設での活動が最も多い割合となっています。病院キャンパスは、他のキャンパスと比べ、体育館や九大以外の施設での活動が多くなっています。また大橋キャンパスは教室を利用した活動が最も多くなっています。

(学部生)



(大学院生)

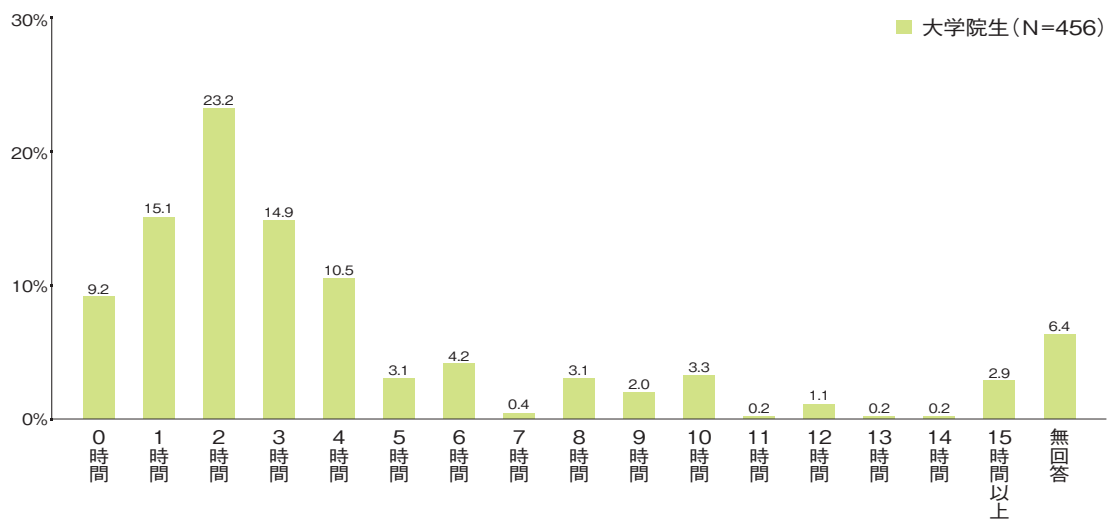
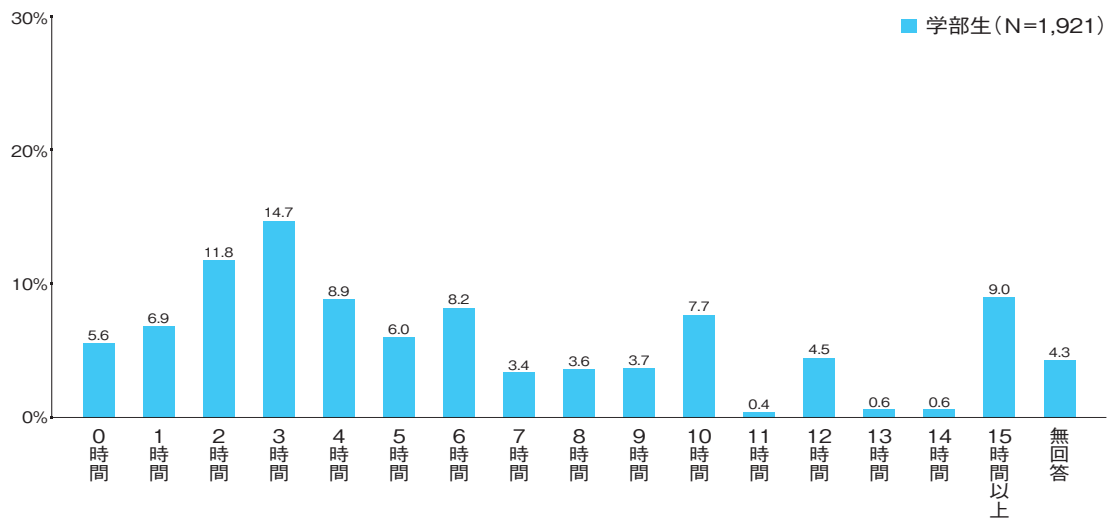


(2-4) 1週間あたりのサークル活動時間

1週間あたりの活動時間は、学部生では3時間、大学院生では2時間が最も多いようですが、週に15時間以上の活動を行っているサークルも見られるため、平均では学部生が6.2時間、大学院生が3.9時間となっています。

前回調査より、学部生は活動時間が減少し、大学院生は増加しています。

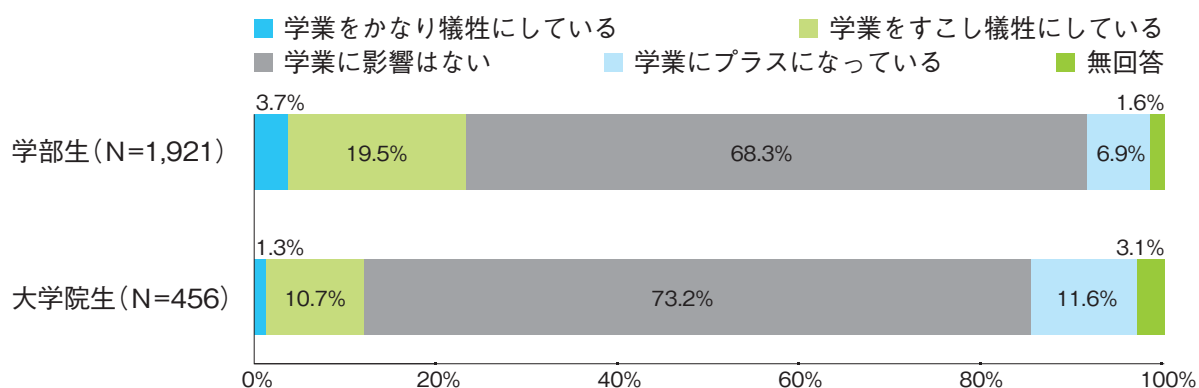
(人)	調査数	0時間	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間	10時間	11時間	12時間	13時間	14時間	15時間以上	無回答
学部生	1,921	107	132	227	283	171	116	158	65	69	71	148	8	86	12	12	173	83
大学院生	456	42	69	106	68	48	14	19	2	14	9	15	1	5	1	1	13	29



(2-5)サークル活動と学業との関係

学業との関係をみると、「学業に影響はない」が学部生で 68.3%、大学院生で 73.2%と最も高く、次いで、「学業をすこし犠牲にしている」が学部生で 19.5%、大学院生で 10.7%、となっています。「学業にプラスになっている」が学部生で 6.9%、大学院生で 11.6%となっており、多くの学生が、学業との両立が成り立っていると感じているようです。

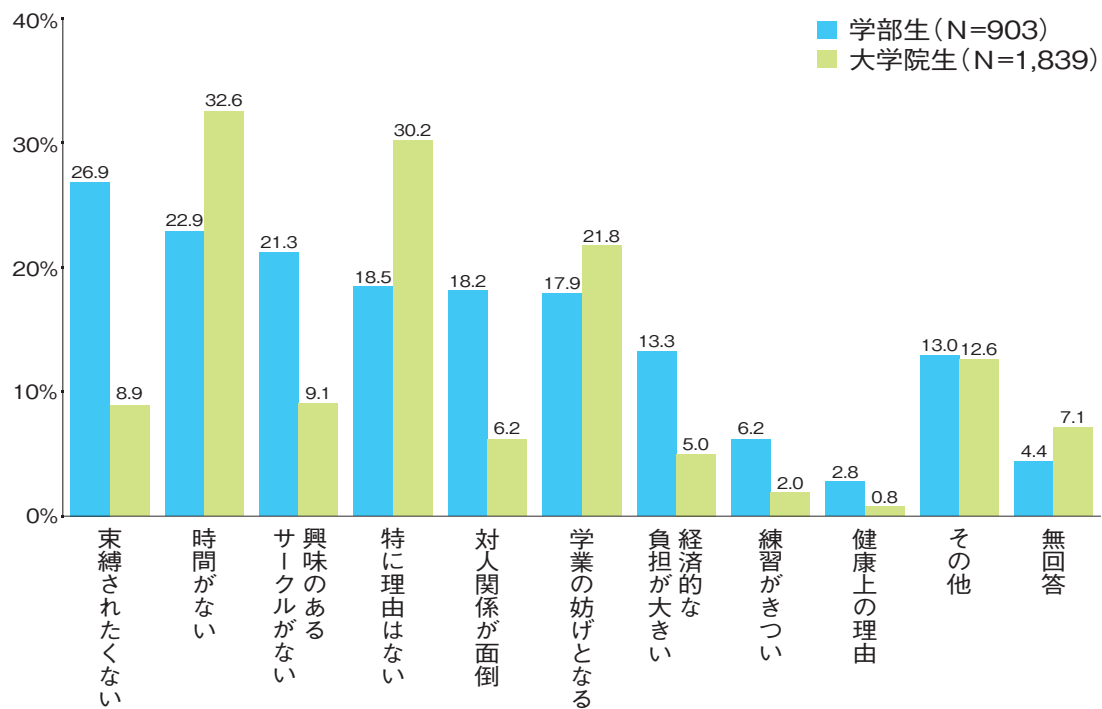
(人)	調査数	学業をかなり犠牲にしている	学業をすこし犠牲にしている	学業に影響はない	学業にプラスになっている	無回答
学部生	1,921	71	375	1,312	132	31
大学院生	456	6	49	334	53	14



(3) サークルに加入していない理由【複数回答可】

サークルに加入していない理由としては、学部生は「束縛されたくない」「時間がない」との理由が上位に挙がっています。また、大学院生は「時間がない」「学業の妨げとなる」という意見が上位で、勉学・研究を優先していることがうかがえます。

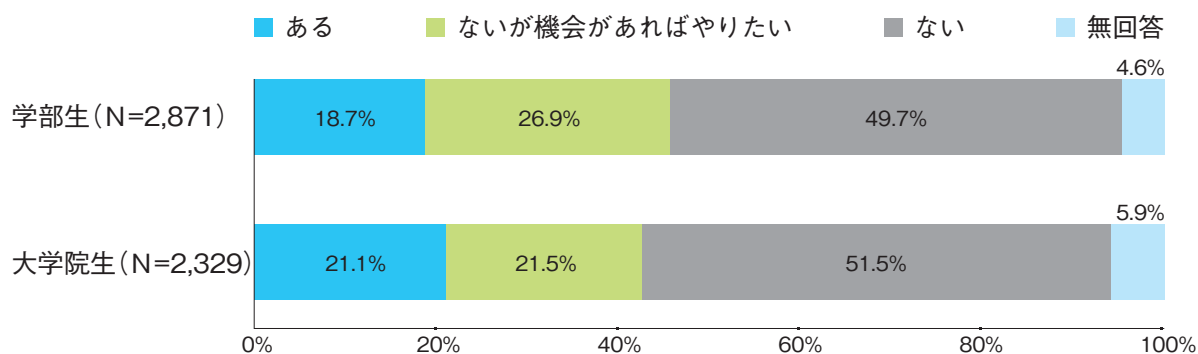
(人)	調査数	束縛されたくない	時間がない	興味のあるサークルがない	特に理由はない	対人関係が面倒	学業の妨げとなる	経済的な負担が大きい	練習がきつい	健康上の理由	その他	無回答
学部生	903	243	207	192	167	164	162	120	56	25	117	40
大学院生	1,839	164	600	167	556	114	401	92	36	14	232	131



(4) ボランティア活動の経験

ボランティア活動の経験は、学部生、大学院生ともに70%強の学生が「経験なし」と答えています。また、経験のない学生のうちの3割程度が「機会があればやりたい」と回答しています。

(人)	調査数	ある	ないが 機会があれば やりたい	ない	無回答
学部生	2,871	538	772	1,428	133
大学院生	2,329	492	500	1,199	138

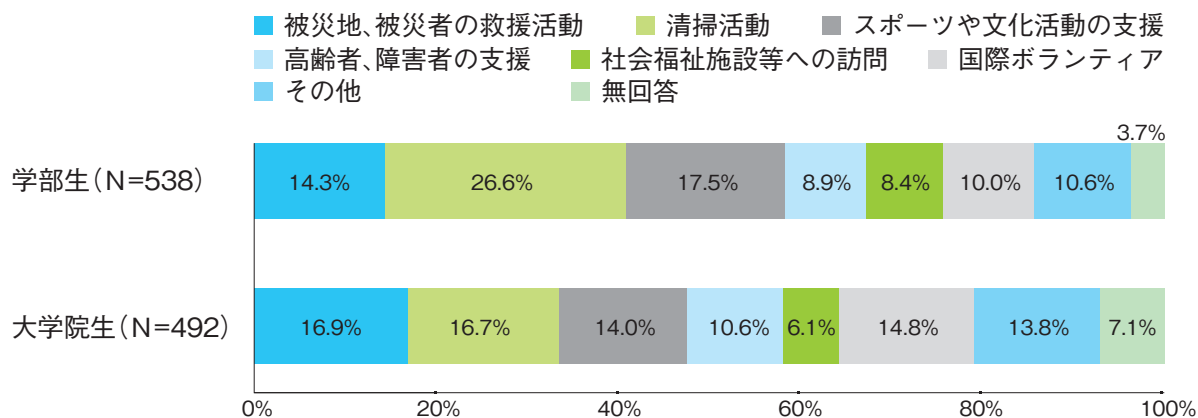


(5-1) ボランティア活動の内容

ボランティア活動の内容では、学部生では「清掃活動」が4分の1を占めています。

大学院生は、学部生と比べ国際ボランティアや被災地、被災者の救援活動の割合が高くなっています。

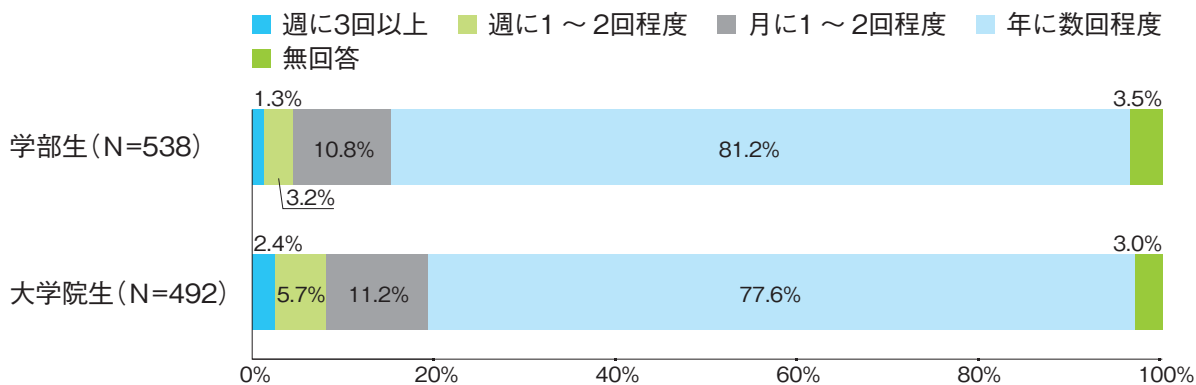
(人)	調査数	被災地、被災者の 救援活動	清掃活動	スポーツや文化 活動の支援	高齢者、障害者 の支援	社会福祉施設等 への訪問	国際 ボランティア	その他	無回答
学部生	538	77	143	94	48	45	54	57	20
大学院生	492	83	82	69	52	30	73	68	35



(5-2) ボランティア活動の頻度

活動の頻度をみると、年に数回程度が圧倒的に多い結果となりました。

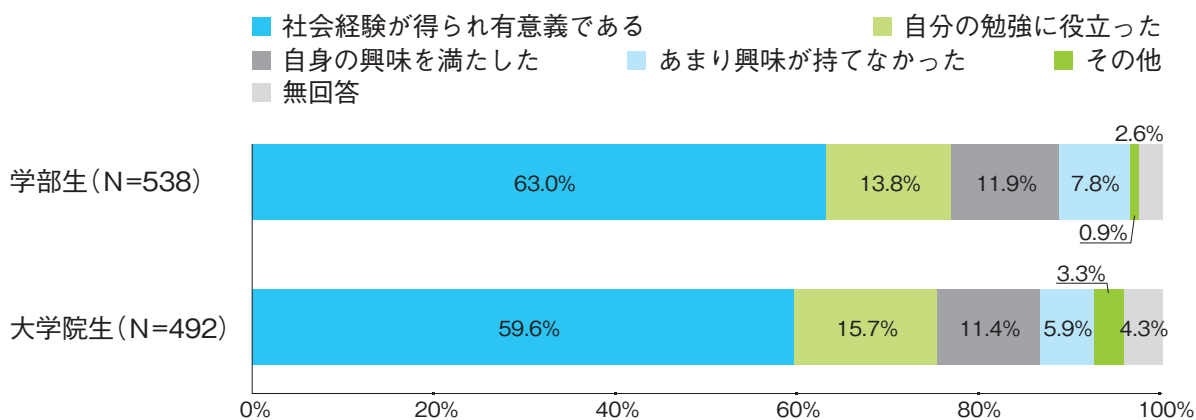
(人)	調査数	週に3回以上	週に1～2回程度	月に1～2回程度	年に数回程度	無回答
学部生	538	7	17	58	437	19
大学院生	492	12	28	55	382	15



(5-3) ボランティア活動の感想

ボランティア活動の感想をみると、「社会経験が得られ有意義である」が6割前後に達し、次いで、「自分の勉強に役だった」「自身の興味を満たした」が多く、おおむね、ボランティア活動の経験を肯定的に捉えているようです。

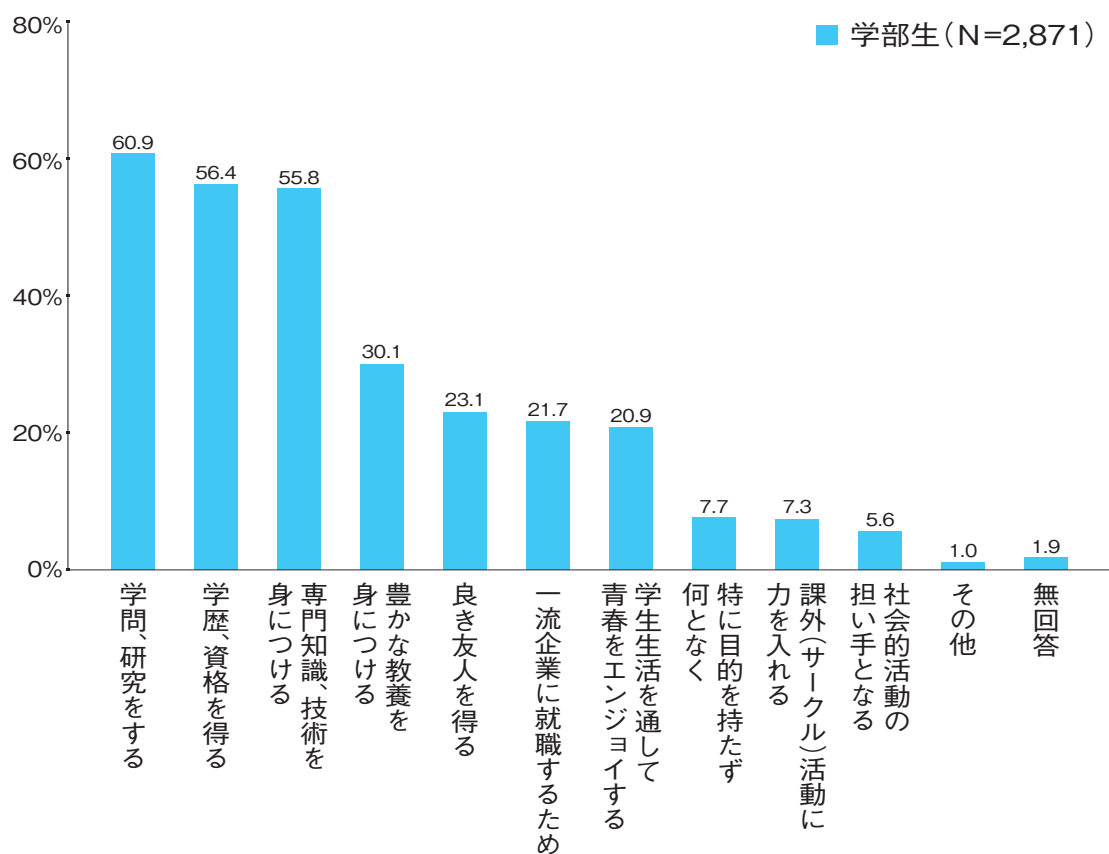
(人)	調査数	社会経験が得られ有意義である	自分の勉強に役立った	自身の興味を満たした	あまり興味が持てなかった	その他	無回答
学部生	538	339	74	64	42	5	14
大学院生	492	293	77	56	29	16	21



(1)大学に入学した理由【複数回答可】

学部生は60%以上が「学問・研究」を、50%以上が「学歴、資格」「専門知識・技術を身につける」ことを目的にしているようです。学業に対しての意欲があることを感じられます。また、前年調査より、「特に目的を持たず何となく」という意見の割合が上がったことが気になります(4.6%→7.2%)。

(人)	調査数	学問、研究をする	学歴、資格を得る	専門知識、技術を身につける	豊かな教養を身につける	良き友人を得る	一流企業に就職するため	学生生活を通して青春をエンジョイする	特に目的を持たず何となく	課外(サークル)活動に力を入れる	社会的活動の担い手となる	その他	無回答
学部生	2,871	1,749	1,620	1,603	864	663	622	599	221	211	161	30	55

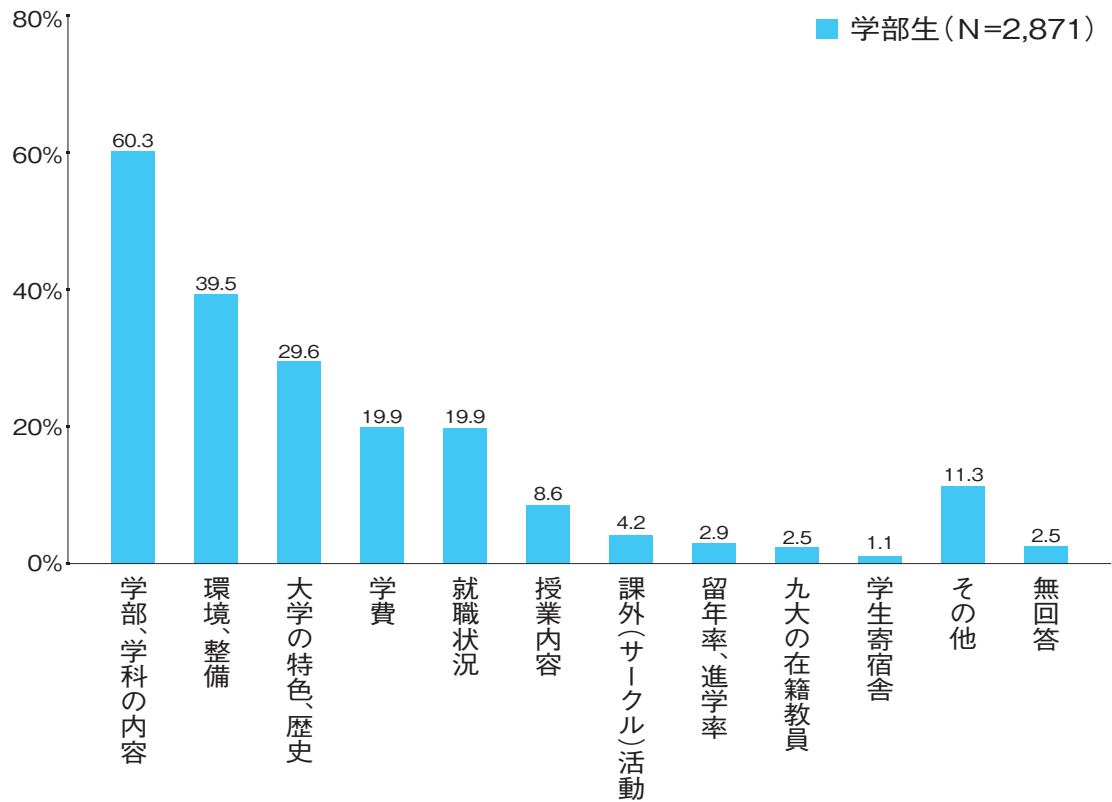


(2) 志望校決定時に注目した情報【複数回答可】

志願時に知りたかった大学の情報としては、「学部・学科の内容」(60.3%)や「環境・設備」(39.5%)が大きな割合を占めています。

前回調査と比べ、大幅に低下した事項として「就職状況」(33.3%→19.7%)、「授業内容」(29.7%→8.6%)があがります。

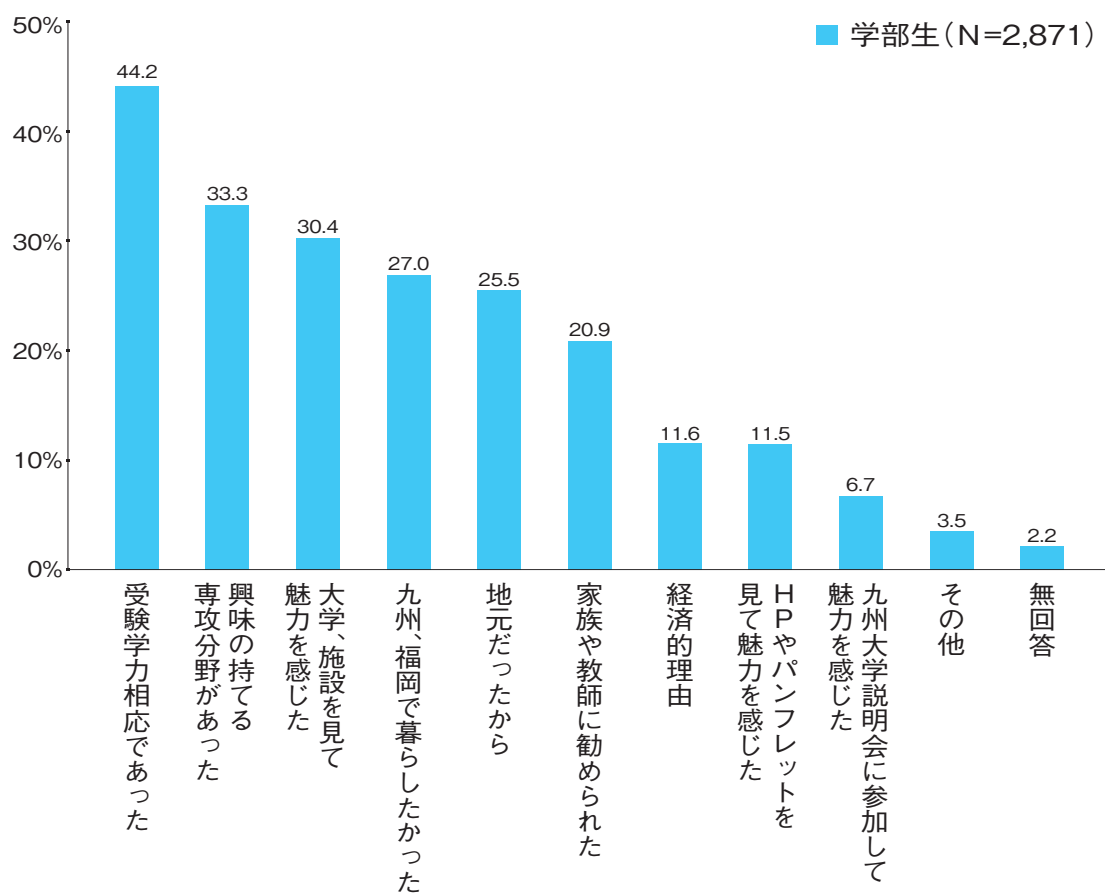
(人)	調査数	学部、学科の内容	環境、整備	大学の特色、歴史	学費	就職状況	授業内容	課外(サークル)活動	留年率、進学率	九大の在籍教員	学生寄宿舎	その他	無回答
学部生	2,871	1,731	1,134	849	572	570	246	121	84	71	33	325	72



(3) 九大に入学した主な理由【複数回答可】

学部生の入学の動機については「受験学力相応」や「興味の持てる専攻分野」が上位にあがっています。全体的な傾向は前回調査とおおむね同じですが、「大学、施設を見て魅力を感じた」の割合が上がっています(22.6% → 30.3%)。

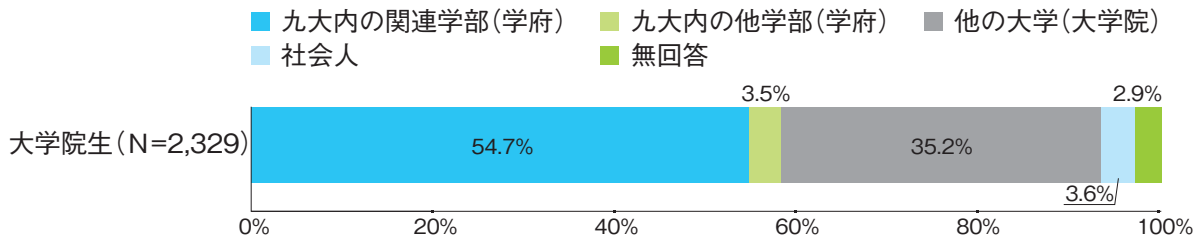
(人)	調査数	受験学力相応であった	興味の持てる 専攻分野があった	大学、施設を見て 魅力を感じた	九州、福岡で 暮らしたかった	地元だったから	家族や教師に 勧められた	経済的理由	HPやパンフレットを 見て魅力を感じた	九州大学説明会に参加 して魅力を感じた	その他	無回答
学部生	2,871	1,270	957	872	774	733	601	333	329	193	100	62



(4) 大学院生の出身大学等

九大内の関連学部(学府)から、九州大学の大学院へ進学した学生は、54.7%との結果が出ています。また、前回調査より、他大学から進学してきた学生の割合が上がっています(30.7%→35.2%)。

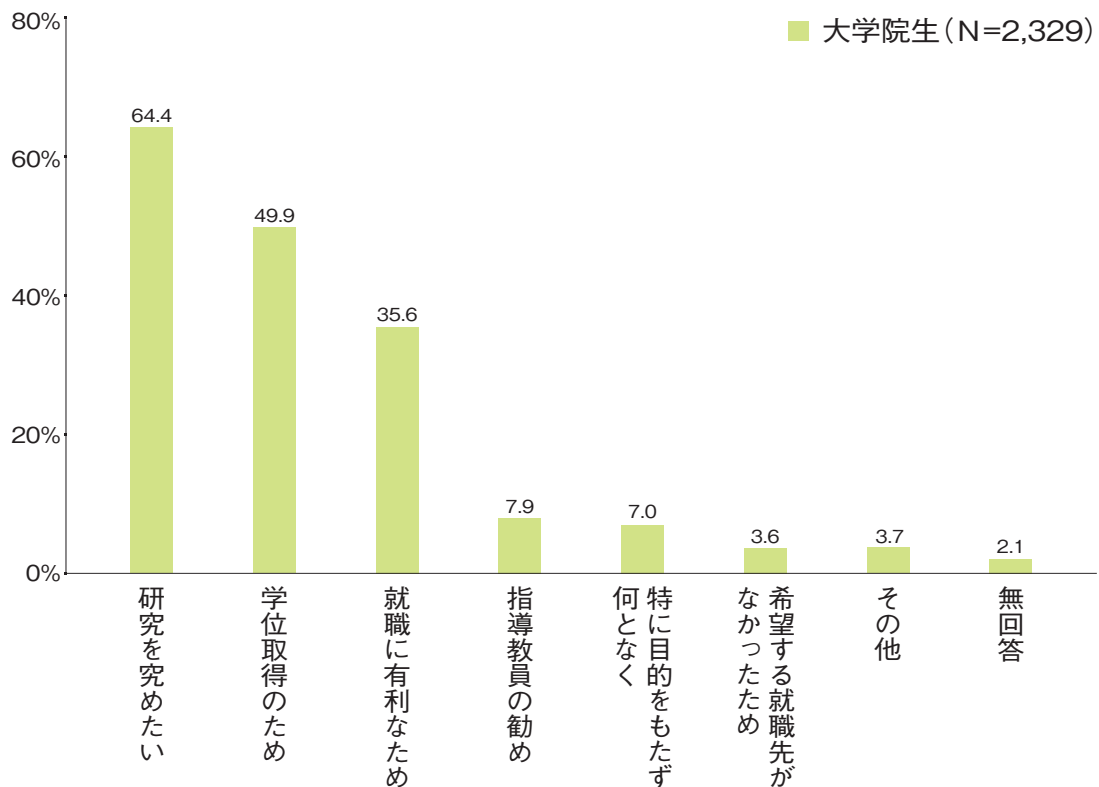
(人)	調査数	九大内の関連学部(学府)	九大内の他学部(学府)	他の大学(大学院)	社会人	無回答
大学院生	2,329	1,274	82	820	85	68



(5) 九大の大学院に進学した理由【複数回答可】

大学院に進学する理由は「研究を究めたい」と「学位取得のため」の回答が多く、次いで「就職に有利になるため」という回答が多くありました。

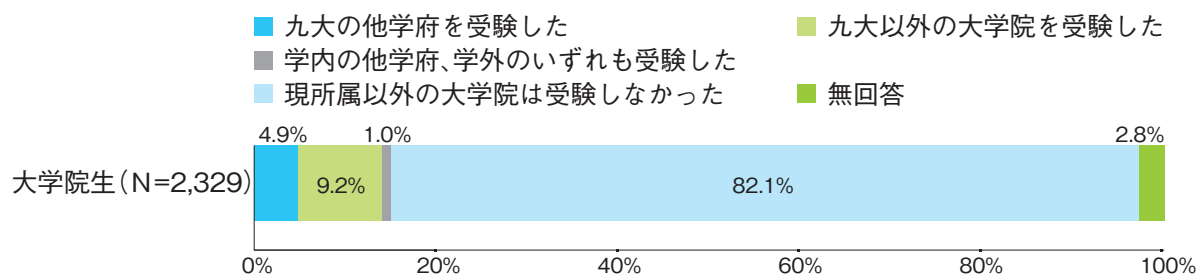
(人)	調査数	研究を究めたい	学位取得のため	就職に有利なため	指導教員の勧め	特に目的をもたず 何となく	希望する就職先が なかったため	その他	無回答
大学院生	2,329	1,499	1,163	829	185	162	85	87	48



(6) 現所属以外の大学院の受験の有無

大学院進学に際して、現所属の大学院のみを受けた者が82.1%と大多数を占めています。

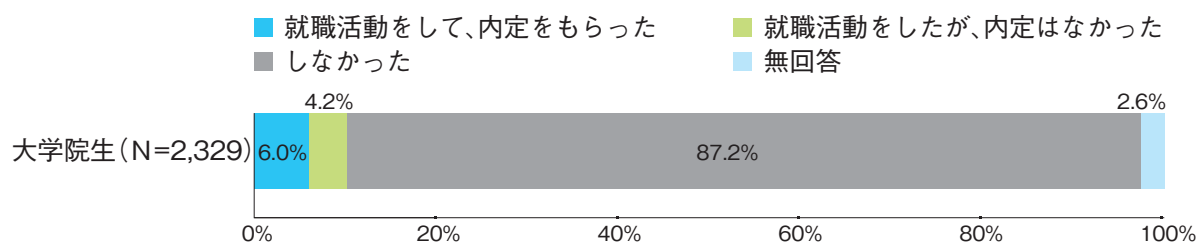
(人)	調査数	九大の他学府を受験した	九大以外の大学院を受験した	学内の他学府、学外のいずれも受験した	現所属以外の大学院は受験しなかった	無回答
大学院生	2,329	113	214	24	1,912	66



(7) 大学院受験と並行した就職活動の有無

大学院受験と並行して就職活動を行った学生は約1割で、前回調査時と同程度でした。

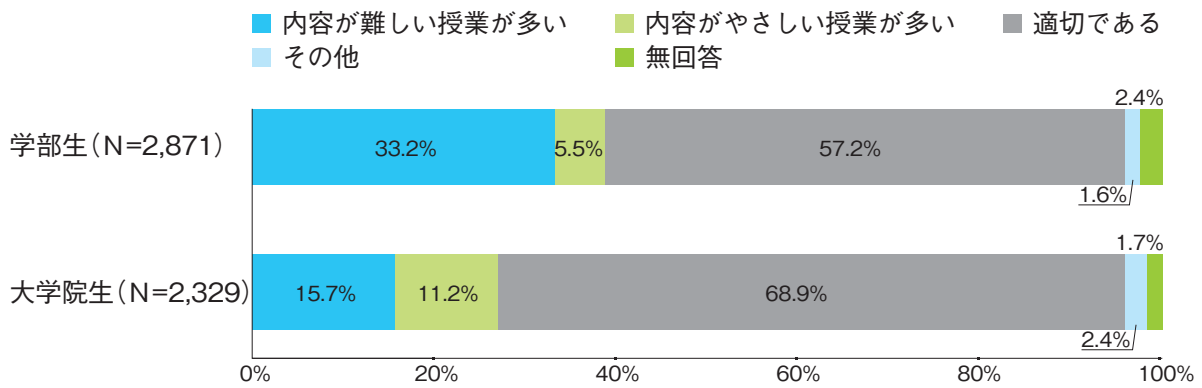
(人)	調査数	就職活動をして、内定をもらった	就職活動をしたが、内定はなかった	しなかった	無回答
大学院生	2,329	140	98	2,031	60



(8)授業内容の難易度

学部生については、57.2%、大学院生については68.9%の適切であると回答する一方、学部生の33.3%から、授業が難しいとの回答がありました。前回調査とほぼ同様の割合です。

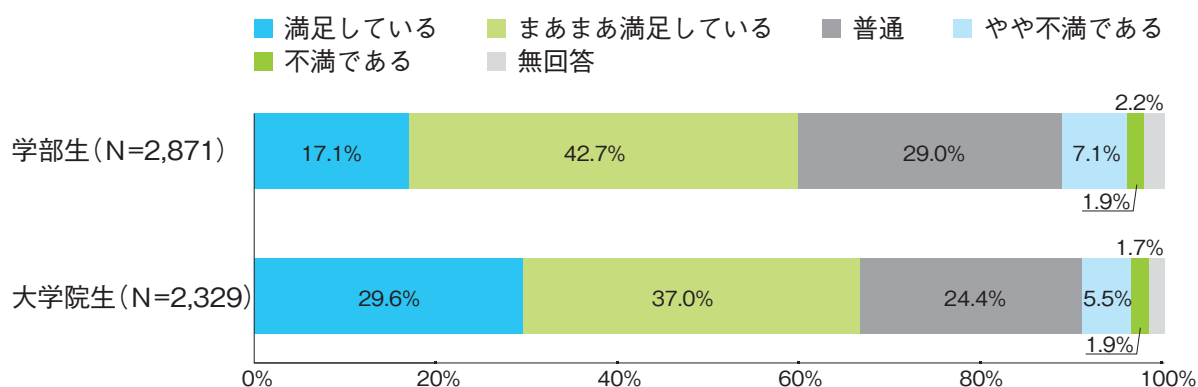
(人)	調査数	内容が難しい授業が多い	内容がやさしい授業が多い	適切である	その他	無回答
学部生	2,871	954	157	1,643	47	70
大学院生	2,329	366	262	1,605	56	40



(9)授業の満足度

学部生は、約6割、大学院生は、7割弱が「満足」「まあまあ満足」と回答しています。一方、「不満」「やや不満」と回答した学生も、1割弱見られました。

(人)	調査数	満足している	まあまあ満足している	普通	やや不満である	不満である	無回答
学部生	2,871	490	1,225	833	204	55	64
大学院生	2,329	689	861	568	127	44	40

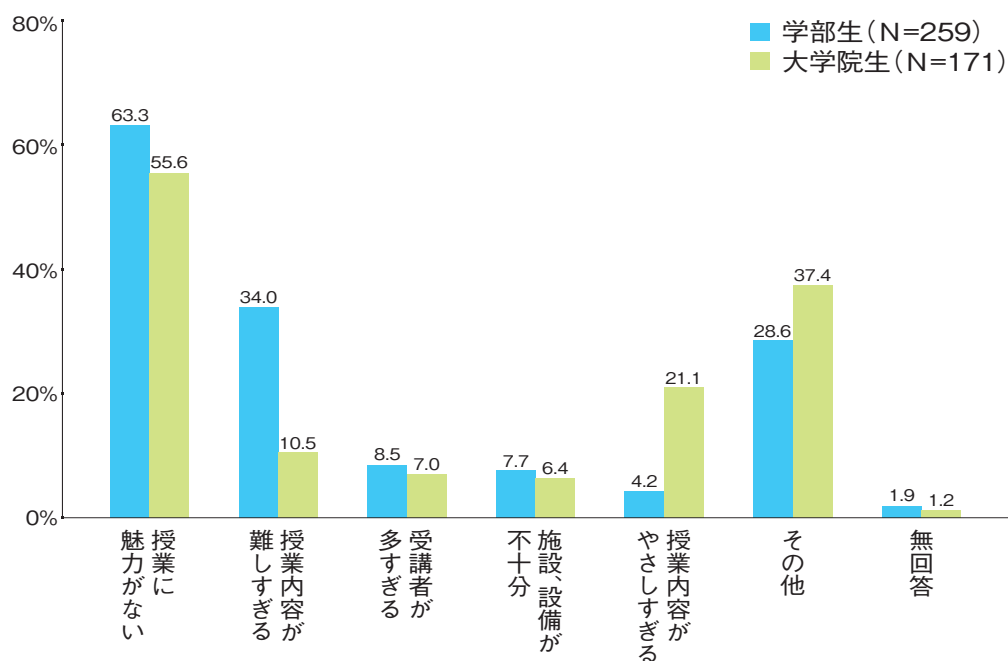


(10)授業に不満な理由【複数回答可】

前問で「不満である」「やや不満である」と回答した学生にその理由を尋ねたところ、「授業に魅力がない」という回答が、学部生・大学院生ともに、大きな割合を占めていました。また、学部生は、授業が難しすぎるとの意見も3割以上あります。

一方で、大学院生の2割からは、やさしすぎるとの意見がでています。

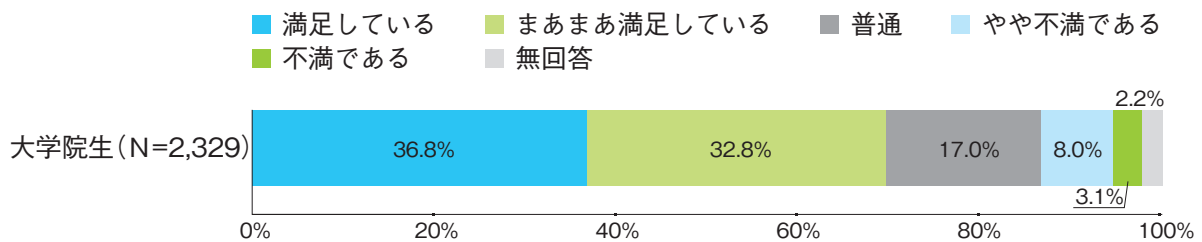
(人)	調査数	魅力がない授業に	授業内容が難しすぎる	受講者が多すぎる	施設、設備が不十分	授業内容がやさしすぎる	その他	無回答
学部生	259	164	88	22	20	11	74	5
大学院生	171	95	18	12	11	36	64	2



(11-1)大学院生の研究環境の満足度

大学院生における研究環境の満足度は「満足」と「まあまあ満足」を合わせると7割程度で前回調査と同様の結果となっています。

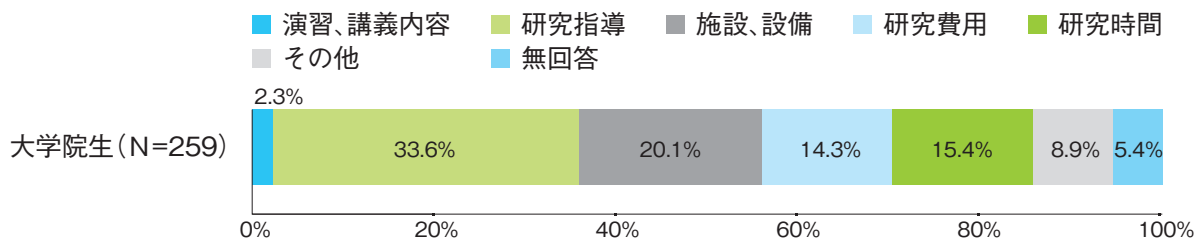
(人)	調査数	満足している	まあまあ満足している	普通	やや不満である	不満である	無回答
大学院生	2,329	857	765	396	186	73	52



(11-2)大学院生の研究環境に不満な理由

研究環境に対して「不満」「やや不満」と回答した大学院生にその理由を尋ねたところ、「研究指導」「施設、設備」「研究時間」「研究費用」がその主なもので、前回調査と比較すると「研究時間」について不満の割合が増えています。

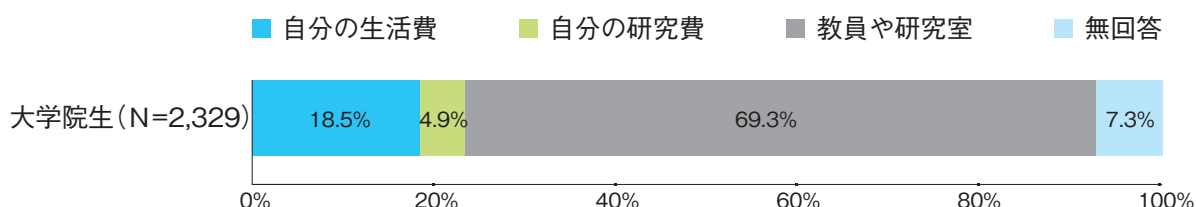
(人)	調査数	演習、講義内容	研究指導	施設、設備	研究費用	研究時間	その他	無回答
大学院生	259	6	87	52	37	40	23	14



(12)大学院生の学会参加等に必要な費用の捻出元

前回調査に比べ、「教員や研究室」の割合が増え(60.9%→69.4%)、「自分の生活費」の割合が減っています(27.5%→18.5%)。

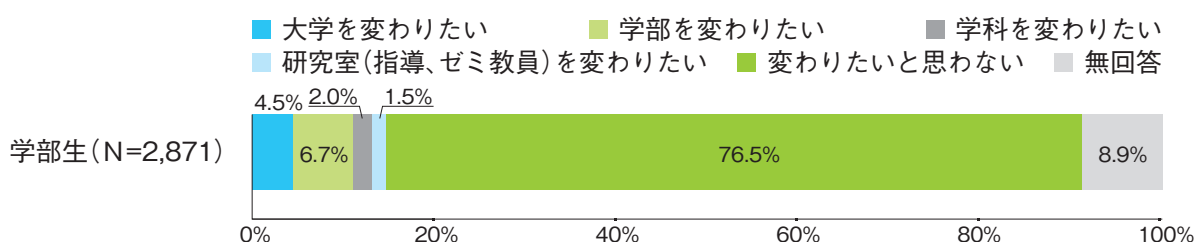
(人)	調査数	自分の生活費	自分の研究費	教員や研究室	無回答
大学院生	2,329	430	115	1,615	169



(13-1)学部・学科等の変更希望

転大学・転学部・転学科の希望状況については、前回調査とほぼ同じ結果となっているものの、依然として15%程度の学部生が何らかの不満を抱えていることがわかります。その中でも、「学部を変わりたい」という意見が一番多かったようです。

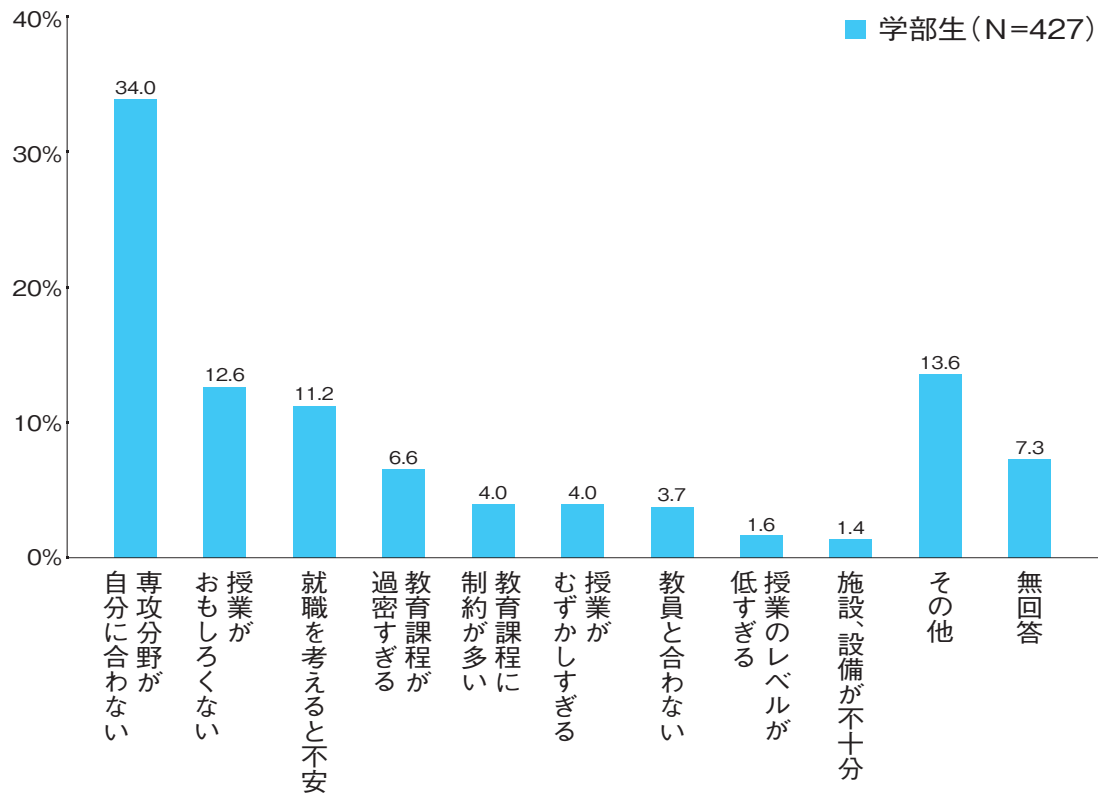
(人)	調査数	大学を変わりたい	学部を変わりたい	学科を変わりたい	研究室(指導、ゼミ教員)を変わりたい	変わりたいと思わない	無回答
学部生	2,871	128	192	57	44	2,195	255



(13-2)学部・学科等を変わりたい理由

転大学・転学部・転学科を希望する主な理由は、「専攻分野が合わない」「授業がおもしろくない」「就職を考えると不安」があげられています

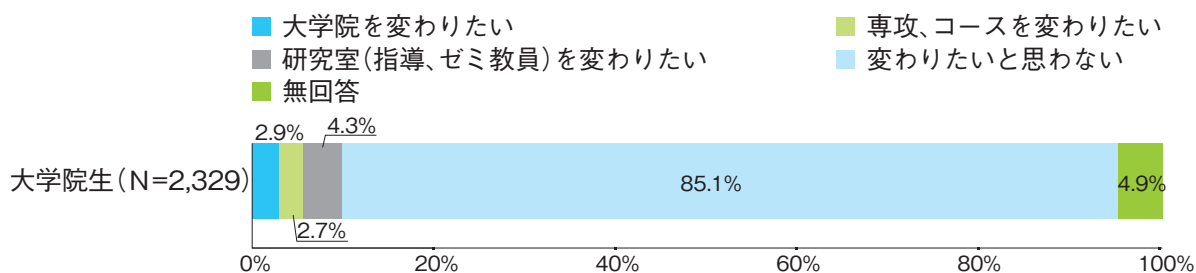
(人)	調査数	専攻分野が自分に合わない	授業がおもしろくない	就職を考えると不安	教育課程が過密すぎる	教育課程に制約が多い	授業がむずかしすぎる	教員と合わない	授業のレベルが低すぎる	施設、設備が不十分	その他	無回答
学部生	427	145	54	48	28	17	17	16	7	6	58	31



(14-1)大学院生の現在の所属の変更希望

大学院生の大半は現在の所属で継続して研究したいと考えていますが、1割弱は変更を希望しているようです。

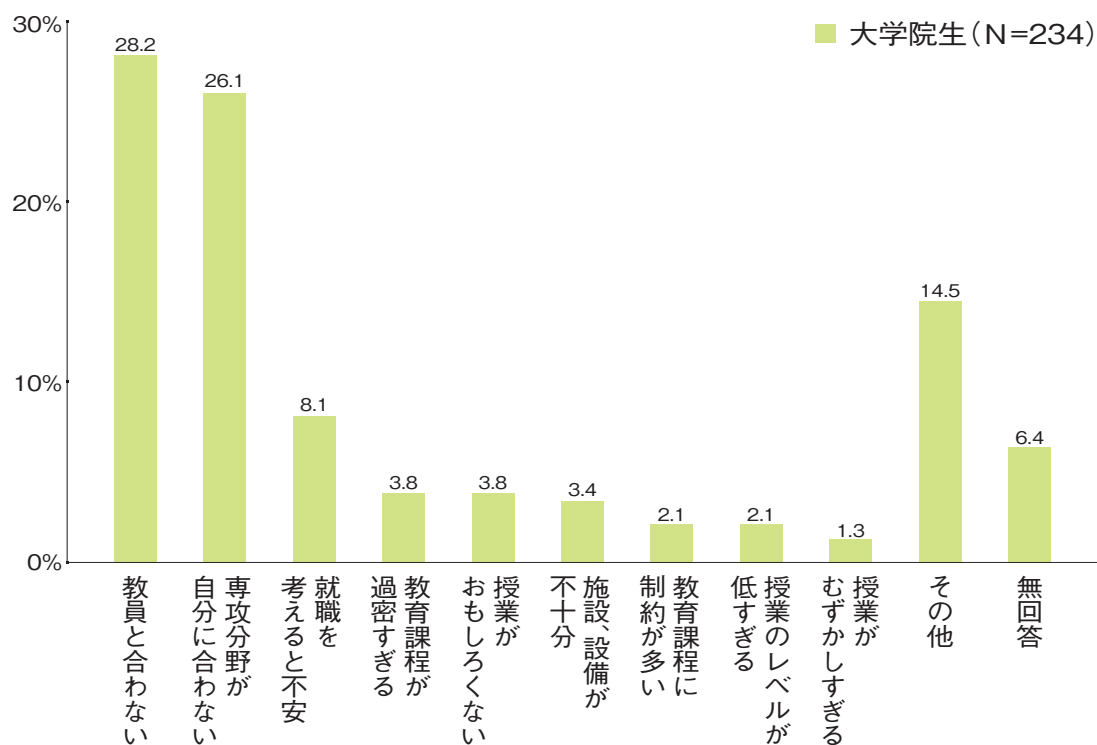
(人)	調査数	大学院を 変えたい	専攻、 コースを 変えたい	研究室 (指導、ゼミ 教員)を 変えたい	変えたい と思わない	無回答
大学院生	2,329	68	63	100	1,983	115



(14-2)大学院生の現在の所属をえたい理由

転学府等を希望する主な理由は、「教員と合わない」「専攻分野が自分に合わない」が上位を占めています。

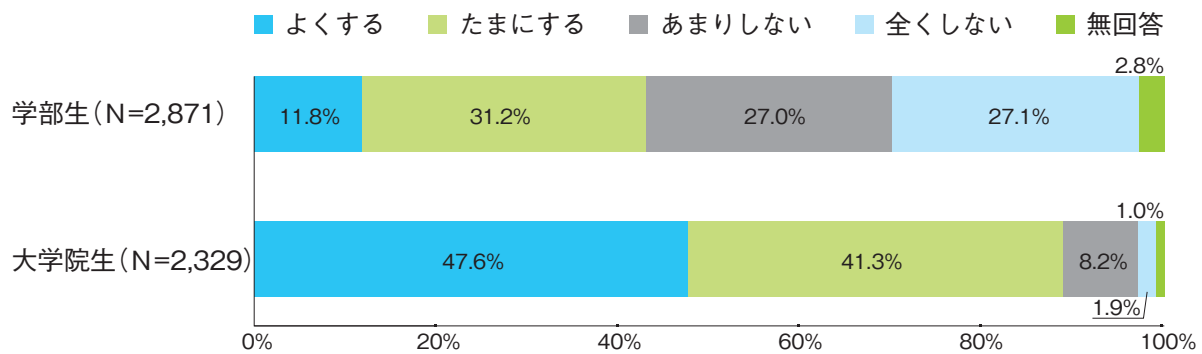
(人)	調査数	教員と 合わない	専攻分野が 自分に 合わない	就職を 考えると不安	教育課程が 過密すぎる	授業が おもしろくない	施設、設備が 不十分	教育課程に 制約が多い	授業のレベルが 低すぎる	授業が むずかしすぎる	その他	無回答
大学院生	234	66	61	19	9	9	8	5	5	3	34	15



(15) 教員と直接話す機会の有無

教員と直接話す機会について、「よくする」と「たまにする」を合わせると大学院生では約 9 割、学部生では 4 割強となっております。、前回調査と比べ学部生が教員と話す機会が少し減っています(46.9%→43.0%)。

(人)	調査数	よくする	たまにする	あまりしない	全くしない	無回答
学部生	2,871	340	896	775	779	81
大学院生	2,329	1,109	961	192	44	23

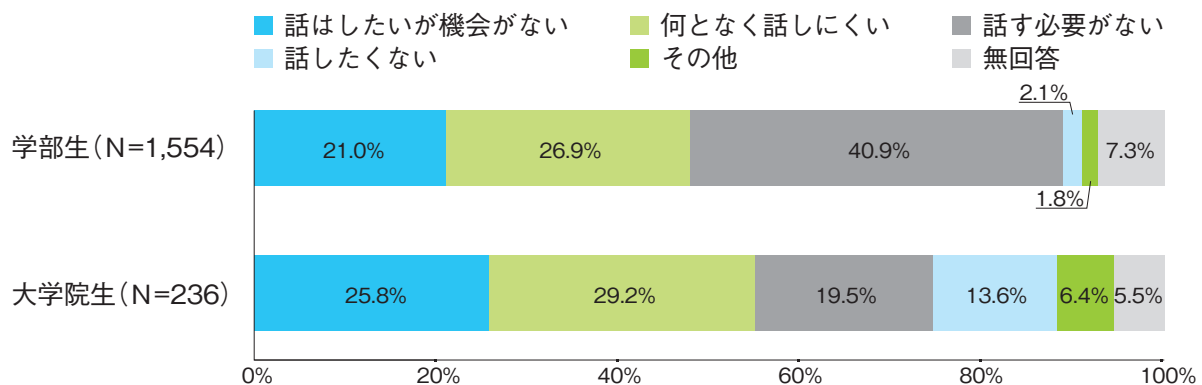


(16) 教員と直接話す機会が無い理由

教員と「あまり話をしない」「全く話をしない」と回答した学生にその理由を尋ねたところ、学部生では 4 割が「話す必要がない」と感じていました。

大学院生では、学部生に比べ「話したくない」の回答が目立っています。

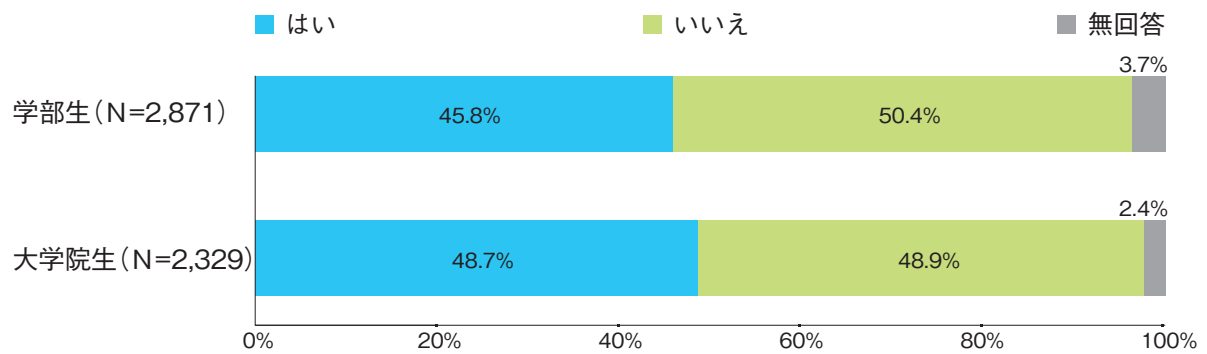
(人)	調査数	話したいが機会がない	何となく話しにくい	話す必要がない	話したくない	その他	無回答
学部生	1,554	327	418	636	32	28	113
大学院生	236	61	69	46	32	15	13



(17)教員ともっと直接話をしたいと思うか

教員ともっと話したいとそうでない学生はほぼ同数となりました。前回調査と同様の傾向です。

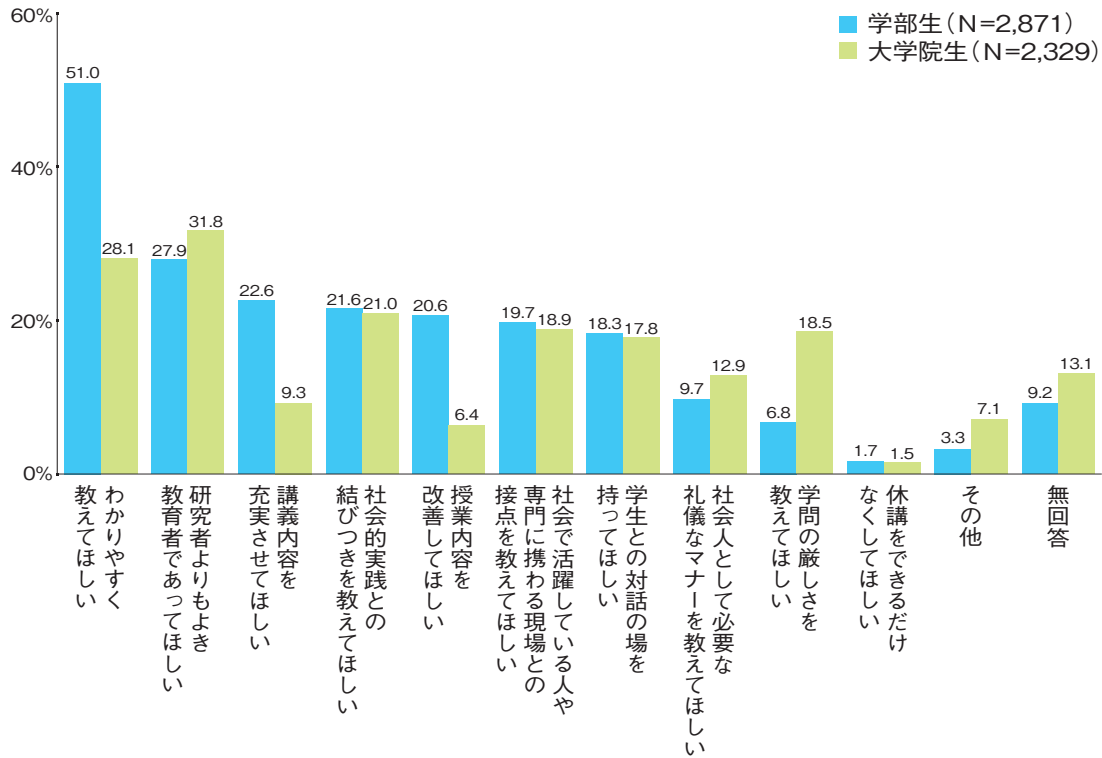
(人)	調査数	はい	いいえ	無回答
学部生	2,871	1,316	1,448	107
大学院生	2,329	1,134	1,140	55



(18)教員に希望すること【複数回答可】

前回調査と同じように学部学生は「わかりやすく教えてほしい」、大学院生は「研究者よりもよき教育者であってほしい」の意見が多く寄せられています。

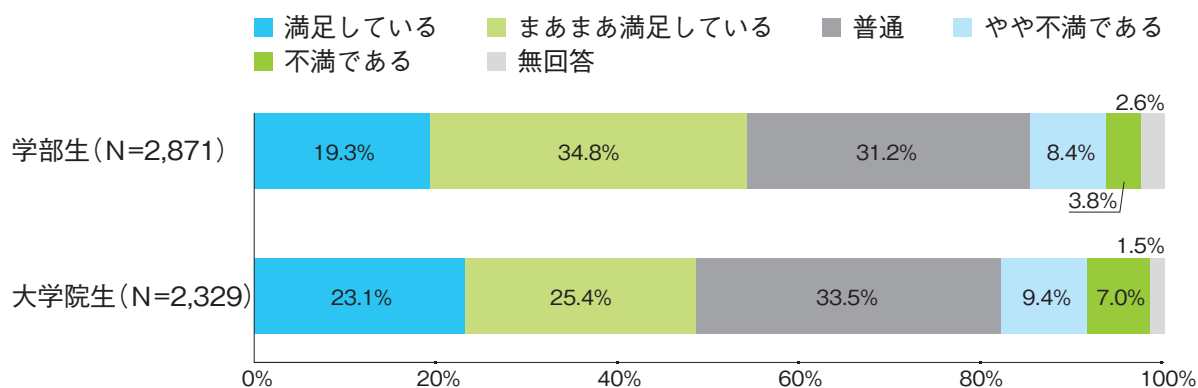
(人)	調査数	わかりやすく教えてほしい	研究者よりもよき教育者であってほしい	講義内容を充実させてほしい	社会的実践との結びつきを 教えてほしい	授業内容を改善してほしい	社会で活躍している人や専門に 携わる現場との接点を教えてほしい	学生との対話の場を持つてほしい	社会人として必要な礼儀なマナーを 教えてほしい	学問の厳しさを教えてほしい	休講をできるだけなくしてほしい	その他	無回答
学部生	2,871	1,465	802	650	619	592	567	525	279	195	48	94	264
大学院生	2,329	655	740	216	489	148	441	414	300	432	34	165	306



(19) 電子システム(シラバス、学修支援システム(M2B)など)の満足度

「満足している」「まあまあ満足している」が約半数を占めましたが、15%ほどの学生が不満を持っています。

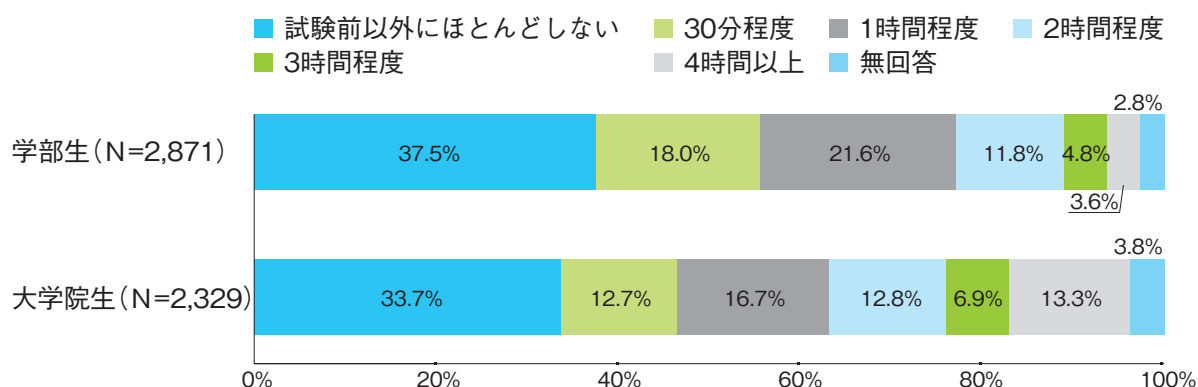
(人)	調査数	満足している	まあまあ満足している	普通	やや不満である	不満である	無回答
学部生	2,871	554	999	895	240	108	75
大学院生	2,329	539	592	780	220	162	36



(20) 授業時間以外の学習に費やしている時間

「試験前以外にほとんどしない」という回答が最も多い結果となりました。学部生より大学院生の方が学習時間が長い傾向にあります。

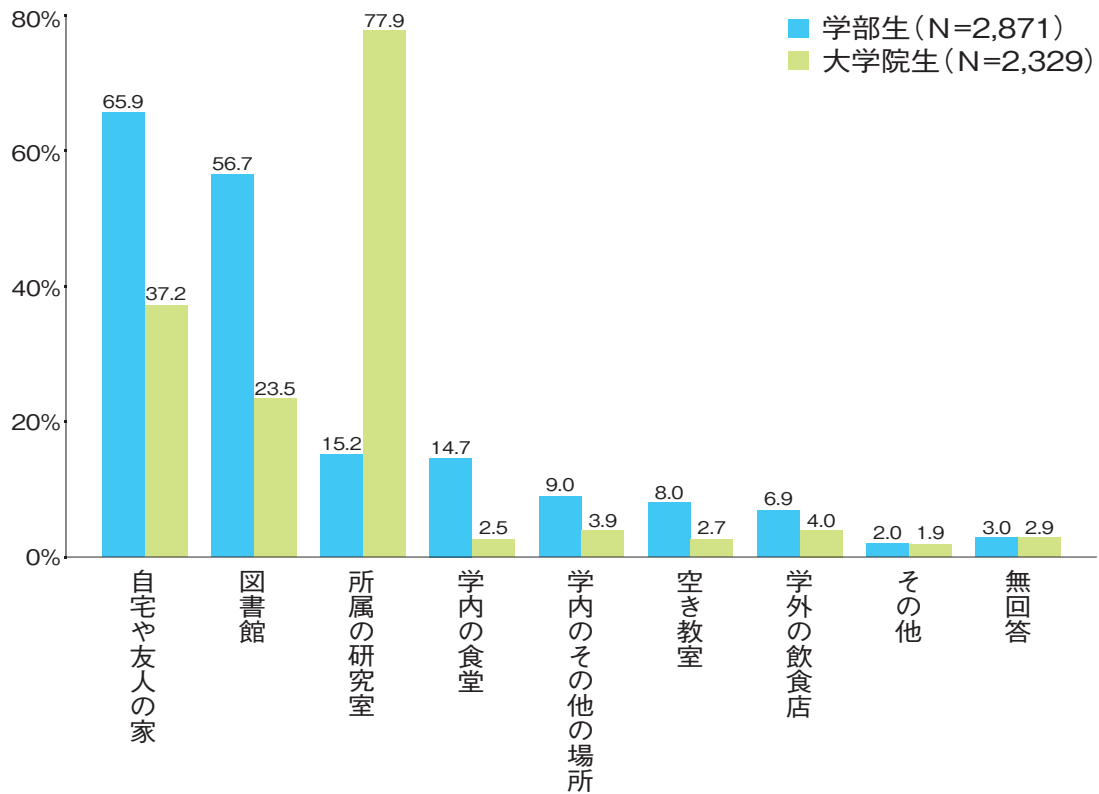
(人)	調査数	試験前以外にほとんどしない	30分程度	1時間程度	2時間程度	3時間程度	4時間以上	無回答
学部生	2,871	1,078	517	620	338	137	102	79
大学院生	2,329	785	296	390	299	161	310	88



(21)授業時間以外の学習を行っている場所【複数回答可】

学部生は「自宅や友人の家」「図書館」が多く、大学院生は、「所属の研究室」が大半です。

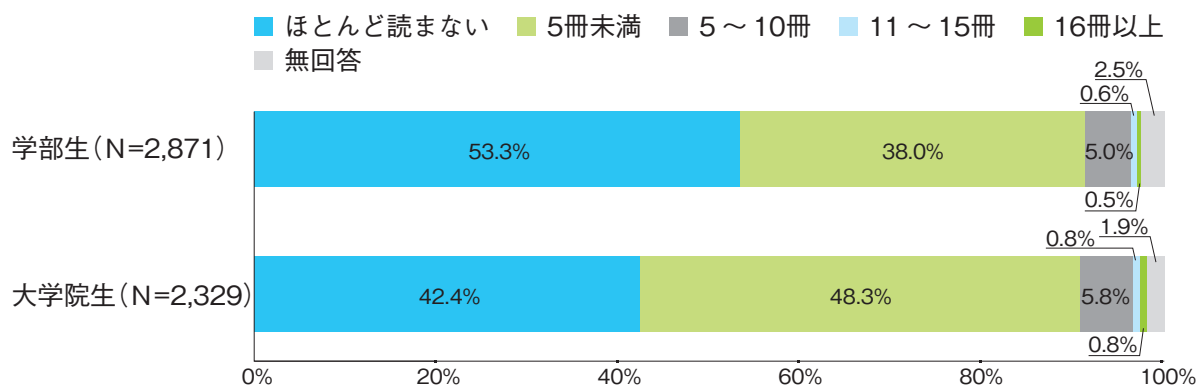
(人)	調査数	自宅や友人の家	図書館	所属の研究室	学内の食堂	学内のその他の場所	空き教室	学外の飲食店	その他	無回答
学部生	2,871	1,892	1,628	437	421	257	230	197	58	85
大学院生	2,329	867	547	1,815	59	91	62	93	45	68



(22) 1 か月間の読書の状況

本を「ほとんど読まない」と回答した学生が前回調査に比べ増加しています(学部生 48.8% → 53.3%、大学院生 35.0% → 42.4%)。

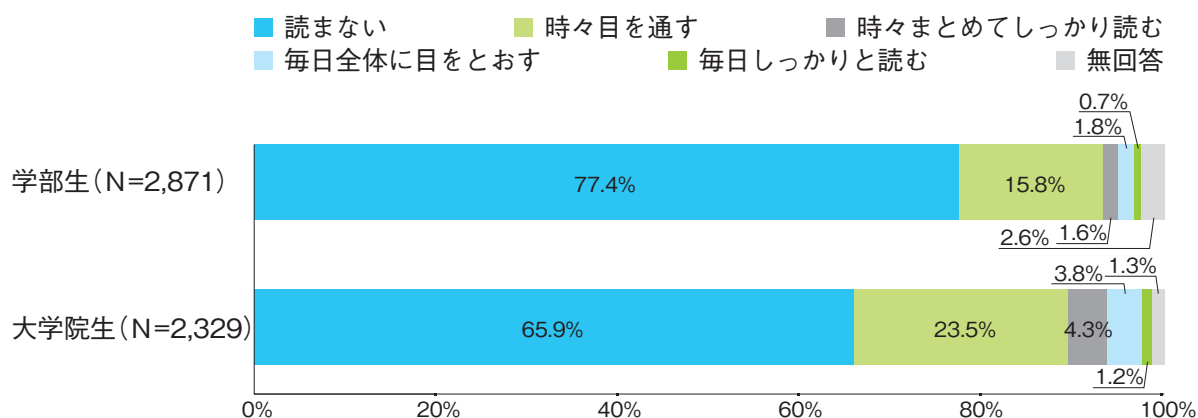
(人)	調査数	ほとんど読まない	5冊未満	5～10冊	11～15冊	16冊以上	無回答
学部生	2,871	1,531	1,091	144	18	14	73
大学院生	2,329	988	1,126	134	18	19	44



(23) 新聞を読む頻度

新聞を「読まない」という回答が大きく増加しました(学部生 68.8% → 77.4%、大学院生 52.4% → 65.9%)。毎日読むと回答した学生は全体の 3.5% 程度です。

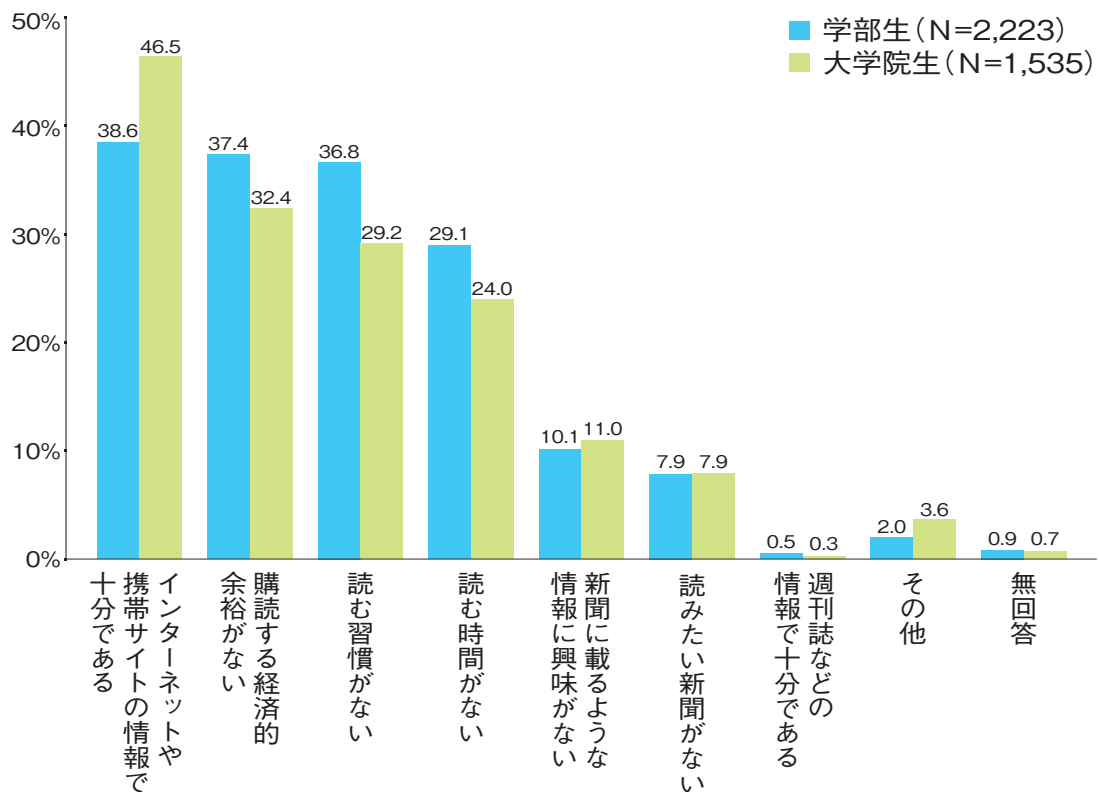
(人)	調査数	読まない	時々目を通す	時々まとめてしっかり読む	毎日全体に目をとおす	毎日しっかりと読む	無回答
学部生	2,871	2,223	454	46	53	21	74
大学院生	2,329	1,535	547	99	89	28	31



(24)新聞を読まない理由【複数回答可】

新聞を「読まない」と回答した学生にその理由を尋ねたところ、「インターネットや携帯サイトの情報で十分である」との意見が最も多く見られました。また、新聞を読むための経済的・時間的な余裕がない様子もうかがえます。

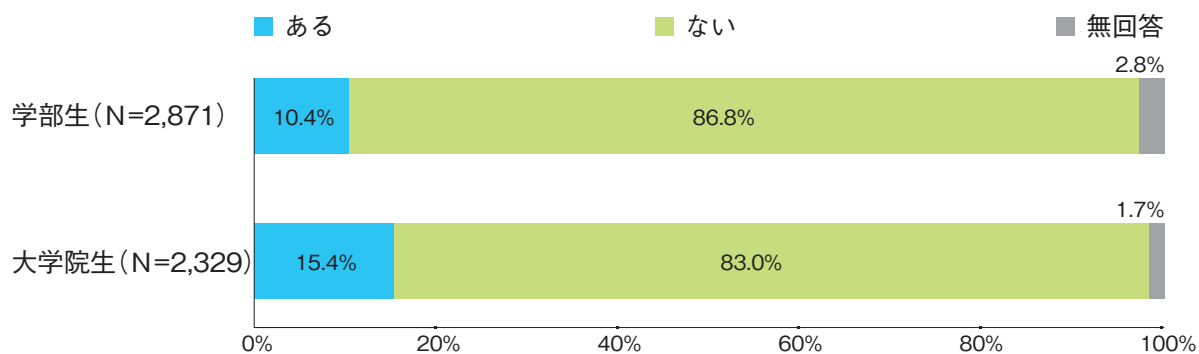
(人)	調査数	インターネットや携帯サイトの情報で十分である	購読する経済的余裕がない	読む習慣がない	読む時間がない	新聞に載るような情報に興味がない	読みたい新聞がない	週刊誌などの情報で十分である	その他	無回答
学部生	2,223	857	832	817	646	225	175	11	45	19
大学院生	1,535	714	498	448	369	169	122	4	56	11



(25) 修学上の問題を抱えた経験

修学上の問題を抱えたことがないと回答した学生の割合が大幅に増加しています(学部生 63.6% → 86.8%、大学院生 54.8% → 83.0%)。

(人)	調査数	ある	ない	無回答
学部生	2,871	300	2,491	80
大学院生	2,329	358	1,932	39

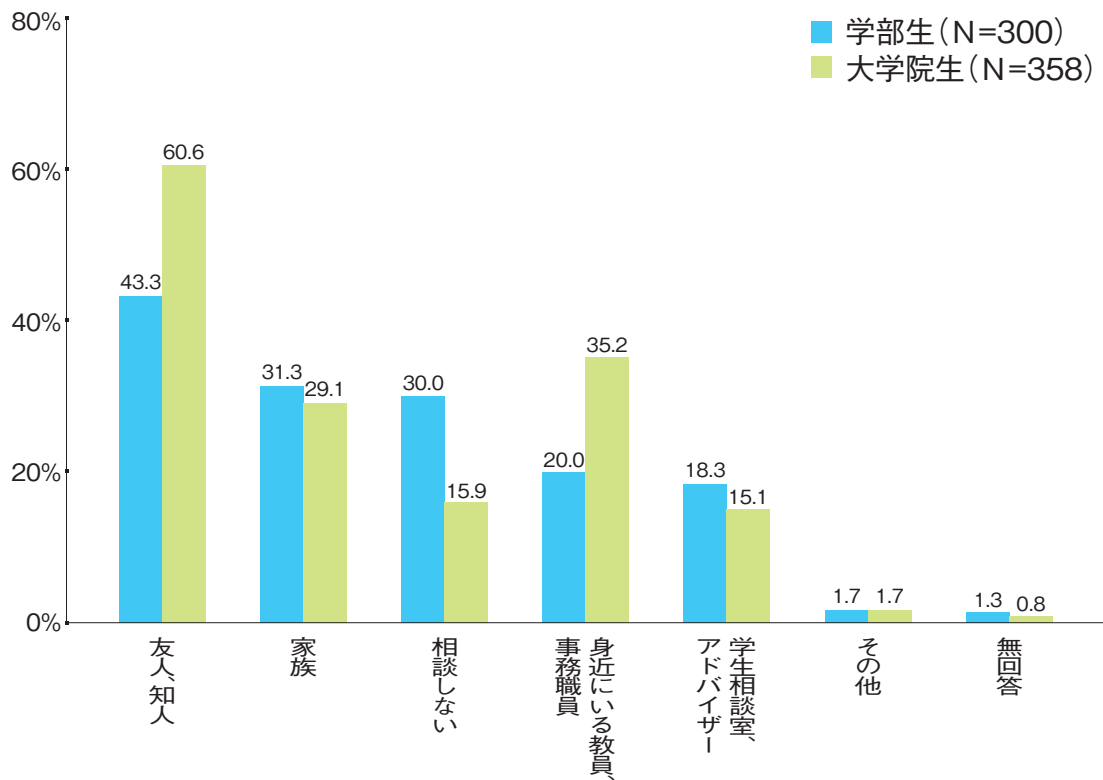


(26) 修学上の問題を相談する相手【複数回答可】

学部生・大学院生ともに「友人・知人」が1位になっています。

大学院生では、身近な教職員に相談する学生が多いようですが、学部生では「相談しない」学生が3割と目立つことが気になります。

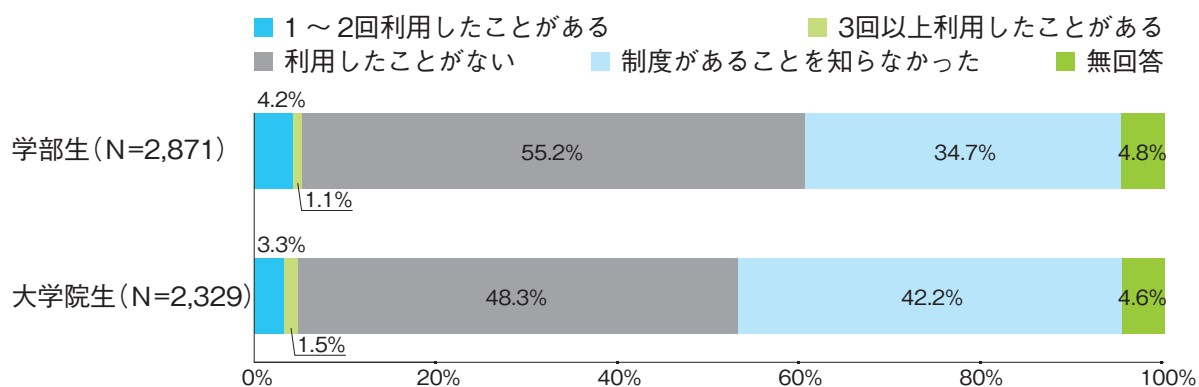
(人)	調査数	友人、知人	家族	相談しない	身近にいる教員、事務職員	学生相談室、アドバイザー	その他	無回答
学部生	300	130	94	90	60	55	5	4
大学院生	358	217	104	57	126	54	6	3



(27)大学のピア・サポート制度や学習相談を利用した経験

制度そのものを知らないと回答した学生は前回調査に比べ減少しました(学部生 41.7% → 34.7%、大学院生 48.5% → 42.2%)が、依然として多い状況にあります。

(人)	調査数	1～2回利用したことがある	3回以上利用したことがある	利用したことがない	制度があることを知らなかった	無回答
学部生	2,871	121	31	1,585	997	137
大学院生	2,329	77	35	1,125	984	108

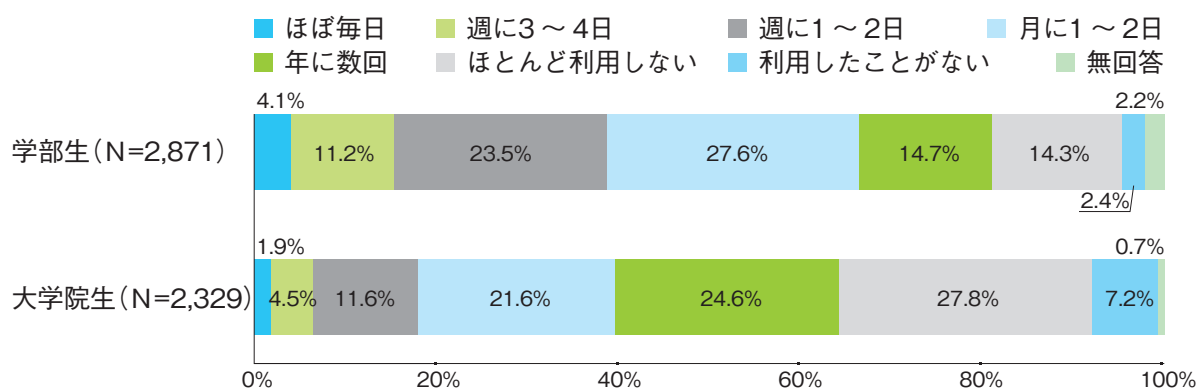


(1) 図書館の利用頻度

学部生は約4割が週に1回以上図書館を利用しています。

全体的な傾向は前回調査とあまり変わりませんが、大学院生で図書館を「ほとんど利用しない」「利用したことがない」学生が29.1%から35.0%に増加しています。

(人)	調査数	ほぼ毎日	週に3～4日	週に1～2日	月に1～2日	年に数回	ほとんど利用しない	利用したことがない	無回答
学部生	2,871	117	322	675	793	421	411	69	63
大学院生	2,329	44	105	270	504	574	648	167	17

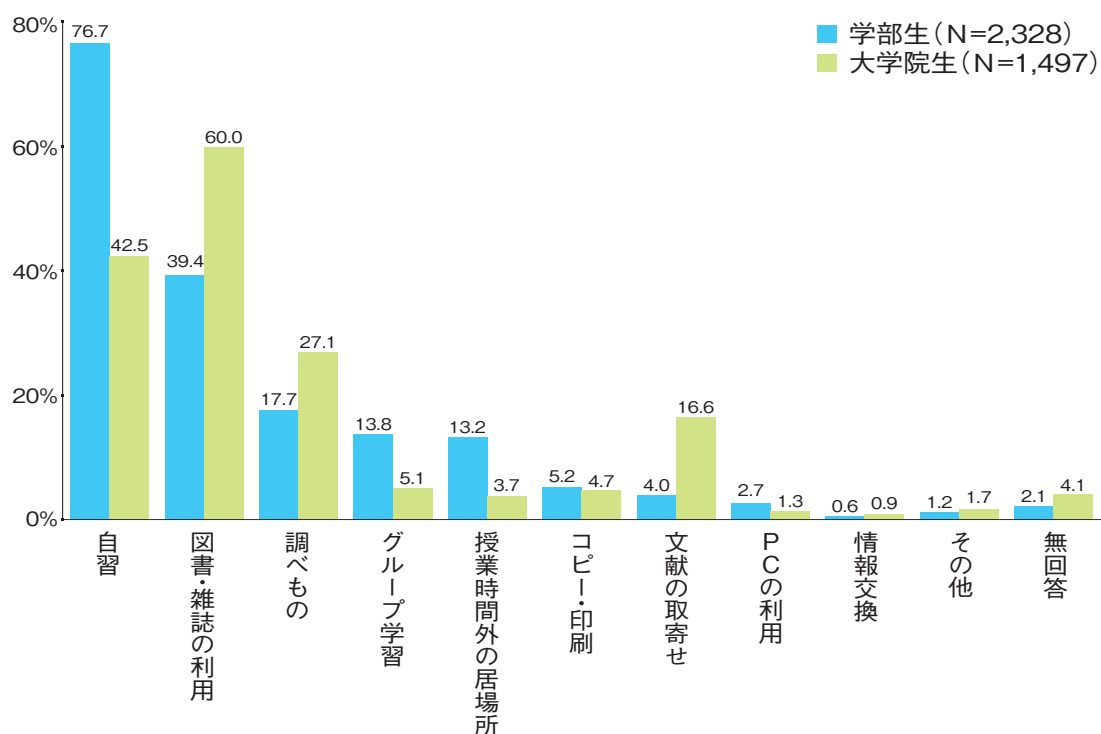


(2)図書館の利用目的【複数回答可】

学部生では前回調査に引き続き「自習」(70.1% → 76.6%)が大半です。前回「自習」に次いで多かった「図書・雑誌の利用」(48.2% → 39.3%)、「調べもの」(29.5% → 17.4%)、「グループ学習」(23.0% → 13.5%)はいずれも割合を落としました。

大学院生では、「図書・雑誌の利用」が最も多かった点は前回調査と同じですが、「調べもの」が減り(42.2% → 26.7%)、「自習」が微増(40.4% → 42.5%)したことで、順位が入れ替わっています。

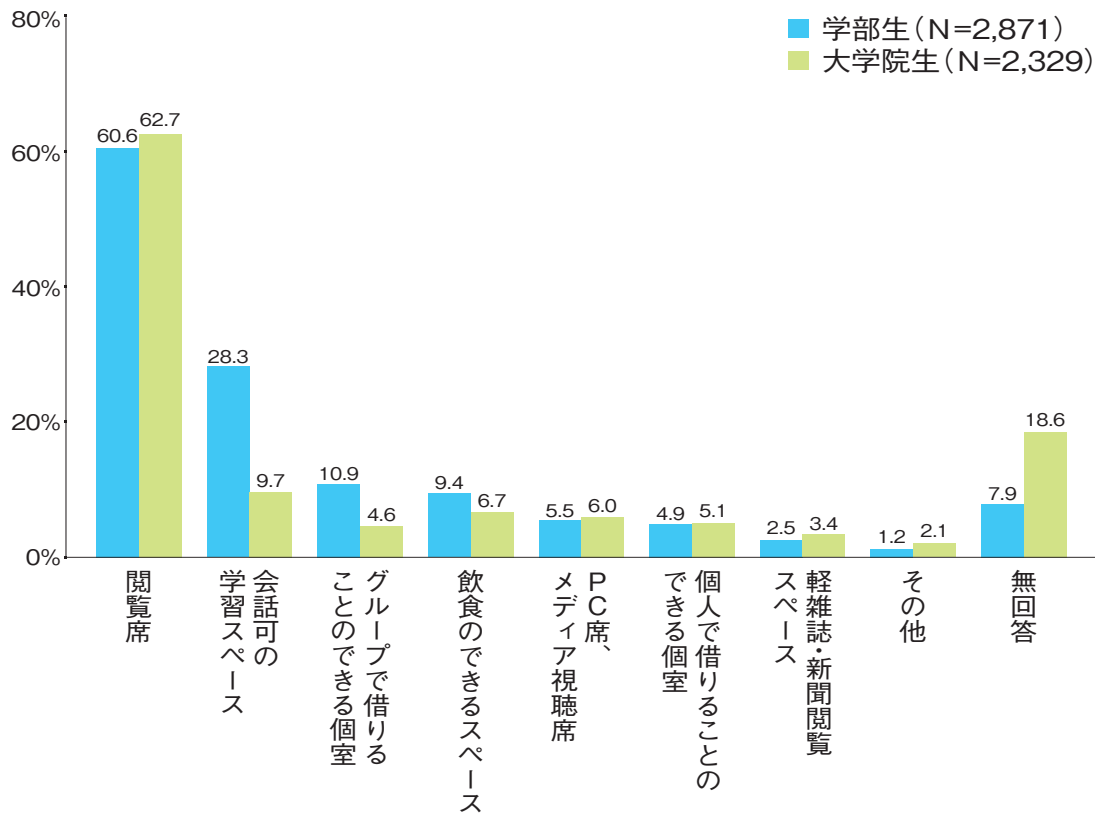
(人)	調査数	自習	図書・雑誌の利用	調べもの	グループ学習	授業時間外の居場所	コピー・印刷	文献の取寄せ	PCの利用	情報交換	その他	無回答
学部生	2,328	1,786	917	411	322	308	122	93	63	15	27	49
大学院生	1,497	636	898	405	76	56	70	248	20	14	26	62



(3)図書館でよく利用するスペース【複数回答可】

「閲覧席」を利用する学生が6割を超え多数派ですが、学部生からは会話のできる学習スペースの需要も高いようです。

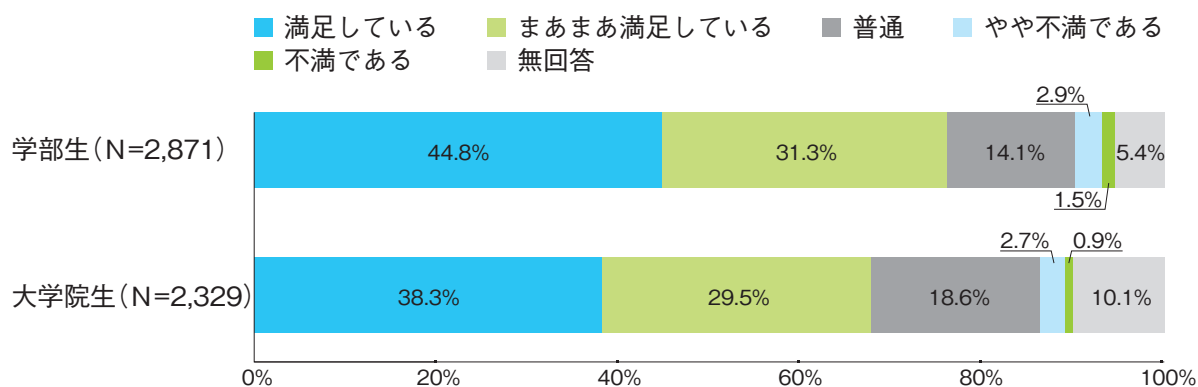
(人)	調査数	閲覧席	会話可の 学習スペース	グループで借りる ことのできる個室	飲食のできる スペース	PC席、 メディア視聴席	個人で借りる ことのできる個室	軽雑誌・新聞閲覧 スペース	その他	無回答
学部生	2,871	1,740	812	313	271	159	141	73	35	226
大学院生	2,329	1,461	226	107	157	139	119	79	48	433



(4) 図書館の満足度

「満足している」「まあまあ満足している」という回答が約7割を占めています。前回調査に比べ、「普通」の割合が増え、満足・不満のいずれの回答も減っています。

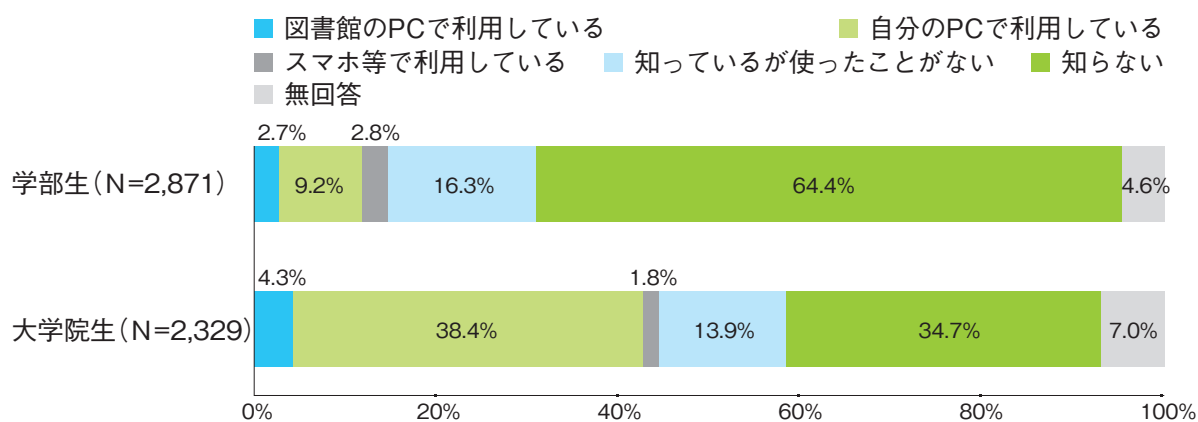
(人)	調査数	満足している	まあまあ満足している	普通	やや不満である	不満である	無回答
学部生	2,871	1,286	899	406	83	42	155
大学院生	2,329	891	687	433	63	20	235



(5) 電子ジャーナルの認知度

学部生は64.4%、大学院生でも34.7%が電子ジャーナルを認知していませんでした。

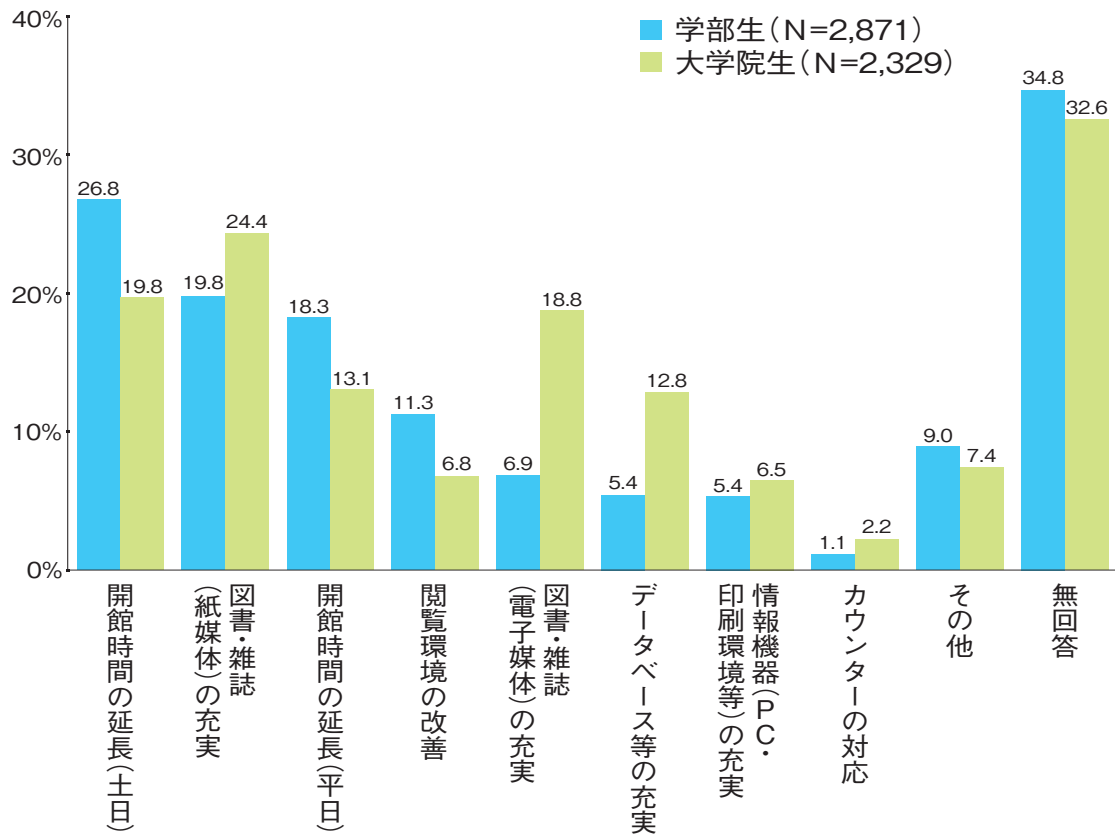
(人)	調査数	図書館のPCで利用している	自分のPCで利用している	スマホ等で利用している	知っているが使ったことがない	知らない	無回答
学部生	2,871	77	263	81	468	1,849	133
大学院生	2,329	100	895	41	324	807	162



(6)図書館に改善してほしいこと【複数回答可】

学部生は「開館時間の延長」、大学院生は「図書・雑誌の充実」が最も大きな要望であることは、前回調査と変わりません。学部生は「開館時間の延長」の中でも特に土日の延長を要望が高いです。前回と比べ、無回答の割合が大きく増え、特に改善要望を持たない学生が増えているようです。

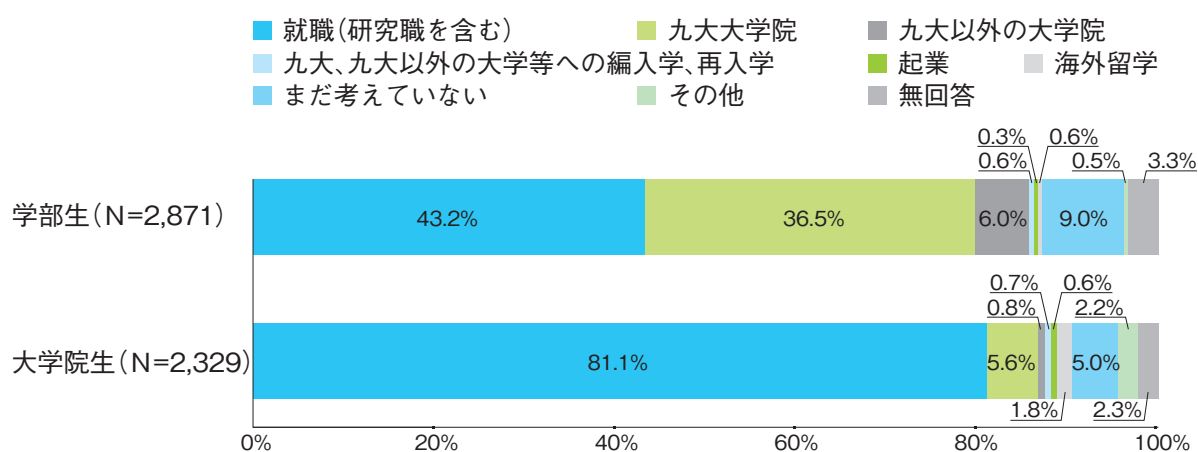
(人)	調査数	開館時間の延長 (土日)	図書・雑誌 (紙媒体)の 充実	開館時間の延長 (平日)	閲覧環境の改善	図書・雑誌 (電子媒体)の 充実	データベース等の充実	情報機器 (PC・ 印刷環境等)の充実	カウンターの対応	その他	無回答
学部生	2,871	770	569	525	323	197	156	154	33	257	998
大学院生	2,329	460	568	305	158	437	299	152	51	173	760



(1) 卒業後の進路希望

大学院への進学を考えている学部生は42.5%で、前回調査時の45.6%と比べて少し減少しています。学部生、大学院生ともに、「まだ考えていない」とする回答が増えています(学部生5.2%→9.0%、大学院生3.2%→5.0%)。

(人)	調査数	就職 (研究職を含む)	九大大学院	九大以外の大学院	九大、九大以外の 大学等への 編入学、再入学	起業	海外留学	まだ考えていない	その他	無回答
学部生	2,871	1,241	1,049	171	16	10	16	257	15	96
大学院生	2,329	1,888	130	19	17	13	41	116	51	54

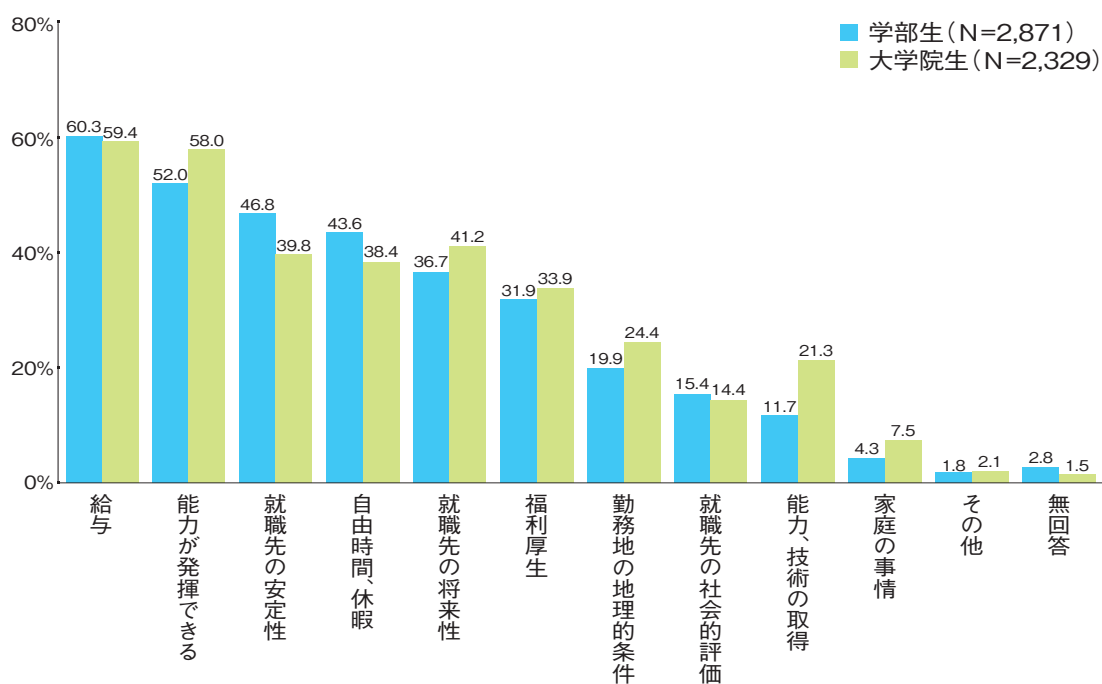


(2)将来の就職に関して重要視するもの【複数回答可】

学部生、大学院生とも過半数が「給与」と「能力が発揮できる」ことを重視しています。全体的な傾向は前回調査とほぼ同じです。

また、「その他」を選んだ学生の回答内容は「やりがいを感じられるか」が大半でした。

(人)	調査数	給与	能力が発揮できる	就職先の安定性	自由時間、休暇	就職先の将来性	福利厚生	勤務地の地理的条件	就職先の社会的評価	能力、技術の取得	家庭の事情	その他	無回答
学部生	2,871	1,731	1,494	1,345	1,252	1,053	915	570	442	335	123	53	79
大学院生	2,329	1,383	1,350	926	894	960	790	568	336	497	174	48	35

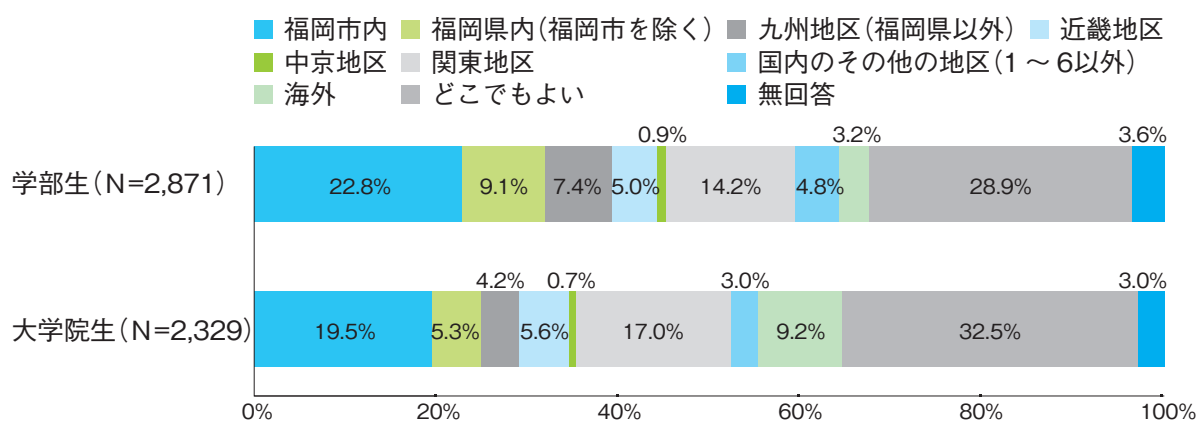


(3) 希望する勤務地

前回調査同様、学部生、大学院生ともに、どこでもよいという回答が最も多い結果となりましたが、その割合は下がっています(学部生 34.5% → 28.9%、大学院生 37.8% → 32.4%)。

福岡市内、関東地区を希望する回答の増加が目立ちました。

(人)	調査数	福岡市内	福岡県内 (福岡市を除く)	九州地区 (福岡県以外)	近畿地区	中京地区	関東地区	国内のその他の地区 (1～6以外)	海外	どこでもよい	無回答
学部生	2,871	655	262	212	143	27	408	139	93	830	102
大学院生	2,329	455	124	97	130	17	396	71	214	756	69

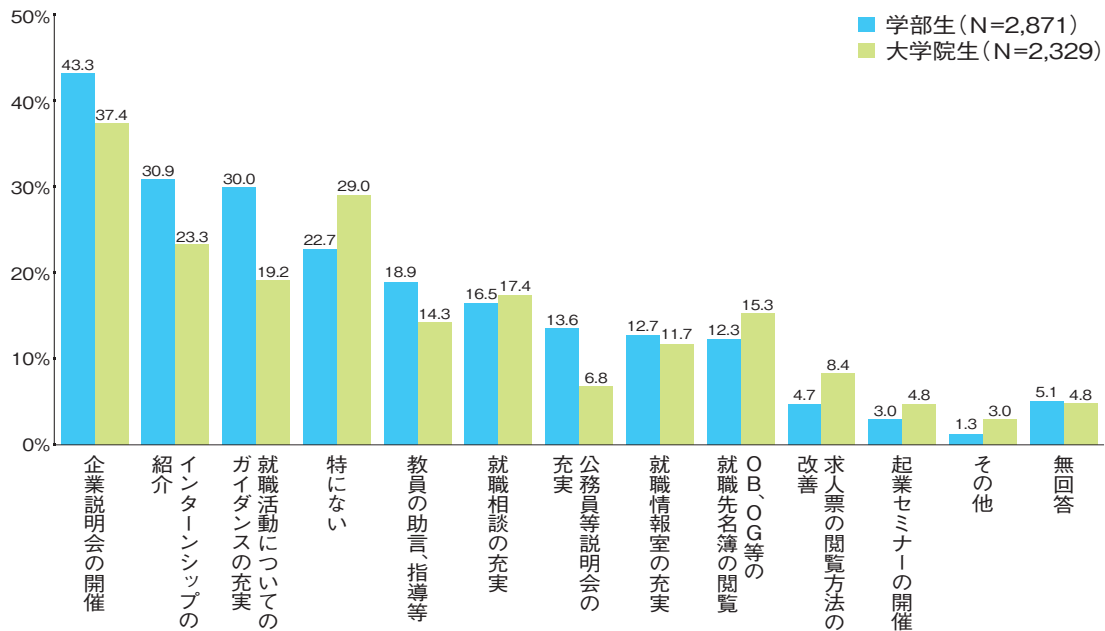


(4)就職に関して大学に希望すること【複数回答可】

学部生、大学院生ともに、「企業説明会の開催」が最も多く求められています。また、前回3番目だった「インターンシップの紹介」が、「就職活動についてのガイダンス」を抜いて2番目になりました。

企業と直接交流する機会が求められているようです。

(人)	調査数	企業説明会の開催	インターンシップの紹介	就職活動についてのガイダンスの充実	特にない	教員の助言、指導等	就職相談の充実	公務員等説明会の充実	就職情報室の充実	就職先名簿の閲覧	求人票の閲覧方法の改善	起業セミナーの開催	その他	無回答
学部生	2,871	1,242	887	860	653	544	473	390	366	353	135	85	36	147
大学院生	2,329	872	543	447	676	333	405	159	273	357	195	111	69	112

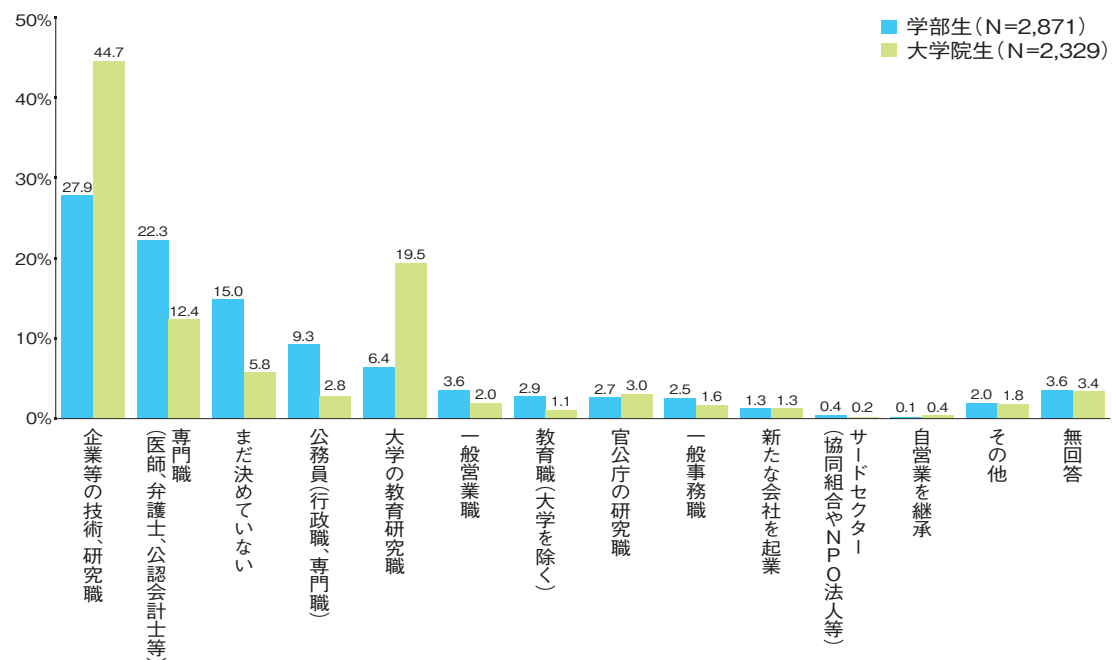


(5-1)就きたい職業第 1 位

学部生、大学院生ともに、「企業等の技術、研究職」を希望する学生が多いようです。

また、学部生は「専門職(医師、弁護士、公認会計士等)」、大学院生は「大学の教育研究職」を希望する学生も多く、専門性を活かした職業に就きたいと考えている学生が多く見られました。

(人)	調査数	企業等の技術、 研究職	(医師、弁護士、 専門職 公認会計士等)	まだ決めていない	公務員 (行政職、専門職)	大学の教育研究職	一般営業職	教育職 (大学を除く)	官公庁の研究職	一般事務職	新たな会社を起業	(協同組合や NPO法人等) サイドセクター	自営業を継承	その他	無回答
学部生	2,871	802	641	430	266	185	102	82	77	72	37	12	4	57	104
大学院生	2,329	1,041	288	134	66	453	46	26	71	38	30	5	9	42	80



(5-2)就きたい職業第2位

(人)	調査数	企業等の技術、研究職	公務員（行政職、専門職）	官公庁の研究職	（医師、弁護士、公認会計士等） 専門職	一般事務職	一般営業職	大学の教育研究職	新たな会社を起業	教育職（大学を除く）	まだ決めていない	（協同組合やNPO法人等） サードセクター	自営業を継承	その他	無回答
学部生	2,871	237	209	163	133	131	108	95	82	59	42	22	21	13	1,556
大学院生	2,329	190	134	228	104	68	65	152	77	114	16	6	17	4	1,154

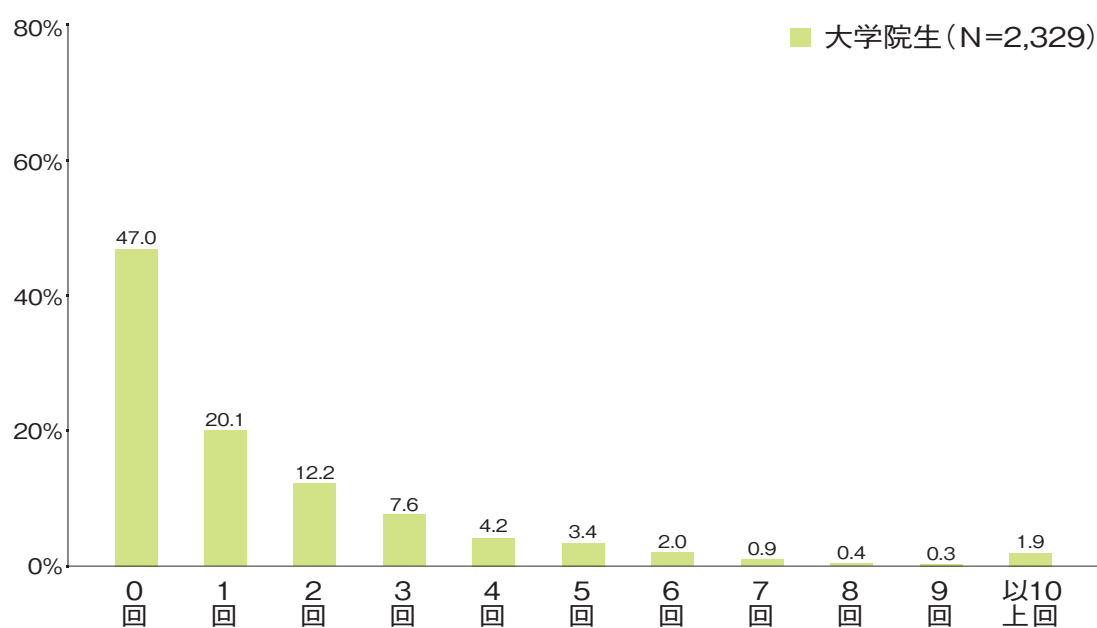
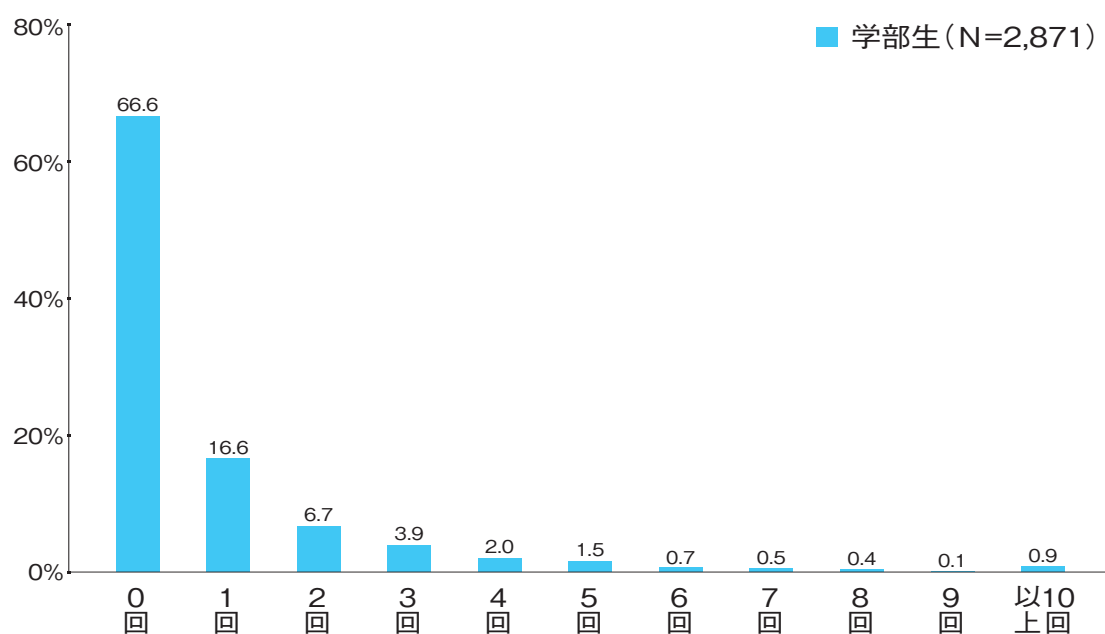
(5-3)就きたい職業第3位

(人)	調査数	公務員（行政職、専門職）	企業等の技術、研究職	一般営業職	大学の教育研究職	まだ決めていない	一般事務職	官公庁の研究職	新たな会社を起業	教育職（大学を除く）	（医師、弁護士、公認会計士等） 専門職	（協同組合やNPO法人等） サードセクター	自営業を継承	その他	無回答
学部生	2,871	139	88	88	85	84	81	68	65	58	45	22	17	13	2,018
大学院生	2,329	78	125	35	97	47	55	123	93	57	58	24	20	9	1,508

(1) 九大入学後に海外渡航をした回数

海外渡航をしたことがない学生は、学部生で 66.6%（前回 75.6%）、大学院生で 46.8%（前回 51.4%）という結果でした。前回調査と比べ、渡航経験のある学生が増えています。

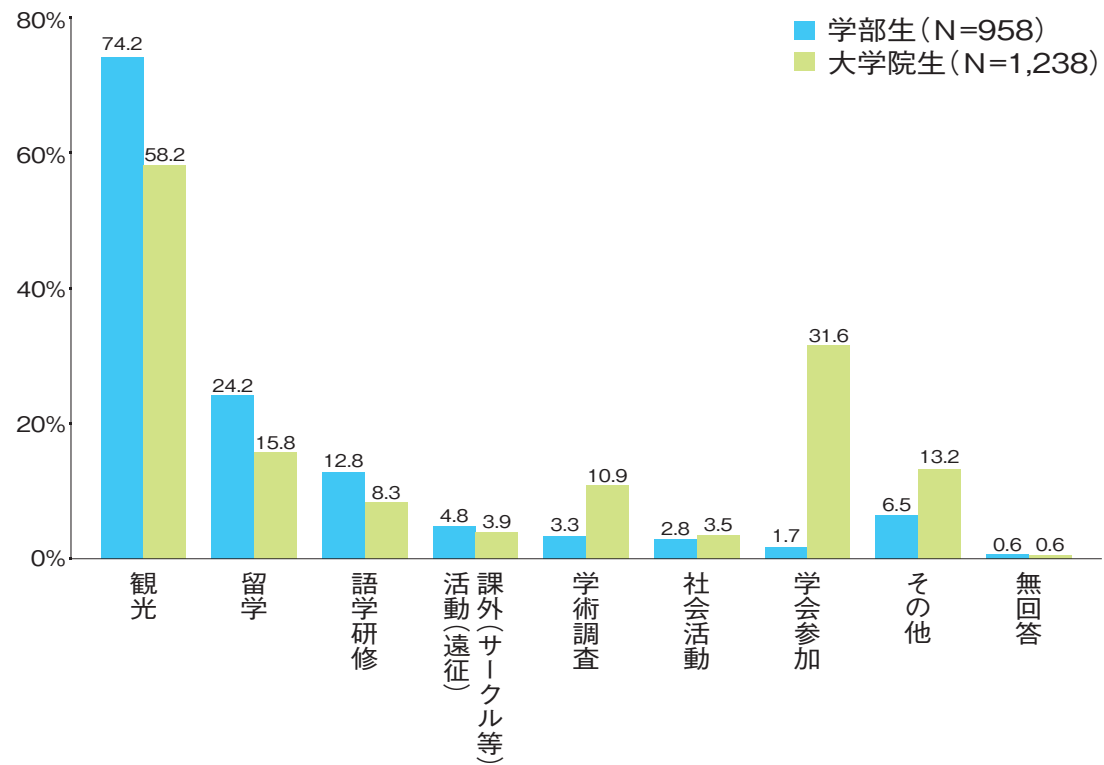
(人)	調査数	0 回	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回	8 回	9 回	10 回以上
学部生	2,871	1,913	477	191	112	58	44	21	15	12	3	25
大学院生	2,329	1,094	467	284	177	97	80	46	22	10	7	45



(2)海外渡航の目的【複数回答可】

学部生、大学院生ともに観光目的で渡航が大半でしたが、大学院生では学会参加と学術調査など研究上の渡航が大きな比重を占め、国際的に研究活動を行っていることがわかります。

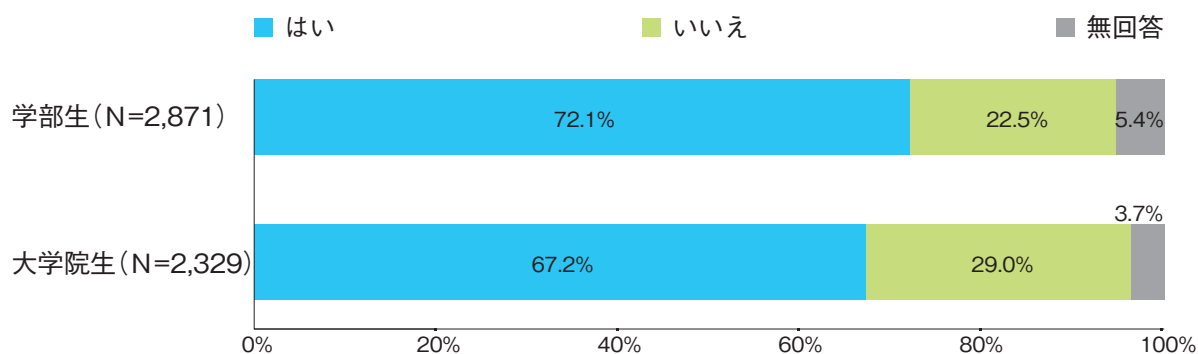
(人)	調査数	観光	留学	語学研修	課外（サークル等）活動（遠征）	学術調査	社会活動	学会参加	その他	無回答
学部生	958	711	232	123	46	32	27	16	62	6
大学院生	1,238	721	195	103	48	135	43	391	164	8



(3) 交換留学制度の認知度

学部生および大学院生ともに本学の交換留学制度を知っている学生は70%前後を占めており、前回調査時より若干増加しています。

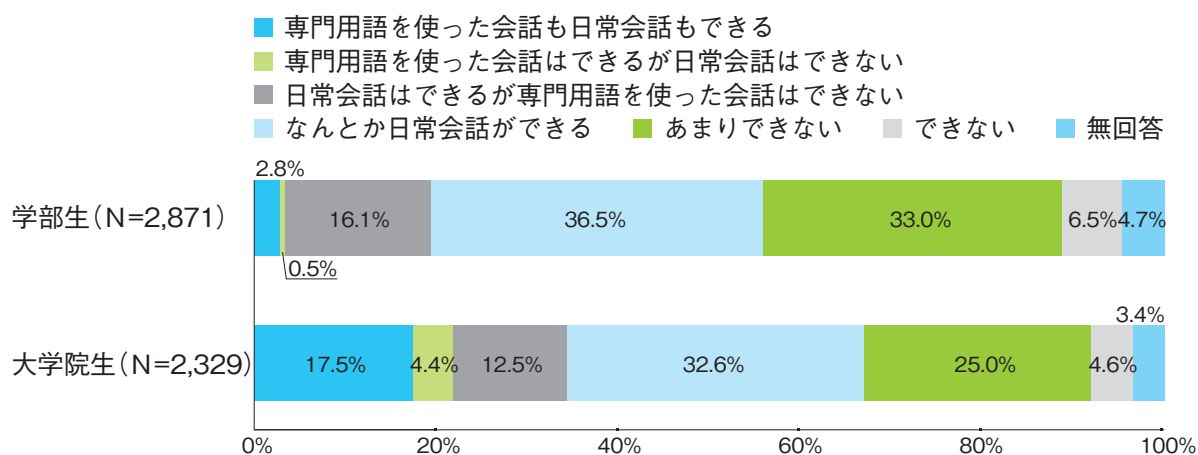
(人)	調査数	はい	いいえ	無回答
学部生	2,871	2,070	647	154
大学院生	2,329	1,566	676	87



(4) 外国語での会話の状況

前回調査時は無回答が20%前後あり単純な比較は出来ませんが、今回「あまりできない」「できない」が学部生 39.5%（前回 47%）、大学院生 29.6%（前回 32%）で、前回調査時と比べ減少しています。

(人)	調査数	専門用語を使った会話も日常会話もできる	専門用語を使った会話はできるが日常会話はできない	日常会話はできるが専門用語を使った会話はできない	なんとか日常会話ができる	あまりできない	できない	無回答
学部生	2,871	81	15	461	1,047	946	186	135
大学院生	2,329	407	103	290	759	583	107	80

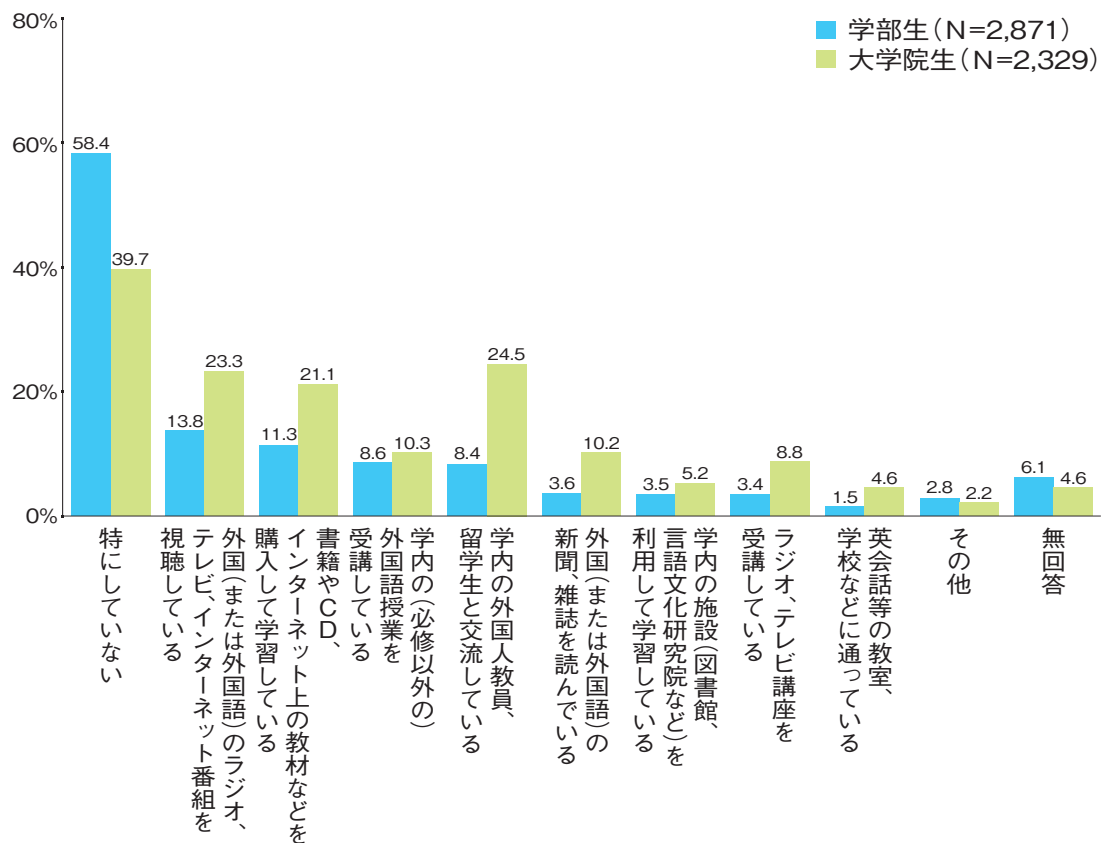


(5)語学力を高めるために行っていること【複数回答可】

学部生で58.4%、大学院生で39.7%が「特にしていない」と回答しており、前回調査とほぼ同じ値を示しています。

全般的に、学部生より大学院生の方が意欲的に語学学習を行っているようですが、特に「外国人教員や留学生との交流」で差が大きく見られました。

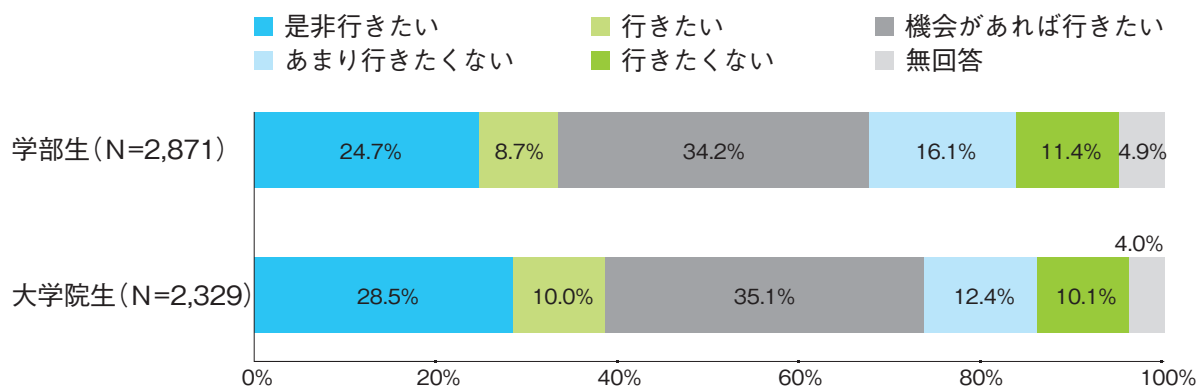
	調査数	特にしていない	外国（または外国語）のラジオ、テレビ、インターネット番組を視聴している	書籍やCD、インターネット上の教材などを購入して学習している	学内の（必修以外の）外国語授業を受講している	学内の外国人教員、留学生と交流している	外国（または外国語）の新聞、雑誌を読んでいる	学内の施設（図書館、言語文化研究院など）を利用して学習している	ラジオ、テレビ講座を受講している	英会話等の教室、学校などに通っている	その他	無回答
(人)												
学部生	2,871	1,676	396	325	248	240	104	100	98	44	80	176
大学院生	2,329	925	542	492	240	570	237	122	205	108	51	106



(6)留学や研究を目的とした海外渡航の意向

「是非行きたい」「行きたい」を合わせた割合は学部生で 33.4%、大学院生で 38.5%である一方、興味を示さない学生も 2～3 割いるようです。前回調査とほぼ同じ割合を示しています。

(人)	調査数	是非行きたい	行きたい	機会があれば行きたい	行きたくない あまり	行きたくない	無回答
学部生	2,871	709	249	981	463	327	142
大学院生	2,329	663	234	817	288	235	92



多くの意見が寄せられたため、一部を抜粋して掲載いたします。

基本的に原文をそのまま掲載しているため、事実誤認等に基づく意見が含まれる可能性があります。

Q01 本調査について【回答総数:698】

- Moodleなどのオンライン上でのアンケートが多いのに、わざわざ手書きでデータの集計しにくい方法によってアンケートを取る意味がわからない。オンラインでの形式に統一してほしい。
- 長い(めんどうだ)が、やむを得ないと思った。
- 4年に1回とあるが、九大は移転してまもないので要は試験段階。2年に1回などで行わなければ、変化に対応できないと感じた。
- 色々な人の意見を取り入れられると思うので良いと思います。
- 支出、収入については月によりかなり変動があるのでむずかしかった。
- 学生の意見を反映させるよい手法だと考える
- 大学生(院生)の生活実態から将来設計まで幅広く網羅されており、よく考えられているなと思いました。様々な制度や窓口が、必要な人に届くには広報活動しかないと思います。
- 生徒について知るために効果的なアンケートと思う。
- 隅々まで九大生をケアしてくれてありがとう！
- 質問項目が多く、回答に時間がかかる。
- 入力の手軽さという点では、web上でアンケートをとる方法もあるが、回答率を確保したいのであれば紙媒体(現方式)の方が良いと思う。
- 非常に綿密なところにまで質問事項が及んでおり、良い結果が得られるであろうと信じております。
- 実際に学生の声を聞くことができるので大切な調査だと思います。
- 大学院生と関係のない項目が多すぎる。学部生とわけてほしい。
- 前回も要望をとり入れていたということで、良い機会であると思った。
- 積極的に学生の声に耳を傾ける姿勢はよいと思った。
- 紙なので、とても答えやすかったです。
- こういう調査があったほうが普段の自分の生活を振り返ることもでき、改善されていくならお互いにとって良いことと思います。
- 生活の実態をアンケートを通じて応えることができとても良かった
- わざわざ言い出しづらかったが聞いてほしかった質問があったのでよかったです。
- 学生の意見を聞くという点で、意味のあるものだと思う。
- 学生の要望をどんどん聞き入れてほしい
- 定期的に調査を行うことは良いことだと思う。
- 長いけど、たまになのでいいと思う。
- 非常に詳細な質問内容があったので良いアンケートではないかと思う
- Too many questions.
- University should design a new survey's questionaive for foreign student only.
- I support this survey, I really think this is a good method to improve the living conditions of Kyushu university students.
- This is very important & should be done regularly. First time I am doing this in 2 years at KU.

- Survey is nice and detailed. But there is some problem with the questions in the perspective of a foreigner student. Questions always assume that student is Japanese, which some questions become meaningless to answer for foreigner student.
- Much of this survey automatically groups academics (lectures, seminars, research) in the same category, but they should be separated as they are 3 very different Academic activities. This survey should also be conducted every year, not just every 4 years.
- This is good survey, easy to understand and fill out. I hope this survey will help for understanding all foreign students situation.
- This survey is way too complicated. Some questions are confusing, and the answers are same time not able to answer the questions, the layout is not good as well, make it online. So you can collect the data easily instead of this stupid writing number to the downs.

Q02 教育・研究体制について【回答総数:525】

学部生からの意見

- 早く専攻の勉強がしたいです
- 熱心な教員とそうでない教員の差が酷く大きい。
- 教職の講義は1年のうちから受けていて良いと思う。2年～3年前期につめこみすぎ。教育実習を大学4年で行くのはどうかと思う。研究の手が離せないのに。
- 学部4年生になって初めて研究室に配属されて、3ヶ月後の7月には大学院に進学するかどうかの選択を迫られるのは、見極める時間が足りないのではないかと感じます。例えば希望者は3年後期に仮配属するような制度を作ってもらえないでしょうか。
- 同じ単位名で教員毎による求めるレベルに差がありすぎる点。必修で留年がすぐ決まる教科でも、差が大きいので、同学科で留年者多数出たため改善してほしい。
- GPAのせいで本当に取りたいと思う授業が受けられない。
- 研究だけでなく、教育する能力を向上してほしい
- 実験は女子同士でやりたいです。
- 課題協学や基幹教育セミナーなど、形骸化している授業があるため、その意義をもう1度見直してほしい。「アクティブチューター」という言葉が1人歩きしている気がする。共創学部のように他の学部に対しても先生と生徒がちゃんと向き合うような仕組みがほしいし、共創のように社長など社会人を呼んだセミナーなどを開催してほしい。
- 中間考査の点数などを皆に公開しないでほしい。
- まだ基幹教育ばかりだが楽しい。
- 基礎実験に用いる実験装置の故障等が比較的多い。かなり古いものも多いため新しく精度の良い装置の導入の検討をお願いしたい。資料を積極的に moodle にあげてほしい。moodle を教員が積極的に活用してほしい。
- 良い研究室が多く、教育熱心な先生スタッフも多い。
- もっと生徒主体の授業をすべき。課題協学ぐらいのコミュニケーションをとらせるべき。
- 特に英語教育を充実させてほしい。
- 教員と話す機会をもっとほしい
- 教科書が九大の先生が書いたものばかりだが、わかりやすくかつ深く学べるものを選んでほしい。
- 基幹教育セミナーと課題協学の内容が学部と被っており二重ですることに意味が感じられない
- 先生を選びたい。必修の授業の先生の授業がわかりにくかったとき困ってしまいます。

- 学科・学部の変更をしやすいしてほしい。留学の援助に、もっと力を入れてほしい
- 研究用設備が設けていてよいと思う。
- Call のように勉強をパソコン上でやるのがやりにくいから紙媒体にしてほしい。
- 文デシで、授業数と受けれるクラスの数のバランスを整えてほしい。抽選が多すぎると困る。
- 何の単位としても扱われない教職課目をどうにかしてください。
- 学生に対して担当教員が決まっているのに関わらず、接点が全くない。看護学科の学生は、担当教員との面談があったと聞いた。他の学部でもやってほしい。
- Campusmate も M2B システムの中に入れて同時にログインできるようにしてほしい
- スケジュールが過密なので、経済的に苦しく、結果的に学業に勤しめない。
- もっとフレキシブルに時間割を組めるようにしてほしい
- ムダな必修講義をなくしてほしい。例：基幹教育セミナー・課題協学科目・総合科目
- 基幹教育シリーズの理系の教科書が少し分かりづらいように感じます。
- 基幹教育の中でも専攻科目の先生との相談、対話の機会や授業を増やしてほしい。
- 研究環境、資金を充実させ、効率化し、教育による大学水準の底上げが必要
- 留学生の数の多さに反して、交流ができる機会が少なすぎる。一般の授業(基幹教育セミナーや課題共学科目などで)交流の機会をもっと設けるべきである。
- 1 年の間から専門課程を受けるようにすべきだと思う。1 年次は時間に余裕があるのに対し 2 年からは専門課程が忙しいので少しでも 2 年以降の負担を減らすべき。
- クォーター制を止めてほしい
- シラバスをきちんと書いてほしい。薬学部の連絡事項は HP で公開してほしい。
- もっと実践的な学びをしたい。講義形式の授業は身につくことが少ないし、面白くない
- 医学部 1 年生に医学教育が全くなされず、ほぼ無駄な時間を過ごす学生が多い、2 年以降の授業で理学部教員が教えた方がよいであろうものも多くカリキュラムに不適切さを感じる
- 教職課程で隔年開講(特に文学部)が多く履修しにくいので改善してほしい
- 授業間の連携が上手くとれていないため、同じような内容の話を何度も聞いている気がする
- 1 年時に基幹教育以外の専門を多少やると 2 年以降楽。数ヶ月で 3 つの学問は厳しい。
- Moodle や Campusmate などのインターネットシステムを使いやすいものにしてほしい(コース登録の簡便化や履修登録の不備の修正など)。
- 高校の頃までは担任の先生がいたが、大学に入るとそういった人はいなく、入ったばかりの頃は誰に授業のシステム等について尋ねればよいかわからなかった。
- 研究室配属をもっと選択肢(枠)を広げてほしい。本当に行きたいところに行けなくなる人が多い。
- 教授の会議が多く、授業が少ない
- 集中講義を受けるために通常授業を欠席しないといけないのが嫌なので、全学または学部で集中講義の時期をそろえてほしい。
- シラバスが最初の授業の前日の夜とか、ぎりぎりにならないと出ないときがあるけど、時間割を決めるのに必要な情報なので早めに出してほしい。成績も、前期の分は後期が始まる前に全部出してほしい。
- もう少し講義中心ではなく、フィールドワークなどの体験型の授業があったらいいなと思います。
- 生徒と教授の距離が遠く感じる。
- クォーター制は良いが、2 時間続けた授業はやめてほしい。同日に多量の内容をつめ込むことで、かえって学生のやる気と復習の時間をそいでいる。
- 英語の授業を増やすのではなく、日本語で、その分高度な授業を。或いはその復習として同単元を英語で学び、それが専攻の単位として認められる制度を。
- 研究そのものについて触れるのがどうしても遅くなりがちだと思います。カリキュラム的に時間がかかるが故に 4 年生での配属というのは分かりますが、やっぱり大学での醍醐味は研究！研究室配属は早いに越したことはないと思います
- 教員の授業の無断欠席や 20 分以上の遅刻が多い。授業料払っているのだし、なくしてほしい。

- 試験の過去問がまわっていますが、試験がほとんど過去問と同じです。あまり身にならないと思います。また、同じ内容の試験が違う時間帯に行われることでその年の問題が流出します(しました)。東京大学では同じ内容の試験は学年統一で行われると聞きました。せめて試験問題に変更を加えることが必要だと思います。
- GPA が進級要件にあることで過去問を巡ってクラス内に不和が生じている。部活ごとに過去問を用いた部活勧誘が行われており、部活に時間が割かれ更に勉強が過去問頼りになっている。GPA によってクラス内に成績の競争が生じている限りクラス内が仲良くなることは難しいと感じる。
- 薬学部:4 学期制のメリットを感じない。留学生受け入れをしやすくするためと言うが、実際、4 学期制が決め手になるとは思えない。2 コマ連続で無理やりつめこまれるため、短期間で覚えるべき量が増えてキツいだけだった。(とくに臨床) 4 年次(今後は 3 年次)から研究室配属されると、研究・授業が中途半端になるのが不満。せめて全研究室で臨床の生徒の待遇(授業準備に割く時間、セミナー参加(実習時 etc)、コアタイム etc)をもう少し統一してほしい。
- 研究室での指導をきちんと行ってほしい。先生自身が研究をすることにのみ集中して全く学生を指導しないという状況は問題があると思う。イライラして人に当たる。学生に対し好き嫌いをするなど、社会人としてマナーにかける行為が目立つ
- パワーポイントなどのスライドを使って授業をする先生がいるが、生徒がノートを取るペースを考えずに早く授業を進めてしまう先生が多い。板書をする先生であれば先生が書くスピードに合わせて生徒もノートに書いていくことができる。スライドは 1 度作れば何度も使えるので楽なのだろうが、生徒にとってはありがたいものではない。
- I think the curriclum of the international undergraduate programe (G30) is inadequate in terms of course relevance & hands on learning and should be updated to include more technology oriented courses, such as, programming a CAD software classes.
- There are some classes which are not available until the nest year. However, these classes are required for the next (or) current semester. This has comsed me and my friend a lot of problem in studying.
- The education system in Kyushu university is good for foreign students. Support center help us whin many problems.
- I enjoy the education system in Kyushu university. However, I hope they would also focus more on classes for ernational students. Some classes have some topic over and over. I would have liked to learn other subjects related to my major.

大学院生からの意見

- 学生(院生)向けの研究資金獲得を推進する仕組みを作してほしい。(URA の積極的な発信など)
- TA が必要経費を自腹で出すことのないように、出張費支給などの制度を求める。TA の時給増加に伴い、TA がつく授業数が減ったことは大変遺憾であるので、削減を撤回してほしい
- 教員の研究室が無いため、先生と身近にコミュニケーションが取れない。
- 学内研究発表(大学院生主体)とか交流の場があると良い
- 図書館の蔵書を充実させてほしい
- TA 制度は昔の方が良かった。学生も教員も困っているのもっとシンプルにしてほしい。
- 研究に対して、的確にアドバイスをいただける環境だと思います。図書館主催の研究に関する情報発信(文献の探し方など)はとてもいいです。
- 修士課程だと TA はクォーター制なのに授業は前・後期制で取りにくい
- 教員や講師の方の中には、学生を自分の研究に利用しようと考えているような方がいるように思われる。教育者であることも考えてほしい
- 学生ポータル等で履修要項を確認できるようにしてほしい (所属学部 or 学府の部分だけ抜粋できると

なお良し)

- 授業アンケートがとられるが、それがどう反映されているのかわからない。きちんと講義は評価されているのか？形骸化している気がする。
- 調査や研究のための内輪の事務作業がすごく多いように見えます。そこに教員の手が割かれているように思うのですが、なんとかありませんか。教員が研究に時間をさける体制を整えた方が学生が(特に院生)が享受できる教育の質が良くなると思います。
- The English classes for international course is still not as good as the Japanese course. Hopefully this will be able improve soon.
- There are too cancellation of the classes. In one of my class, the teacher conducted only one times, and the other classes were all cancelles. of course I need credits, but also I want to listen lecture of teache's specialty. In addition,there are too many duplications of class contents. Many teachers give almost same topics as undergraduate schools in graduate schools.
- Satisfied with the education system. However, it would be better to provide classes in English for those who are not fluently in Japanese. As Kyushu university is one of the top level universities in Japan, it should have international courses in every graduate schools.
- About Japanese classes, the rythme is so accelerated. Professors are good, but they go so fast. As a foreigner, I find difficulties to pursue learning Japanese especially with the constraints of research work. I would like to offer more facilities to learn Japanese.
- Provide more in-depth classes in English. They should teach instead of expecting us to learn by ourselves.
- The education system is advanced, well-managed and efficient and guides the student to their goals. However, it overwhelms the students with stress.
- Excellent. I think Kyushu university already good in education system.
- It's hard to find information about some classes in English sometimes.
- English should be more introduced in every type of lecture, seminar, journal club and other activities of laboratory for more active participation of international students.
- Unfortunetely, there are too many classes in Japanese (and I cannot understand). On the other hand, the university do not provide (as far as I know) formal Japanese classes for international students (long term students) I would like more langages classes in the university (and serious and intensive)
- It takes too much time to transfer credits onto my transcript from other Kyudai schools.
- Kyushu university are providing an education of high quality to its students. Various kinds of courses and lectures are available for students.
- Most of the seminar in lab is conducted by Japanese. So many international students waste their time during seminar. Totally ignore the international students.

Q03 学生支援・相談体制について【回答総数:417】

伊都キャンパス

- 留学生の生活サポートを充実させてください(金銭的な意味ではなく)。引越しの手続き、公共料金の支払いの手伝いなど、近隣の日本人学生にすべてふりかかっており、学業に支障が出ています。すでにサポートできるシステムがあるのでしたら、もっと日本人学生にも周知していただきたいです。
- 相談室への予約の電話がかけづらいので、メール等でも予約がとれるようにしてほしい。
- 全員がというわけではありませんが、学務の対応が不快です。機械的であるだけならよいのですが、嫌々

やっってる感が強く、学務に行かなければならないと思うと憂鬱になります。

- 相談室の場所が少しわかりにくい＆入りにくい。利用の用途等がわかりやすく、入りやすい空間になるともう少し利用しやすいと思う。メールやLINEなどのメッセージで相談できると気軽だと思う。(もし既にそのサービスがある場合は、サービスについて情報を増やしてほしい。)
- 支援体制がある程度整っているにも関わらず、学生の認知度は低いと言わざるを得ません。入学時に説明はありましたが、途中でドロップアウトした学生や困難のある学生にとって、適切に活用されていないと思います。担当教員による積極的な支援と相談体制の紹介、及び大学側の周知の方法を工夫する(例えばキャンパスメイト等のポータルサイトによる告知等)など対策をお願いします。
- 図書館・センターゾーンなどあらゆる場所に勉強についての相談窓口があり、困ったらいつでも行くことができるから、安心だ。
- 学生相談、健康相談に関して、こちらの真剣な相談に対しての、楽観的が過ぎるとしか思えない安易な回答やこちらの思い込みだと決めつけるような態度は非常に腹が立ちます。
- 学生相談の心理相談が1～2週間以上待たされたことが辛かった。すぐに相談できるような体制を作してほしい。気軽に相談ができるようになってほしい。
- 学生支援・相談について、予約が必要なので、緊急の時相談したい時、相談できない時多い。
- 一度健康支援センターを利用しました。とても親身に対応していただきましたが、窓口の先生が少なく、予約を取るのが難しい状況でした。また、営業時間も短かったように感じるので、その辺りを改善していただければ、更に利用しやすくなると思いました。
- 就職、特に博士の就職支援に弱い。日本全体がそうなので、本学が博士就職支援体制の発展の先駆けになることを強く推奨する！
- ハラスメント相談に対して九大がこれまでどのように対応したかの情報が少なく、相談することでの損得を考えると相談できないと感じている
- 就職相談室にはいつもお世話になっているが、全体で見てももう一人いないと負担が大きいのでは？と思います
- ハラスメントについて ハラスメントの相談窓口を無名でも受けつけられるようにしてほしい
- イーストゾーンにも健康相談室があれば嬉しい
- 身近な場所で無料開放していることはよいと思う。
- 相談できる場所のポスターとかもうちょっと貼り出してもいいんじゃないかなと思います。
- 私はキャンパスライフ、健康支援センターを利用(カウンセリング)するほかに、所属する学部の先生や学部係の方に相談することがあります。相談するなかで嫌な思いをしたことはありません。先生や学部係の職員さんに相談するときはややためらいもあるのですが(本業には含まれない部分をお願いすることになること、忙しい中で時間をつくって頂くことについて)、話してみることで気持ちがとても軽くなった。問題が解決したりするため、ときどき相談しています。
- 指導が入るまでの大きな問題が2件あったにも関わらず、変わらない現状。相談する意味があるのか分からずにいます。
- ハラスメント相談しても時間がかかるとのことで、在学中に対応が困難であるといわれたこと、意味がない
- 就職支援が乏しいように感じる。企業説明会などをもっと頻繁にしてほしい。東京に行ったりとかはなかなかできないので。
- 部活動の支援をもう少ししてほしい
- 工学部では「院進するのが当たり前」という風潮を教員が作り出している。時代が変わっていく中で、進路も多様性が増すし、学生の人生は学生だけのものであり、学生だけが自分の人生を決められるはずである。従って、教員や学校が進路に口出しする権利はない。工学部のそのような環境を変える為に学部全体として教員に指導してほしい
- 就職相談室のアドバイザーをナビ解禁後だけでも増員してほしい。行きたい企業のOB・OGがいらないか調べることができる体制がほしい
- The counselors are nice and helpful. I am glad that English speaking counselors are available.

- Unsatisfactory, except 1/2 staffs, most staffs seems unexperienced and asking each other, for our in queries!
- Please improve staff's English speaking skill, or increase member who can speak or communicate in English.
- The counseling systems are helpful for those who suffered in daily lives or struggled in every situations.
- The support for gradvate students is very minimal, notices regarding. Regular courses / intensive courses are very sudden / late. Minimal coovdination between office-professor is blatantly obvious.
- Students can get various support and counseling about job hunting, lecture information.
- It's hoped that there's some lecture about psychological health in the university and everyone should be taken part in there lecture.

大橋キャンパス

- 外国人向きの奨学金の申し込み方はほとんどわからないです。
- 受けたことはないが、困ったときに相談できると知っているだけで、心の支えにはなると思う。
- インターン情報がもっと欲しい。
- 気軽に相談しに行きやすい雰囲気になったらいいのと思う。大橋キャンパスは知人に見られやすいので、相談室に近寄り難い。
- 九大のメール多すぎます。学生ポータルの UI が劣悪。
- 就活講座、TOEIC 対策など大橋キャンパスで開催されないことが多い。人数が少ないので仕方がないのは承知しているが、交通費・時間の関係で機会損失してしまうことが多いので、もう少し平等になってほしいと思う。
- Student support / student appair office was very helpful and nice. However, the health center was not really useful due to limited schedule of the doctor.

病院キャンパス

- 奨学金や留学の情報をもっと充実させてほしい
- 病院地区、健康相談室の臨床心理士さんが優しく相談にのってくださったおかげで大学生活を無事に継続させることができています。ありがとうございました。
- もう少し、学生にアピールした方が多くの学生に認知してもらえる。健康支援センターの方はみなさん優しくて嬉しいです
- カウンセリングも医師も予約が必要ですが、困った時にすぐ行ける場所を探しているので、すぐ対応してくれる人もいい。
- moodle が新しくなるたびに、どんどん使いづらくなっています。新しいものがページをめくらなければ見れず、手間がかかるため、改善してほしいです。
- 馬出キャンパス、就職支援が十分でない。
- 就活支援に関して ES の添削だけでなく、グループディスカッションや面接等の支援もあると良い(伊都キャンパスだけでなく他でも) (能力はあっても意思疎通が苦手な学生も多いと感じるためサポートする体制があると良いと思う)
- キャンパスが離れている分、各窓口が分散していてせめて自キャンパスの学生係でできること、できないことを通知してほしい。
- 担任との面談を全員課してほしいです。学生の性格や適性を大学側が把握しておいてほしいです。
- あまりに事務的であり、ただ事を為せば良いという姿勢が顕著にみられる。もう少し積極的な行動をすべきだと個人的には思う。Web 上にこのような学生生活における Q&A を見れるサイトがあれば良いかなって思う。そこに先輩たちがコメントしたりして、後輩に情報を渡せたら良いと思います。

- キャンパス・学部間での差が大きく、就職活動などは、閉じている環境だと情報がなく、機会も少ない。もっと開かれた手段が欲しい
- 実習中、精神的に辛くなり馬出地区の健康保健センターに行こうと思ったが、開館時間が実習と被っており、結局行けずに終わった。時間を延長するなど、工夫をしてほしい(特定の曜日だけでもいい)。
- Don't know much. But 医局中の皆様から、色々お世話になっています。We have stray connection & support in my own depart!
- It good especialy for international support center.
- We need more English speaker people in the support center.

筑紫キャンパス

- 毎月1回、学生相談室で心理カウンセラーの人と面談している。自分の生活や精神状態について相談でき、とても満足している。
- 各キャンパスに学生相談室がある点は、大変助かった。
- 事務の処理が遅すぎるのと、事務の人に聞いても知らないことが多すぎます。なので、利用しにくいです。計画が狂うことが多かったです。筑紫の自動発券機の回復に時間かかりすぎです。就活時期とかぶっていたので、とても不便でした。
- 相談室についてもっと周知すべきだと思う。ほとんどの人が相談室の存在を知らないように思う。
- 就活支援しか知りませんでしたが、そちらはよく利用していました。とてもありがたかったです。
- 伊都と筑紫とで就活支援に差があると感じる。せめて伊都で就活関係のイベントがあるときはバスを出したりしてほしい。特に早く就活を行いたい学生にとって、筑紫キャンパスの環境は良くないように感じる。
- 留学生サポートの頼り切りなところを改善してほしい
- アカデミックハラスメントの相談を大学の相談室にしたが放置されている。法文系の教員に相談したところ、はっきりとアカデミックハラスメントと言われて、パワーハラスメントとも判断して良いと言われた。それ故に大学の部署がきちんと機能しておらず、一部の教員に相談して意見をいただくに留まっている。大学当局に何を言っても対応してくれず、むしろ悪化させかねないために学生相談ではなく学生を困らせている。
- Please increase more information about anything in English.
- I can have all solution from student support center on whenever I have problems. And they have quick reply for all procedures.
- Student support is helpful and friendly and does its responsibility completely. I know nothing about counseling system.

Q04 大学の経済支援等の諸制度について【回答総数:418】

- 貸与型のものと借金という感覚があるため、給付型のものを探して、できるならば、もう少し増やして欲しい。
- 経済的に豊かではないが、学計に支障がでるほどは困らない中間層に対しての奨学金が少ない。
- 学費免除制度をもっと充実して欲しい。
- 充実していますが、昭和バスの通学に関する経済支援があってもいいと思います。以前は回数券などで学生が安く利用できていたのですが、現在の利用で往復500円は高すぎます。キャンパス移転をした分、大学からの支援もあっていいのでは、と考えます。
- 授業料免除システム(web)の導入はとてもありがたかったです。
- 博士課程の奨学金が年額50万から25万に減額した意図がわからない。採用人数をその分増やしたのか

もしれないが、結局、人数があつまらずに再募集していた。私はその制度をたよって修士にはいったので、非常に困窮した。

- 海外留学、海外学会参加への援助を今以上に充実させてほしい。
- 寮費が最も安いのはドミトリーⅢなのに、経済事情は全く考慮しないというのは理解できない。また、単純に両親の経済力のみでなく、兄弟の人数や家族の人数なども考慮してほしい。
- 何度もアナウンスがあって申し込み方法も分かりやすく、無事に奨学金をもらえることができました。
- 奨学金制度について、両親の年収だけに依らないでほしい。我が家は両親の年収はそこそこあっても、弟や妹が多くいて、実質自分自身にかけられる金はほぼない。年収のみならず、弟や妹の数も考慮してほしい。
- 返済義務のない奨学金や、就職活動に関わる費用を大学が負担すると明言すれば今より優秀な学生が集まって来ると思う
- キャンパス間の移動に補助を出して欲しい。遠すぎる
- 広く浅い支援ではなく、能力に応じた支援が充実していた方が良い(特に大学院)。その方が努力するのではないか。
- どの機関の経済支援にも言えることだが支援を受けられる基準に満たないため、結局支援を受けることが出来る人以上に困っている。
- スケジュールが過密なので、経済的に苦しく、結果的に学業に勤しめない。
- 無償の奨学金制度つくってほしい
- 授業料免除等の採用人数を増やしてほしい。大学側で給付型の奨学金を増やしてほしい。借金で大変。就職できてもずっと借金返すのに必死で生活自体が困難。
- 諸奨学金給付・貸与に必要な GPA を 3.5 以上にしてほしいです。(成績条件を厳しくしてほしいです)
- 就職活動に伴う出費へのサポートがほしい
- 不十分だと思う、もっと授業料実際の基準を引き下げるべき
- 基幹教育奨励賞の活動報告の義務についてなのですが、希望者のみの報告というように制度を変更していただけたら幸いに思っています。
- 教員の推薦等で、学業面をもっと深い場所で計るべきだ。
- アルバイトに苦しむ学生を多く見かける。経済支援制度を拡充して、落ち着いて勉強に取り組める環境を整備すべきである。
- 大学院生に対する経済的支援を充実させてほしい
- 授業料免除について、学業成績をほぼ加味していないのは不公平感がある。勉学の成果をきちんと成績で示している学生が報われる制度であってほしい。
- 授業料免除は良いです
- 情報をもっと見やすくしてほしい
- 基幹教育奨励賞が微妙だと思うのは高額な免除を受けた人とギリギリ受けられなかったけど頑張っている人は何が違うのか。そもそも別の授業を受けている学生を比べられるのか
- 入学金や学費について、免除制度が非常に充実していてとてもありがたい
- 本年度、交換留学をしたいと考えているが、奨学金の家計基準が厳しい。狙える選択肢が少ない。
- 成績優秀者に対しての奨学金・給付金について 普段は GPA に影響しない科目の成績も考慮してほしい。(教職や司書など)
- 博士課程の授業料免除をゆるくして欲しい。学振をとっているが、半免にしかならず、経済的にきびしい。他大学では無条件で学振生なら免除になるのでなくて欲しい。
- 授業料免除など、とてもたすかっている。日本学生支援機構以外の奨学金をもっと充実させてほしい
- 手続きをすべて web 上でやれるようにしたいです。
- 私は留学が必須の共創学部で学んでいることもあり、留学に際して奨学金(学部の奨学金)制度を活用したことで経済的負担が軽減されました。留学の準備金と月ごとの奨学金を活用することで、少し費用がかかるものの本当に行きたいと思っていた研修に行くことができました。
- 昭和バスの補助を復活させてほしい イーストゾーンの完成とともに周船寺経由のバスが値上がりした

にも関わらず遠まわりになり不便になった 循環バス廃止は不便になった 昭和バスの定期券に補助を出してほしい

- 海外渡航支援で 25 万円の支援を受け、ヨーロッパの学会に参加できたので心から感謝します。しかしながら、本制度では学会から帰ってから報告→振り込みの為、学会参加申し込みから支払いまでの期間にお金が不足気味になり困りました。半分ぐらいは先に振り込んでほしいです。
- 大学院生の給付型奨学金について国に取り入ってほしい。TOEIC などの試験を補助してほしい。
- 大学に支援してもらうことはムリだと思ったので、外からお金引っぱってきました。
- 奨学金・免除・給付金の対象者を専攻やコースで持ちまわりにすることを止める、もしくは改善して欲しい。業績があっても、タイミングが悪いだけで対象にすらならないのは辛い。
- 無利子の奨学金或いは給付型の奨学金の充実化及び枠の拡大を強く求めます。
- 貸与型ではなく給付型の奨学金のハードルを下げてもらいたい
- 学振出したら 25 万円の制度は助かりました。
- 学費援助というより、そもそも授業料が高いと思う。学生の収入だけでなく親の収入も調査すべき。年々上がる税金などで親が授業料を出し渋って、それを学生が感じ「親に負担させたくない」と思う人が増えていると思います。このような調査が毎年行われていて、支援制度が増えているにもかかわらず、授業料免除申請者が増えているのは、そのような背景があると考えています。
- キャンパス遠すぎてお金かかる。せめて学研～キャンパス間無料にしてください。原付の事故が多いのもキャンパスが遠いからです。
- Financial support for the G30 undergraduate program is adequate and I hope it continues.
- The support for acquiring a scholarship outside the university is great. The support for school's (university's) scholarship is not available that is. Despite my good grade, I had no chance in getting a scholarship from the university.
- I need more and more financial support for research.
- Japan is expensive to live. But I think university programs offering financial support is enough for our peason.
- Agree with his programs. This help students, Japanese or non Japanese with low income.
- Great, good for student who need go abroad to attend academic meetig and doing internship overseas.
- Good. Offers exenption fee by university. Scholarship section in website always updated.
- Kyushu university can support more to academic / research program. For oversien meeting, academic conferen, internship studuets need more budget.
- The university has programs offering support but these are mostly accessed through the knowledge of the supervisor, that is, their access can depend on whether the supervisor discloses them or not. I suggest that the must be openly discloses to students and more options should be recommended.
- I would like more financial support programs for international students or more easy accepted programs for international system.
- I am grateful to them. They are helping and motivating a lot of students from Japan and overseas.
- University needs a better assesement process of giving out scholarship especially to IUPE students. Because I see a lot of undeserving students recieve scholarship, and ended up being a burden to their class and the university.
- It is very helpful. Especially for supporting the payment tuihon fee (exemphun) and facilitahng the scholarship for daily life and study.
- I was getting scholarship from Kyushu university, and it helped me with living expenses. However, when I moved out of dorm, it was difficult to live with only scholarships, thus I had to find part-time jobs or other ways to get money.
- Not enough publicity

- Wish more scholarship opportunities as the life expense is so high in Japan. Offer more part-time opportunities to international students such as librarians.

Q05 大学の施設・設備について【回答総数:819】

伊都キャンパス

- 学食の席数を増やす。学生の登校・下校時間をずらしてほしい(バスが暑苦しい)。
- きれいで過ごしやすい。特に図書館の自習スペースが広くていい。
- 体育館内が夏場は非常に暑く危険である。空調設備や壁面・屋上緑化等に早急に取り組むべきと考える。
- 自転車置場を増やしてほしい
- 他の大学へ行くと、課外活動施設として宿泊施設があることが多い。九大も貝塚地区には存在したのに、伊都への移転の際になくなってしまったので、同様の施設を作してほしい。近辺にホテルがないことを考えても他大学との交流に不可欠だと思う。
- 食堂の利用時間を長くして欲しい
- 駐輪場に屋根を付けてほしいです。
- 図書館の冷房の温度を下げてほしい。
- 中央図書館が遠すぎて行くのがきついの、もう少し考えてほしい。中央図書館側にコンビニを作してほしい。
- 電気のムダが多いように感じる。
- 交通の便が悪い。PCをもっと設置してほしい(図書館、ラボ)。文系側にもっとローソンなどのコンビニや食事施設(生協以外)がほしい。
- 全面禁煙後タバコのポイ捨てが目立つ。他大学と違って学外の周辺施設が遠いことを考えると、少数の喫煙所はあった方が制御しやすいと思う。正門付近の渋滞(夕方)がひどい。歩車分離信号にしなければ、どちらもあぶないのではないかな。
- ドミトリの寮の費用を安くしてほしい。大学内のローソンを1ヶ所でよいので24時間にしてほしい。
- 図書館は本がとても充実していて嬉しいかぎりです。ただ、図書館のホームページ等でもう少し予約等の個人サービスが行いやすいようにしてほしいです。具体的にはアマゾンのように！お気に入り機能とかもほしいです。
- 特に季節の変わり目のときに暑かったり、寒かったりする。なのにクーラーを使わずにつらい思いをすることがある。また、換気をしても空気がよどんで息苦しい。1時間半の授業をたえられない。窓のない講義室だとなおさらしんどい。
- 大橋キャンパスの施設の老朽化が進んでいるので改装してほしいです。トイレを洋式にする、エレベーター・エスカレーターの設置などを望みます。
- 学生寮を増やしてほしい
- 外国に比べ、団欒しながら学習する空間が少ない、そのせいか学習は堅苦しいものとの認識が強い。
- 大学内の移動の際皆が使っている Aimo がありますが、一度に乘せれる人数が少なくバスが回る順番も効率が悪く、あまり AI 技術が有効活用できていないと思います。以前の循環バスを復活させるべき。
- 椎木講堂センターゾーン前の「九州大学」交差点に右折信号を設けて欲しい。(バス・九大ビッグオレンジ～九大センターゾーン入口間)
- 体育関係の設備が少ないように思えます。キャンパス内の学生数に比べて、体育館・グラウンドがとても狭いです。また、自動車が入構する際の中央ゲートが、未だに直っていません(10/8 現在)。そのため、入構証の有無に関わらず、誰でも入れてしまう状況です。こちらは月々の料金を支払っている、直ちに修理をお願いします。

- 保健室については、風邪のときに助かりました。
- 総合体育館の温水プールがとてもきれいで泳ぎやすく憩いの場となっています。
- 農学部駐車場を広げてほしい
- 大学の課外活動施設は防音に関してあまり配慮されておらず、隣の部屋からの音がかなり聞こえてくるため、音楽サークルにとっては練習場所にできません。
- 大学構内の車、バイクの数に対して、駐車場・駐輪場が足りていない。違反駐車ステッカーを貼って注意するのは、根本的な解決にはならない。
- Kyushu University has a very modern equipment system.
- Because of the low budget of my lab, they are not able to provide new instruments, hope it changes soon in the future.
- The cafeteria and restaurants need to be opened during the weekends also. Many students come to the university for their study and research on Saturday and Sunday. But restaurants remained closed on Sunday which makes difficult to find food.
- Some general information about how to use the facilities can only be found in Japanese. Also, mostly of the staff can not speak any English.
- very nice classrooms in general. But the individual laboratories / student offices have become much smaller than compared to the previous campus. Even though there are so many vacant spaces in west 5. Library closes too early, cafeteria too crowded at lunch time. (get rid of lunch break)
- There are many experiment equipments here, and I was surprised.
- It is difficult for me, as an international student to use facilities, because the system doesn't allow me to do so. We have to speak Japanese, or university clubs don't want to include as in their group.
- Sports fields, cafeterias, gyms are all of high quality.
- I consider myself lucky to be part of a university that offers so many facilities for its students (Educational / Sports / Culture / Leisure).

大橋キャンパス

- 大橋の食堂の混雑解消
- 食堂の定食の種類は少なすぎて足りません。
- 図書館の開館時間を延長してほしい、10時ぐらいまで。
- 大橋－伊都間の交通費が本当にバカにならないので、希望者をつのって、指定された日の時間帯だけでもバスがほしいです、切実に。
- 喫煙所を設置して欲しい。分煙等をすれば良いと思います。
- 食堂で夕食が食べたい。大橋キャンパス 5 号館の水道が汚ない。
- ・トイレについて:最も利用する大橋キャンパス 5 号館のトイレが少ない。不衛生、メイクルーム? 等もなく、時々混む。・5 号館について:3 階の中央が封鎖されているため、特定の教育へ行くにはエレベーター使用不可だったり、トイレが使えなかったりするのが困る。体調が悪いときはきつい。・食堂について:昼休み、一般客が多く、椅子が空いておらず、昼食がとれないことがあるので、昼休みは学生利用のみにしてほしい。
- 大橋の図書館が小さすぎる
- トレーニング設備がない。クレカとか電子マネーに対応してほしい
- Facilities and equipment are very nice. Especially the research chambers (homotron) at Ohashi campus.

病院キャンパス

- 保健学科棟の雨もりを早くなおしてほしい。医学科棟の駐輪場(病院側)にいつも自転車があふれていた

り、図書館前に大量の自転車が駐められているのが気になる。駐輪場の新設が必要なのではないかと思う。

- 馬出－伊都間のシャトルバスが欲しいです。
- 伊都キャンパスにはたくさんの学生寮や宿舎があるのに対して、馬出には一つもないのは、非常に不公平に感じる。大学が箱崎地区のアパートを買い上げて、学生に提供してほしい。
- 複数の学部がある伊都キャンパスと他のキャンパスの物理的距離が遠く、他キャンパスの学生が在学中に興味の持った分野の授業を受けることが必修授業を受けながらはとても困難。オンライン越しで受けることができるようになるととてもありがたい。特に病院キャンパスには医系分野しかなく、他の分野を学ぶことが困難で、考え方の多様性の面でも狭くなってしまう。
- 自習室を充実させてほしい
- 薬学部棟のトイレをキレイにしてほしい
- 勉強スペースが少ない。使える施設やその具体的な使い方(例えば体育館の個人的な利用時など)が分からない。
- 学生数の多い伊都の設備が豊かなのは分かるが、病院キャンパスの方ももう少し設備を充実をさせて欲しい。例えば図書館の本の数、食堂のメニュー（食堂が1つのため、3年もいると飽きる）など。
- 土日に食堂を営業してほしい
- 薬学部は不衛生。もっときれいに施設をたもってほしい。お手洗もきれいにしてほしい。
- 学研都市駅からキャンパスへの昭和バスの運賃が高すぎる。補助がほしい。馬出キャンパスと伊都キャンパス間の、生徒がのれる無料バスがほしい。
- 病院キャンパスの食堂の改善(混雑) ・席を増やす ・スペースを広げる ・施設を増やして、分散を図る／病院キャンパスの駐輪場を増やす&屋根をつける
- Great. I'm satisfied with it.

筑紫キャンパス

- 筑紫キャンパスの図書館は日曜日でも空いてほしい。
- 筑紫キャンパスに ATM を設置して下さい。伊都行きのバスを出して下さい
- 図書館等の設備が伊都に集中的になっており、筑紫での設備が物足りなく感じる。
- 伊都だけでなく筑紫キャンパスの施設や設備も充実させてほしい
- Overall good, however we fell that the gym facilities and arena / room is need to be upgraded. Chikushi campus is the one who has a poor facitilies for doing sport.
- The quarlity is enough, but somehow there are old. The maintenance is pretty good, but they are old.

Q06 大学生活全般について【回答総数:477】

伊都キャンパス

- 学期末や休みの間に、遠くから伊都へ掲示板を確認しに来るのが大変なので、ネットで掲示を確認できるようにしてほしい。
- 自転車のマナーが悪すぎる。無灯火・逆走
- プリペイドのチャージ機があるとよい(交通系 IC のチャージ機みたいな)
- 他の大学では、学祭の他にも学生交流の場が多く存在する。九大も、大学側主催の学部、学年ごちゃまぜの交流会を企画してほしい。
- 九大祭の開催時期をもう一度検討してほしいです。
- たばこを構内で吸ってる人が未だに多い。特にびっくドラ屋上、汚く治安が悪くそして健康上の被害も考

えられる。全面禁煙は伊都キャンパスでは難しいと思うし、もっと人目に付かない場所に分煙スペースを設けて欲しい。少なくともびっくドラ屋上だけは取り締まって欲しい。

- 電子システムを積極的に導入しているのであれば、単位計算をする機能(+ 足りない単位を表示する機能)等は、取り入れるべきだと思う。バス代が高すぎるので、経済的に苦しいと感じる在学生が大勢いる現状をなんとかしてほしい。
- 生協 HP に、各食堂のカレンダーを置いてほしい(具体的には、今日は〇〇と××が12:00 ~ 14:00 まで営業中などといった感じ(理系図書館の HP におかれているカレンダーのようなレイアウトがよい))。理系図書館から少し下った所にある駐輪場に屋根を設置してほしい。
- 学校周辺に土日でも利用可能な飲食店などが無い。友人と気軽に集まれるような場所が少ない。
- 西鉄バスの本数が少なすぎて不便です。
- 交通マナーが悪すぎる人が多い(バイク)
- キャンパス周辺は、食料品を買えるお店がほとんどない。キャンパス内は、大学が休みの日には営業していないことが多く不便さを感じる。バス代は高い。バスは夜間や休日は数が少なく、不便である。
- 近くにスーパーマーケットが無いから作ってほしい。娯楽施設も無く車が必須な状況をどうにかしてほしい。
- 違反駐車が目立ちます。特にゲートが壊れてから非常に多いと思います。
- 大学生協以外の学食が増えてほしい
- 箱崎キャンパスにあった地蔵の森のような豊かな緑地帯が欲しい。
- 大学周辺に飲食店やスーパーなどがあると便利なのでその辺りをなんとかしてほしい。
- 九大祭を台風に影響のない日時に変えてほしい
- 特に困ることなく生活できています。もちろん問題に直面することがない訳ではないのですが、問題を解決するうえで必要なサポートを受けることができていると感じています。相談する相手も複数見つけることができたので、それだけでも大きな安心につながっています。
- 理系図書館～ビッグドラ間は一方通行であるべき。歩行者や自転車に対して明確に標示してほしい。とくに何度も正面衝突しそうになった。事故になってからでは遅い。
- 原付の交通マナーが酷い。夜間住居周辺で九大生が騒いでいる。一方通行の逆走が多々あり、たまに衝突事故が起きている。未だに構内で喫煙をしている人がいる。
- とり天を工学部食堂に持ってきてください。あれがないと生きていけません。
- 悩み、障害等は多いですが、それも含め学生の内のできる経験なのかなと思う。
- 天神から西鉄バスで通学しているが、全員が座れるくらいピーク時に本数を増やしてほしい。逆に午前中、学校から出るバスは減らしてもいいと思う。
- 学食のバリエーションが少ない。営業時間を延ばしてほしい。
- 食堂があげ物ばかりだったり、野菜が少なく、男性向けのメニューばかりなので、もう少し栄養のあるものが食べられるとうれしいです。
- 大学側からの情報が伝わりづらい。
- Create some ways for international students to make friends with Japanese students.
- I like living in Fukuoka. I don't want moving to other places in Japan.
- I really hope the Japanese students will be less shy and try and talk, have a conversation with foreigners even if they are not sure about thier language ability, which this thing will make me feel less an outsider and make me feel better to be in this "awesome" country.
- The cafeteria is very paclud at lunch time (12pm to 1pm).
- I hope there are supermarkets nearby, or more restaurants. When I am busy, I canoot go out to AEON mall so I do not have food reft at my place.
- Need more vegan options! Eva Dining bento in the co-op is a good start, but I can not eat a full meel in the cafeterias.
- Generally speaking, I feel very satisfied with the life in Kyusyu university. The only thing I feel

unconvenient is that there're few kinds of vegetarian food in cafeteria. As a vegetarian, what I can choose is salad, なす, とうふ, うどん, in center cafeteria, no 定食 are available. And only kind of vegetarian 定食 is available in 理学食堂 and 医学部食堂.

- If there are more buses to so to or leave the university, it is better.
- I enjoy my study so far because of the lab facilities are available in my lab.
- It is nice except to get into our building because we normally use our bicycle for daily. It is quite. Inconvenient because the campus is located at the top. So, I feel so tired.
- We need some supermarket around the university. Also we need more dormitory for foreign student. Because some agent don't rent house to foreign students. It's relatively hard for foreign students to rent a house.
- Gererally it is peaceful and enjoyable. The lectures are also interesting.

大橋キャンパス

- 就職について、徐々に不安を感じ始めてはいるが、基本的には楽しめている。
- 高学年になるにつれて交流が薄くなる。課題協学は高学年こそ役に立つ授業だと思う。
- 伊都キャンパスが遠いから、もし伊都で活動があれば、参加する機会が少ない。
- 1.quiet, peaceful 2.allows me to study and fcus on my research
- I like the ability to enter the university 24/7.
- University life was challenging due to lack of English speaking environment.

病院キャンパス

- 台風など自然災害時の休講連絡をもっと早くしてほしい。午後休講のメールが AM10 ~ 11 時にきても、その頃には計画運休や遅延などがあるので、それより早く家を出る必要がある。わざわざ教員にメールして補講や追試にしてもらう手間を考えたら、例え無駄足になっても朝早くから大学へ向かいます。地元の他大学は前日には休講とメールが来るので、できたら改善をお願いしたいです。
- とにかく馬出キャンパスの学生食堂の混雑緩和のためにあともう一つ食堂を新設する必要があると思います。
- 生活費や将来への不安はありますが大概満足しています。
- 実習と研究と就活の並行は厳しいものがあるので、公に日程の調整ができるようにして欲しい。
- 閉鎖空間で疲弊しやすく、独り暮らしだともっと大変だと思うので、他県や他大学からの進学者に対して、何かしらサポート体制があればいいなと思いました。入学の際に、説明会などを開いて、最初に取り組みについて紹介しておけば、必要なときに利用できるのではないかと思います。
- Long time studying hours but it's fun.
- Very Interesting. I have made friends a lot.
- Totally 4 years I'm studying. I really like my KUniversity life.
- It's quite challenging when your a foreigner but so far I can manage.

筑紫キャンパス

- 全面禁煙は喫煙者がルールを守れず、ゴミを捨てることが増える。逆に良くない面があるので喫煙室があると良い。
- 授業が多いので、もう少し研究に打ち込めるようにカリキュラムを改善してほしい
- 筑紫キャンパスの食堂を改善するべき。伊都には生協食堂があるのに筑紫にはないというのは不公平。
- 研究と就職活動がほぼ全てを占めており、他のことに割ける余裕がないように感じる
- 何故筑紫には、生協の学食がないの？

- Lack of modern playground.
- It's a very good and safe life in university. I have everything that I need.
- It must be great if I have scholarship.

Q07 大学におけるダイバーシティ（人種・性別・障害等の多様性）への対応について 【回答総数:318】

（全般）

- 過剰な対応については反対です
- 「とりあえず対応しました」と感じるようなムダな工事（車いす対応等）が多いように感じる。しっかりと調査し、本質的な対応をしないと何も変わらない。
- 必修の集中講義としてダイバーシティの教育を行ってほしい。人種、性別への差別発言が冗談として話されているところを目にすることがある。
- 学生も教員もまだまだ対応が甘いと思う。ダイバーシティの知識、意識が低すぎる。
- 大学側で様々なシステムを用意しているように感じるが、学生（学部生）の中には理解に乏しい人が散見される。教育の機会を教養授業などで増やして、真剣に考えることをさせてみるべき。
- 全体として問題はないと感じるが、所属研究室では、まだまだ対応が不十分。
- 過度に差別を意識することが差別に繋がると思います
- 知ってもらふことをもうちょっと頑張ってもいいんじゃないかなー。と思います。あと車いすおすとそこらじゅうガタガタします。
- しっかりと取り組まれていると感じます。図書館で TA をしていますが、業務の一環で合理的配慮に関する講演の動画を視聴しました。録音の調子が非常に悪く聴きにくかったですが、内容は非常に興味深く、すばらしいと思いました。音を改善した上で公式 YouTube にアップするべきだと思います。
- There are not so many initiatives on diversity and for those that exist, not much is done to make sure that nobody feels out of place. Only dominant groups or favorable groups benefit most.

（国際・宗教）

- まだまだ留学生に対する支援が不十分だと思う。
- 学内の施設で、外国語対応できる人がまだ少ないと感じる。
- ハラル料理があり、人種への対応はある程度できているのではないだろうか。
- 外国人と交流する機会が多い
- 今のままでよいと思う。ただし、日本の学生にも平等に対応するようにしてほしい。海外から来た学生へのサポートだけ充実して、日本の学生のサポートが足りなくなるといったことはやめてほしい。
- 様々な国からの留学生が多くいて、接する機会が多いので、良い環境だなと思います。
- 留学生と気軽に話せる場をつくってほしい。
- 逆に外国人が多すぎて、日本人が少数派になりつつあります。日本人が日本語でも学術・研究に取り組めるようにすべきです。
- 日本語の資料が多く、留学生に向けての情報が不足している。また、留学生のための居住、また生活の支援が不足している
- “性別”に関しては分かりませんが、ハラルや礼拝できる場所など備わっているのが素晴らしいと思います。
- 人種差別は留学生が多いのもあってか、感じたことはありませんでした。他はわかりません。
- 多様性がスバラシイと思う。色々な国の人と話して、その国のことを知れて楽しい。
- 留学生の方からサークルではあまり理解がなく、居ごこちが悪いということを聞きました。

- イスラム教の人への配慮がよいと思う（ハラールやお祈りするスペースなど）
- 昼頃に、廊下の一角でお祈りしている人を見かけるので専用の部屋を用意すべき
- もっと留学生と日本人を交流させる施策を行ってほしい。私は良く留学生と話すが、ほとんどの人は話さない。
- Thank you for everything you done for takiy care of us! I wish I can be an "懸け橋" between my homeland & Japan in the future!
- We get to meet students from different nationalities.
- For international students, if you want to go back to China or go to other countries to find a job, the those of recruitment with Japan is likely to be completely different. For these students, these will be a lot of inconvenience, such as adjustments in the curriculum, help in employment counseling, etc. I hope that this aspect can be improved.
- It's good but I hope the university can be more strict when the university admit international students and local students.
- It seems the interaction between foreigner and local students is quite limited. Which may have resulted in different group (foreigners interact together while local students separately). It's okay but it seems less diversified.
- Increase formal opportunity where international students can meet Japanese students.
- While there are many studentas involved to promote international / global campus es. Sclkyu, KUFSa, etc. But not enough support from the university and / or professors. Supervising professors are always busy, international has too many limitations (administration & Budget). We need more support to keep the momentum going.
- I would love if the university could be really internaitonal. I mean either bringring the international students to really enter into the university Japanese culture or bringing the Japanese students to open them elveo to a real internationalization.

(ジェンダー)

- 女性蔑視または女性に対する差別的な見方を公然と口にする教員が減ってほしい。大学の問題ではなく教員個人の品性が問題だとは思います。
- 本調査の性別で「自己申告」の意味がわからない。また、調査したいのであれば、「その他」や「答えたくない」などの選択肢をつくるべきだと思う
- この調査の第一問 性別の選択肢が男 or 女なのは時代に合っていないのでは？ 男、女、その他とかが良いのでは？
- 男女共同参画室のイベントや基幹教育の女性学・男性学は「女」偏重過ぎる。
- I wish the university had a group for LGBT individuals.

(障害・疾患等)

- 持病があることを相談した時の学務の方の対応がとても良かったです。ありがとうございました。
- 車いすの学生も増えているように感じるので、さらに進めてほしい。
- 十分配慮されていると思います。ただ高学年生に対するインクルージョン支援は周知されていない。
- 精神疾患についてももっと配慮がほしい。
- ユニバーサルデザイン研究の講義では障害者への対応として授業のビデオを撮っていたが、あれは他の講義でもすべき事ではないのだろうか。後数ヶ月間 moodle で障害者への対応についての教材が出ていたがかなり内容が長いので見る人は相当少ないと思う。
- 車イスや松葉杖の人でも使えるトイレの数が少なく感じるので、増やしてほしい。（トイレが狭いように感じる）

- 目に見えない障害についても充実してほしい
- 伊都キャンパスは車いすでの移動が難しいキャンパスだと感じることがあります。スロープがある所が多いため、介助者がいれば車いすの移動もできるのですが、スロープの勾配がやや急なことも多く、そうした場合は介助者なしでの移動が難しいのではないかと思います。こうしたことで移動するのに労力がかかることも気になるのですが、時間もかかるため他の学生と同じように昼休みのミーティング等に参加しにくくなることも気になります。
- 特に夜間、照明が少なく、視覚に問題がある身としてはつらい。キャンパス内は階段が多いため、スロープ等の設置、ライトの増設を求める。

(その他)

- ダイバーシティへの理解など耳障りの良いことを言う前にアカハラなどの不祥事への対応をきちんと行うべきではないか
- 障害者支援ピア・サポーター、『障害者』を外して人種・性別・障害まで広げたらいいと思う。
- タバコを吸う吸わないのダイバーシティもあっていいと思う。

九州大学学生支援委員会

委員長 丸野俊一（理事・副学長）

学生生活実態調査実施ワーキンググループ

座 長	玉 田 薫	（副理事）
委 員	三 木 洋一郎	（基幹教育院・教授）
〃	三 浦 功	（経済学研究院・教授）
〃	大 石 徹	（理学研究院・教授）
〃	金 谷 晴 一	（システム情報科学研究院・教授）
〃	中 尾 久 子	（医学研究院・教授）
〃	水 野 清 義	（総合理工学研究院・教授）
〃	田 中 真 理	（基幹教育院・教授）
〃	坂 井 猛	（キャンパス計画室・教授）
〃	福 田 義 勝	（学務部学生支援課長）

2019年度

学生生活実態調査報告書

九州大学

発 行 2020年6月

編集発行 九州大学学務部

印 刷 株式会社 ミドリ印刷



九州大学